

# 前田遺跡

—宇都宮市立上戸祭小学校建設に伴う発掘調査報告—

平成3年3月

宇都宮市教育委員会



〔写真上：前田遺跡全景(西より)〕

〔写真下：左・SI 144、陶器蓋 右・SI 097新羅系土器〕

## 序

戸祭水道山と一般に呼ばれている付近一帯の丘陵地は、古墳時代から奈良、平安時代に至るまでの遺跡が広く分布しています。またその東西をそれぞれ流れる田川、釜川に伴って発達する平地にも野沢式土器の標式地である野沢遺跡をはじめ、多くの遺跡が分布しています。しかし近年の著しい開発により多くの住宅地が増加しつづき、これに伴って市立細谷小学校の児童過密が問題になってきました。そこで上戸祭町内の本地に細谷小学校の分館校を建設することになったわけですが、その予定地に当初予想できなかった大規模な遺跡があることが確認されました。

そこで当教育委員会では、これらの埋蔵文化財を保護する立場から関係各課と協議を行いました。が諸般の事情により発掘調査する止むなきに至りました。15,000㎡に竪穴住居跡161軒、掘立柱建物跡98棟を1年3か月間で調査することは未経験のことでしたが関係各機関、各位の御協力により昭和63年6月に無事終了することができました。その結果をまとめたものが本報告書であり、埋蔵文化財保護に努めるべく本書を広く御活用いただければ幸いです。

末文になりましたが、調査にあたり終始指導いただきました栃木県教育委員会文化課、栃木県立博物館、財団法人栃木県文化振興事業団、及び国士館大学大川清教授、本市文化財保護審議委員会委員嶋静夫、大金宣亮、橋本澄朗各先生に対しまして厚く感謝申し上げる次第でございます。

平成3年3月

宇都宮市教育委員会教育長  
藤田昌平



## 例 言

1. 本書は宇都宮市上戸祭町259番地他に所在する宇都宮市立上戸祭小学校（仮称59小）建設に伴う前田遺跡の記録保存のための発掘調査報告書である。
2. 確認調査は宇都宮市教育委員会が主体となり昭和61年10月21日～同年10月30日までドレンチによる調査を実施した。
3. 本調査は財団法人宇都宮市学校建設公社が費用を負担し、宇都宮市教育委員会が主体となり昭和62年4月2日～昭和63年6月30日まで発掘調査を実施した。
4. 調査面積は15,000㎡で建物以外の校庭部分も調査対象となった。
5. 遺跡における測量、写真撮影等は主に金田信夫、上野とも子、糸永郁美、賀来孝代、法師人俊昭、小林真理の協力を得て定岡明鏡、梁木誠、赤石澤亮、大塚雅之、神野安伸、今平利率がこれにあたった。
6. 遺構、遺物の整理、実測等は主に赤石澤亮、神野安伸、鈴木芳子、大森八重子、大野節子、上野とも子、糸永郁美、賀来孝代、渡辺知枝、金田信夫、横堀聡、福田有史、大塚順子の協力を得て梁木誠、大塚雅之、今平利率がこれにあたった。
7. 本書の執筆は第1章、第2章、第3章第1節（遺構）、第6章第1節を大塚、第3章第1節（遺物）、第4章、第5章、第6章第2節を今平、第3章第1節、第2節を梁木、第3章第3節、第4章（鉄器）を神野が担当し、編集は事務局全員であった。
8. 本遺跡出土の遺物および図面・写真は、すべて宇都宮市教育委員会が保管している。
9. 地形図は建設省国土地理院発行の1/50,000地形図「宇都宮」、1/25,000地形図「大谷」を部分複製した。
10. 発掘調査・整理および本書の作成に際して、次の方々から多大な御援助、御教示を賜った。記して心から感謝の意を表する。（敬称略、五十音順）

赤羽孝浩、秋元陽光、阿久津義正、阿部茂、石橋知明、岩上照朗、岩崎浩恵、岩瀬一夫、植木茂雄、上野修一、江浦洋、大橋泰夫、岡村道雄、金田隆、河合正一、川原由典、菊井和美、北内三喜男、木下実、（故）久保哲三、熊谷淳、倉田英、後藤信祐、小林良之、小森哲也、小森紀男、坂井秀弥、森原祐一、進藤敏雄、鈴木泰浩、芹沢清八、大門直樹、高瀬要一、田熊清彦、竹澤謙、田代隆、田代（大日向）巳佳、巽淳一郎、塚原孝一、塚本師也、津野仁、津布菜一樹、手塚謙弥、冨祐次、中村淳史、中山晋、仲山英樹、野崎進、初山孝行、日賀野宏志、樋口清治、日下田欣一、藤田典夫、細谷繁、本田剛弘、松村恵次、光谷拓実、宮崎光明、宮本長二郎、毛利光俊彦、星代方子、安永真一、安原啓示、柳瀬安榮、山口耕一、山口仁、吉岡秀範、栃木県教育委員会文化課、栃木県文化振興事業団、栃木県立博物館、宇都宮市消防本部、宇都宮市中央消防署、宇都宮市西消防署、宇都宮市南消防署、東京国立博物館、東京国立文化財研究所、奈良国立文化財研究所、日本漢学史研究所、栃木県しもつけ風土記の丘資料館、真岡市教育委員会

〔指導助言〕 国士館大学 教授 大川 清  
 宇都宮市文化財保護審議委員会委員 堀 静夫  
 同 大金直亮  
 同 橋本澄朗

〔事務局〕 宇都宮市学校建設公社理事長 (前) 水沼 操  
 (現) 加藤恒男  
 宇都宮市教育委員会 教育長 (前) 後藤一雄  
 (現) 藤田昌平  
 教育次長 (元) 田中敬夫 (前) 上野 渡 (現) 田辺雄三

総務課 課長 (元) 田中千秋 企画係長 (元) 斎藤知男 企画係 (前) 森崎 繁  
 (前) 堀 義弘 (前) 木村保弘 (前) 栗原義信  
 (現) 道上博司 (現) 木部佳映 (現) 貝沼三雄  
 課長補佐 (前) 鈴木次郎 (現) 矢口充欣  
 (現) 斎藤知男 (現) 田野実栄一

(旧) 社会教育課 (現) 文化課  
 課長 (元) 加藤悦男 課長 河越昌司  
 (元) 塚田隆一 文化振興係長 藤田秀樹 文化財保護係長 定岡明義  
 課長補佐 (元) 河越昌司 文化振興係 白井義雄 文化財保護係 手塚英男  
 (元) 加藤允夫 同 斉藤全男 同 梁木 誠  
 文化振興係長 (元) 小林錦一 同 湯沢孝夫 同 大塚雅之  
 文化振興係 (元) 渡辺 卓 同 小松俊雄 同 神野安伸  
 (元) 赤石澤亮 同 高橋良子 同 今平利幸

調査員補 金田信夫  
 調査協力者 高藤常松、上野とも子、糸永郁美、賀来李代、法師人敏昭、福田有史、小林真理  
 鈴木芳子、大森八重子、大野節子、塚田幸子、渡辺禮子、渡辺知枝、横堀聡、岡  
 陽一郎、河越雅彦、高橋和枝、岩崎美香

調査補助員 青木楓子、安生ミカ、飯野百合子、池田友保、石川加代、(故) 石塚 新、岩永  
 栄次、印南千里、薄井常三、大塚 清、(故) 大塚春二、岡本ヒロ、柏崎キヨ、  
 金田キミエ、亀田 弘、河内淑江、川津みつえ、菊地トシ子、小林栄二、小松寅  
 雄、佐藤節子、佐藤秀雄、島崎熊夫、砂川 隆、関口芳男、高倉圓義、高野典子、  
 高藤利三郎、田中尚子、田畑典子、津浦幸子、塚田辰得、中田順子、野村恵子、  
 橋本正雄、半沢ミネ、半田タミ子、広瀬チカ、福田貴久栄、別井久夫、別井リン、  
 堀田一夫、松井ミツ、(故) 谷中一郎、矢野眞次、山口イナ子、山口久四郎、  
 山本ミツ、吉沢良助、米山タマ

# 目 次

・序 文	
・例 言	
・目 次	
本文目次	
挿図目次	
表 目 次	
図版目次	
第1章 調査の経過	
第1節 発掘調査に至るまでの経過	1
第2節 調査の方法（基本層序）	1
第3節 発掘調査の経過（発掘日誌抄）	6
第2章 位置と環境	
第1節 地理的環境	10
第2節 歴史的環境	10
第3章 調査結果	
第1節 住居跡と出土遺物	17
第2節 掘立柱建物跡、井戸、円形周溝遺構	272
第3節 土坑	302
第4章 その他の遺物	307
第5章 縄文時代の遺物	327
第6章 調査のまとめ	
第1節 遺構について	328
第2節 遺物について	339
・写真 図 版	

## 挿 図 目 次

第1図	前田遺跡位置図	2	第34図	SI012カマド平面図	33
第2図	前田遺跡調査地区図	3	第35図	SI012出土土器	33
第3図	前田遺跡標準土層図	5	第36図	SI013平面図	34
第4図	確認調査時トレンチ配置図	6	第37図	SI013出土土器	34
第5図	前田遺跡周辺遺跡分布図	11	第38図	SI014平面図(1)	35
第6図	前田遺跡遺構配置図	15・16	第39図	SI014標高別遺物平面図(2)	36
第7図	SI001平面図	17	第40図	SI014出土土器	36
第8図	SI002平面図	18	第41図	SI015平面図	37
第9図	SI002出土土器	18	第42図	SI015出土土器	37
第10図	SI003平面図	19	第43図	SI016平面図	38
第11図	SI003出土土器	20	第44図	SI016出土土器(1)	38
第12図	SI004平面図	20	第45図	SI016出土土器(2)	39
第13図	SI004出土土器	20	第46図	SI017カマド平面図	39
第14図	SI005平面図	21	第47図	SI017平面図	40
第15図	SI005出土土器	22	第48図	SI017出土土器(1)	40
第16図	SI006カマド平面図	22	第49図	SI017出土土器(2)	41
第17図	SI006平面図	23	第50図	SI018平面図	42
第18図	SI006出土土器	23	第51図	SI018カマド平面図	43
第19図	SI007平面図	24	第52図	SI018出土土器	43
第20図	SI007出土土器	24	第53図	SI019カマド平面図	44
第21図	SI008平面図	25	第54図	SI019平面図	45
第22図	SI008出土土器(1)	25	第55図	SI019出土土器	46
第23図	SI008出土土器(2)	26	第56図	SI020平面図	46
第24図	SI009平面図	26	第57図	SI020出土土器	46
第25図	SI009出土土器	27	第58図	SI021平面図	47
第26図	SI010平面図	28	第59図	SI021出土土器	47
第27図	SI010カマド平面図	29	第60図	SI022カマド平面図	48
第28図	SI010出土土器	29	第61図	SI022平面図	49
第29図	SI011平面図	30	第62図	SI022出土土器	49
第30図	SI011カマド平面図	30	第63図	SI023平面図	50
第31図	SI011出土土器(1)	30	第64図	SI023出土土器	50
第32図	SI011出土土器(2)	31	第65図	SI024平面図	51
第33図	SI012平面図	32	第66図	SI024カマド平面図	52

第67図 SI024出土土器	52	第102図 SI040出土土器	78
第68図 SI025平面図	53	第103図 SI040平面図	79
第69図 SI025カマド平面図	54	第104図 SI041平面図	80
第70図 SI025出土土器(1)	54	第105図 SI042出土土器	80
第71図 SI025出土土器(2)	55	第106図 SI042平面図	81
第72図 SI026平面図	56	第107図 SI043平面図	82
第73図 SI026出土土器	56	第108図 SI043出土土器(1)	82
第74図 SI027平面図	57	第109図 SI043出土土器(2)	83
第75図 SI027出土土器	58	第110図 SI044平面図	83
第76図 SI028平面図	59	第111図 SI044出土土器	84
第77図 SI028出土土器	59	第112図 SI045平面図	84
第78図 SI029平面図	60	第113図 SI045出土土器	85
第79図 SI029出土土器	60	第114図 SI046平面図	85
第80図 SI030平面図	61	第115図 SI047平面図	86
第81図 SI030出土土器(1)	62	第116図 SI047カマド平面図	87
第82図 SI030出土土器(2)	63	第117図 SI047出土土器	87
第83図 SI031カマド平面図	64	第118図 SI048平面図	88
第84図 SI031平面図	65	第119図 SI048出土土器	88
第85図 SI031出土土器	66	第120図 SI049平面図	89
第86図 SI032平面図	67	第121図 SI049出土土器(1)	90
第87図 SI033平面図	68	第122図 SI049出土土器(2)	91
第88図 SI033カマド平面図	69	第123図 SI050平面図	92
第89図 SI033出土土器(1)	69	第124図 SI050出土土器(1)	92
第90図 SI033出土土器(2)	70	第125図 SI050出土土器(2)	93
第91図 SI034平面図	71	第126図 SI051平面図	94
第92図 SI034出土土器(1)	71	第127図 SI051出土土器	94
第93図 SI034出土土器(2)	72	第128図 SI052平面図	95
第94図 SI035,036平面図	73	第129図 SI053平面図	95
第95図 SI035出土土器(1)	73	第130図 SI053出土土器	96
第96図 SI035出土土器(2)	74	第131図 SI054平面図	97
第97図 SI036出土土器	74	第132図 SI054出土土器	98
第98図 SI037,038平面図	75	第133図 SI055平面図	98
第99図 SI038出土土器	76	第134図 SI055出土土器	98
第100図 SI039平面図	77	第135図 SI056平面図	99
第101図 SI039出土土器	78	第136図 SI056出土土器	100

第137図 SI057平面図	101	第172図 SI073出土土器	124
第138図 SI057出土土器	102	第173図 SI074平面図	125
第139図 SI058平面図	103	第174図 SI074出土土器	126
第140図 SI058カマド平面図	104	第175図 SI075平面図	126
第141図 SI058出土土器	104	第176図 SI075カマド平面図	127
第142図 SI059カマド平面図	105	第177図 SI075出土土器(1)	127
第143図 SI059平面図	106	第178図 SI075出土土器(2)	128
第144図 SI059出土土器	107	第179図 SI076,077平面図	129
第145図 SI060平面図	107	第180図 SI076出土土器	130
第146図 SI060出土土器	108	第181図 SI077出土土器	130
第147図 SI061平面図	108	第182図 SI078平面図	131
第148図 SI061出土土器	108	第183図 SI078カマド平面図	132
第149図 SI062出土土器	109	第184図 SI078出土土器	132
第150図 SI062平面図	110	第185図 SI079平面図	133
第151図 SI063平面図	111	第186図 SI079カマド平面図	134
第152図 SI063出土土器	111	第187図 SI079出土土器	134
第153図 SI064平面図	112	第188図 SI080平面図	135
第154図 SI064出土土器	112	第189図 SI080出土土器	135
第155図 SI065平面図	113	第190図 SI081平面図	136
第156図 SI065出土土器	114	第191図 SI081出土土器	137
第157図 SI066平面図	114	第192図 SI082平面図	138
第158図 SI066出土土器	115	第193図 SI083カマド平面図	138
第159図 SI067平面図	115	第194図 SI083平面図	139
第160図 SI067出土土器	116	第195図 SI083出土土器(1)	139
第161図 SI068平面図	117	第196図 SI083出土土器(2)	140
第162図 SI068出土土器	117	第197図 SI084平面図	141
第163図 SI069平面図	118	第198図 SI084カマド平面図	141
第164図 SI069出土土器	119	第199図 SI084出土土器(1)	141
第165図 SI070平面図	121	第200図 SI084出土土器(2)	142
第166図 SI070出土土器	121	第201図 SI085,086平面図	143
第167図 SI071平面図	122	第202図 SI085,086遺物平面図	144
第168図 SI071出土土器	122	第203図 SI085出土土器	144
第169図 SI072平面図	123	第204図 SI086カマド平面図	145
第170図 SI072出土土器	123	第205図 SI086出土土器(1)	145
第171図 SI073平面図	124	第206図 SI086出土土器(2)	146

第207図 SI086出土土器(3)……………	147	第242図 SI101出土土器……………	175
第208図 SI086出土土器(4)……………	148	第243図 SI102平面図……………	176
第209図 SI086出土土器(5)……………	149	第244図 SI102カマド平面図……………	177
第210図 SI087平面図……………	150	第245図 SI102出土土器……………	177
第211図 SI087カマド平面図……………	151	第246図 SI103平面図……………	178
第212図 SI087出土土器……………	151	第247図 SI103カマド平面図……………	179
第213図 SI088平面図……………	152	第248図 SI103出土土器……………	179
第214図 SI088出土土器……………	153	第249図 SI104平面図……………	180
第215図 SI089平面図……………	154	第250図 SI104出土土器……………	181
第216図 SI089カマド平面図……………	155	第251図 SI105平面図……………	182
第217図 SI089出土土器……………	155	第252図 SI105カマド平面図……………	183
第218図 SI090,091平面図……………	156	第253図 SI105出土土器……………	183
第219図 SI091出土土器……………	157	第254図 SI106平面図……………	184
第220図 SI092カマド平面図……………	157	第255図 SI106カマド平面図……………	184
第221図 SI092平面図……………	158	第256図 SI106出土土器……………	184
第222図 SI092出土土器……………	159	第257図 SI107平面図……………	185
第223図 SI093平面図……………	160	第258図 SI107出土土器……………	186
第224図 SI093出土土器……………	160	第259図 SI108平面図……………	187
第225図 SI094平面図……………	161	第260図 SI108出土土器……………	187
第226図 SI094カマド平面図……………	162	第261図 SI109平面図……………	188
第227図 SI094出土土器……………	162	第262図 SI109カマド平面図……………	189
第228図 SI095平面図……………	163	第263図 SI109出土土器(1)……………	189
第229図 SI095出土土器(1)……………	164	第264図 SI109出土土器(2)……………	190
第230図 SI095出土土器(2)……………	165	第265図 SI109出土土器(3)……………	191
第231図 SI096平面図……………	167	第266図 SI110平面図……………	192
第232図 SI096出土土器……………	167	第267図 SI110出土土器……………	192
第233図 SI097平面図……………	168	第268図 SI111,112平面図……………	193
第234図 SI097出土土器……………	169	第269図 SI111出土土器……………	194
第235図 SI098平面図……………	171	第270図 SI112出土土器……………	194
第236図 SI098出土土器……………	171	第271図 SI113平面図……………	195
第237図 SI099平面図……………	172	第272図 SI113遺物平面図……………	196
第238図 SI099出土土器……………	172	第273図 SI113カマド平面図……………	196
第239図 SI100平面図……………	173	第274図 SI113出土土器……………	196
第240図 SI101平面図……………	174	第275図 SI114平面図……………	197
第241図 SI101カマド平面図……………	175	第276図 SI115平面図……………	198

第277図 SI115出土土器……………	198	第312図 SI131出土土器……………	223
第278図 SI116平面図……………	199	第313図 SI132平面図……………	224
第279図 SI116遺物平面図……………	201	第314図 SI132出土土器(1)……………	224
第280図 SI116カマド平面図……………	201	第315図 SI132出土土器(2)……………	225
第281図 SI116出土土器(1)……………	201	第316図 SI133平面図……………	227
第282図 SI116出土土器(2)……………	202	第317図 SI133出土土器(1)……………	227
第283図 SI116出土土器(3)……………	203	第318図 SI133出土土器(2)……………	228
第284図 SI116出土土器(4)……………	204	第319図 SI134平面図……………	229
第285図 SI116出土土器(5)……………	205	第320図 SI134カマド平面図……………	229
第286図 SI117平面図……………	206	第321図 SI134出土土器……………	229
第287図 SI117出土土器……………	206	第322図 SI135カマド平面図……………	230
第288図 SI118平面図……………	207	第323図 SI135平面図……………	231
第289図 SI118出土土器(1)……………	207	第324図 SI135出土土器……………	232
第290図 SI118出土土器(2)……………	208	第325図 SI136平面図……………	234
第291図 SI119平面図……………	209	第326図 SI136出土土器……………	234
第292図 SI119出土土器(1)……………	209	第327図 SI137平面図……………	235
第293図 SI119出土土器(2)……………	210	第328図 SI137出土土器……………	235
第294図 SI120カマド平面図……………	210	第329図 SI138平面図……………	236
第295図 SI120平面図……………	211	第330図 SI138出土土器……………	236
第296図 SI120出土土器……………	211	第331図 SI139カマド平面図……………	237
第297図 SI122出土土器……………	212	第332図 SI139出土土器……………	237
第298図 SI121,122平面図……………	213	第333図 SI139,140平面図……………	238
第299図 SI123平面図……………	214	第334図 SI140カマド平面図……………	239
第300図 SI123出土土器……………	214	第335図 SI140出土土器(1)……………	239
第301図 SI124,125,127,147平面図……………	215	第336図 SI140出土土器(2)……………	240
第302図 SI124カマド平面図……………	216	第337図 SI141カマド平面図……………	241
第303図 SI124出土土器(1)……………	216	第338図 SI141出土土器(1)……………	241
第304図 SI124出土土器(2)……………	217	第339図 SI141出土土器(2)……………	242
第305図 SI126,128平面図……………	218	第340図 SI141,142,154平面図……………	243
第306図 SI126出土土器……………	219	第341図 SI142出土土器……………	244
第307図 SI127出土土器……………	220	第342図 SI143カマド平面図……………	244
第308図 SI129平面図……………	220	第343図 SI143平面図……………	245
第309図 SI129出土土器……………	221	第344図 SI143出土土器……………	245
第310図 SI130平面図……………	221	第345図 SI144平面図……………	246
第311図 SI131平面図……………	222	第346図 SI144カマド平面図……………	247



第347図 SI144出土土器(1)……………	247	第382図 SI160平面図……………	270
第348図 SI144出土土器(2)……………	248	第383図 前田遺跡遺構配置模式図 ……	274-275
第349図 SI145,146平面図……………	250	第384図 掘立柱建物跡実測図1)……………	276
第350図 SI145出土土器……………	250	第385図 掘立柱建物跡実測図2)……………	277
第351図 SI146出土土器(1)……………	250	第386図 掘立柱建物跡実測図3)……………	278
第352図 SI146出土土器(2)……………	251	第387図 掘立柱建物跡実測図4)……………	279
第353図 SI147出土土器……………	252	第388図 掘立柱建物跡実測図5)……………	280
第354図 SI148カマド平面図……………	252	第389図 掘立柱建物跡実測図6)……………	281
第355図 SI148,149平面図……………	253	第390図 掘立柱建物跡実測図7)……………	282
第356図 SI148出土土器……………	254	第391図 掘立柱建物跡実測図8)……………	283
第357図 SI149カマド平面図……………	256	第392図 掘立柱建物跡実測図9)……………	284
第358図 SI149出土土器(1)……………	256	第393図 掘立柱建物跡実測図10)……………	285
第359図 SI149出土土器(2)……………	257	第394図 掘立柱建物跡実測図11)……………	286
第360図 SI150,152平面図……………	258	第395図 掘立柱建物跡実測図12)……………	287
第361図 SI150カマド平面図……………	258	第396図 掘立柱建物跡実測図13)……………	288
第362図 SI150出土土器……………	258	第397図 掘立柱建物跡実測図14)……………	289
第363図 SI151平面図……………	259	第398図 掘立柱建物跡実測図15)……………	290
第364図 SI151カマド平面図……………	260	第399図 掘立柱建物跡実測図16)……………	291
第365図 SI151出土土器……………	260	第400図 掘立柱建物跡実測図17)……………	292
第366図 SI153平面図……………	261	第401図 掘立柱建物跡実測図18)……………	293
第367図 SI153出土土器……………	261	第402図 掘立柱建物跡実測図19)……………	294
第368図 SI154出土土器(1)……………	262	第403図 掘立柱建物跡実測図20)……………	295
第369図 SI154出土土器(2)……………	263	第404図 掘立柱建物跡実測図21)……………	296
第370図 SI155平面図……………	264	第405図 掘立柱建物跡実測図22)……………	297
第371図 SI155出土土器(1)……………	264	第406図 円形周溝遺構実測図……………	301
第372図 SI155出土土器(2)……………	265	第407図 土坑実測図(1)……………	304
第373図 SI156カマド平面図……………	265	第408図 土坑実測図(2)……………	305
第374図 SI156平面図……………	266	第409図 土坑実測図(3)……………	306
第375図 SI156出土土器……………	267	第410図 土坑出土土器実測図……………	307
第376図 SI157平面図……………	268	第411図 上戸祭大塚瓦葺跡 出土瓦拓影図……………	307
第377図 SI157カマド平面図……………	268	第412図 瓦拓影図(1)……………	310
第378図 SI157出土土器(1)……………	268	第413図 瓦拓影図(2)……………	311
第379図 SI157出土土器(2)……………	269	第414図 瓦拓影図(3)……………	312
第380図 SI158平面図……………	270	第415図 瓦拓影図(4)……………	313
第381図 SI159平面図……………	270		

第416図 瓦拓影図(5) .....	314
第417図 瓦拓影図(6) .....	315
第418図 瓦拓影図(7) .....	316
第419図 瓦拓影図(8) .....	317
第420図 瓦拓影図(9) .....	318
第421図 瓦拓影図(9)④ .....	319
第422図 紡錘車形状分類 .....	319
第423図 紡錘車実測図 .....	320
第424図 鉄製品実測図(1) .....	321
第425図 鉄製品実測図(2) .....	322
第426図 土製品実測図 .....	326
第427図 磁石実測図 .....	326
第428図 石器実測図 .....	326
第429図 縄文土器実測図 .....	327
第430図 縄文時代石器実測図 .....	327
第431図 竪穴住居跡縦横比一覧 .....	328
第432図 代表的な竪穴住居の構築 過程模式図 .....	331
第433図 カマド形態変遷図 .....	334
第434図 2本柱竪穴住居跡の東西 壁長と柱間長一覧 .....	335
第435図 2本柱竪穴住居跡の東西 壁長と柱間長比較 .....	336
第436図 掘立柱建物跡縦横比一覧 .....	337
第437図 1間×1間の掘立柱建物跡 と4本柱竪穴住居跡の 柱間寸法比較 .....	338
第438図 土器分類(1) .....	340
第439図 土器分類(2) .....	343
第440図 土器分類(3) .....	344
第441図 第Ⅰ・第Ⅱa期土器群 .....	354
第442図 第Ⅱb・第Ⅲ期土器群 .....	355
第443図 第Ⅳ～第Ⅴ期土器群 .....	358

## 表 目 次

第1表 前田遺跡周辺古墳一覽表 ……13	第34表 SI031土器觀察表2) ……65
第2表 前田遺跡周辺遺跡一覽表 ……14	第35表 SI033土器觀察表1) ……67
第3表 SI002土器觀察表 ……19	第36表 SI033土器觀察表2) ……68
第4表 SI003土器觀察表 ……20	第37表 SI034土器觀察表 ……72
第5表 SI004土器觀察表 ……21	第38表 SI035土器觀察表 ……72
第6表 SI005土器觀察表 ……22	第39表 SI036土器觀察表 ……74
第7表 SI006土器觀察表 ……23	第40表 SI038土器觀察表 ……76
第8表 SI007土器觀察表 ……24	第41表 SI039土器觀察表 ……78
第9表 SI008土器觀察表 ……26	第42表 SI040土器觀察表 ……78
第10表 SI009土器觀察表 ……27	第43表 SI042土器觀察表 ……80
第11表 SI010土器觀察表 ……29	第44表 SI043土器觀察表 ……81
第12表 SI011土器觀察表 ……31	第45表 SI044土器觀察表 ……84
第13表 SI012土器觀察表 ……33	第46表 SI045土器觀察表 ……85
第14表 SI013土器觀察表 ……35	第47表 SI047土器觀察表 ……88
第15表 SI014土器觀察表 ……36	第48表 SI048土器觀察表 ……88
第16表 SI015土器觀察表 ……37	第49表 SI049土器觀察表1) ……90
第17表 SI016土器觀察表 ……39	第50表 SI049土器觀察表2) ……91
第18表 SI017土器觀察表 ……41	第51表 SI050土器觀察表 ……93
第19表 SI018土器觀察表 ……44	第52表 SI051土器觀察表 ……94
第20表 SI019土器觀察表 ……45	第53表 SI053土器觀察表 ……96
第21表 SI020土器觀察表 ……47	第54表 SI054土器觀察表 ……96
第22表 SI021土器觀察表 ……48	第55表 SI055土器觀察表 ……99
第23表 SI022土器觀察表 ……48	第56表 SI056土器觀察表 ……100
第24表 SI023土器觀察表 ……51	第57表 SI057土器觀察表1) ……100
第25表 SI024土器觀察表 ……53	第58表 SI057土器觀察表2) ……101
第26表 SI025土器觀察表 ……55	第59表 SI058土器觀察表1) ……104
第27表 SI026土器觀察表 ……57	第60表 SI058土器觀察表2) ……105
第28表 SI027土器觀察表 ……58	第61表 SI059土器觀察表 ……105
第29表 SI028土器觀察表 ……58	第62表 SI060土器觀察表 ……108
第30表 SI029土器觀察表 ……60	第63表 SI061土器觀察表 ……109
第31表 SI030土器觀察表1) ……63	第64表 SI062土器觀察表 ……109
第32表 SI030土器觀察表2) ……64	第65表 SI063土器觀察表 ……111
第33表 SI031土器觀察表1) ……64	第66表 SI064土器觀察表 ……113

第67表	SI065 土器觀察表	113	第102表	SI099 土器觀察表	173
第68表	SI066 土器觀察表	114	第103表	SI101 土器觀察表	174
第69表	SI067 土器觀察表	116	第104表	SI102 土器觀察表	176
第70表	SI068 土器觀察表	117	第105表	SI103 土器觀察表	179
第71表	SI069 土器觀察表(1)	119	第106表	SI104 土器觀察表(1)	180
第72表	SI069 土器觀察表(2)	120	第107表	SI104 土器觀察表(2)	181
第73表	SI070 土器觀察表	120	第108表	SI105 土器觀察表(1)	183
第74表	SI071 土器觀察表	122	第109表	SI105 土器觀察表(2)	184
第75表	SI072 土器觀察表	123	第110表	SI106 土器觀察表	185
第76表	SI073 土器觀察表	123	第111表	SI107 土器觀察表	186
第77表	SI074 土器觀察表	124	第112表	SI108 土器觀察表	187
第78表	SI075 土器觀察表	128	第113表	SI109 土器觀察表	191
第79表	SI076 土器觀察表	128	第114表	SI110 土器觀察表	193
第80表	SI077 土器觀察表	130	第115表	SI111 土器觀察表	194
第81表	SI078 土器觀察表	131	第116表	SI112 土器觀察表	194
第82表	SI079 土器觀察表	134	第117表	SI113 土器觀察表	195
第83表	SI080 土器觀察表	135	第118表	SI115 土器觀察表	197
第84表	SI081 土器觀察表	137	第119表	SI116 土器觀察表(1)	199
第85表	SI083 土器觀察表	138	第120表	SI116 土器觀察表(2)	200
第86表	SI084 土器觀察表	142	第121表	SI117 土器觀察表	205
第87表	SI085 土器觀察表	142	第122表	SI118 土器觀察表	208
第88表	SI086 土器觀察表	149	第123表	SI119 土器觀察表	210
第89表	SI087 土器觀察表	152	第124表	SI120 土器觀察表	212
第90表	SI088 土器觀察表	153	第125表	SI122 土器觀察表	212
第91表	SI089 土器觀察表	155	第126表	SI123 土器觀察表	214
第92表	SI091 土器觀察表	157	第127表	SI124 土器觀察表	217
第93表	SI092 土器觀察表(1)	159	第128表	SI126 土器觀察表	219
第94表	SI092 土器觀察表(2)	160	第129表	SI127 土器觀察表	220
第95表	SI093 土器觀察表	161	第130表	SI129 土器觀察表	221
第96表	SI094 土器觀察表	163	第131表	SI131 土器觀察表	223
第97表	SI096 土器觀察表(1)	165	第132表	SI132 土器觀察表	226
第98表	SI095 土器觀察表(2)	166	第133表	SI133 土器觀察表(1)	226
第99表	SI096 土器觀察表	166	第134表	SI133 土器觀察表(2)	227
第100表	SI097 土器觀察表	170	第135表	SI134 土器觀察表	230
第101表	SI098 土器觀察表	170	第136表	SI135 土器觀察表	233

第137表 SI136 土器観察表	234	第171表 鉄製品 (鍾)	322
第138表 SI137 土器観察表	236	第172表 鉄製品 (鑄先)	322
第139表 SI138 土器観察表	237	第173表 鉄製品 (刀子)	323
第140表 SI139 土器観察表	237	第174表 鉄製品 (釘)	323
第141表 SI140 土器観察表	241	第175表 鉄製品 (鐵)	323
第142表 SI141 土器観察表	242	第176表 鉄製品 (火打金)	324
第143表 SI142 土器観察表	244	第177表 鉄製品 (轆)	324
第144表 SI143 土器観察表	245	第178表 鉄製品 (銳具)	324
第145表 SI144 土器観察表	249	第179表 鉄製品 (蹄鉄)	324
第146表 SI145 土器観察表	249	第180表 不明鉄製品	324
第147表 SI146 土器観察表	251	第181表 砥石観察表	325
第148表 SI147 土器観察表	251	第182表 貯蔵穴の時期別出現率一覽	330
第149表 SI148 土器観察表	255	第183表 粘土を持つ住居跡の時期別 出現率一覽	332
第150表 SI149 土器観察表(1)	255	第184表 土器供伴関係表(1)	350
第151表 SI149 土器観察表(2)	256	第185表 土器供伴関係表(2)	351
第152表 SI150 土器観察表	259	第186表 土器供伴関係表(3)	352
第153表 SI151 土器観察表	260	第187表 器種消長表	361
第154表 SI153 土器観察表	262		
第155表 SI154 土器観察表	263		
第156表 SI155 土器観察表	263		
第157表 SI156 土器観察表(1)	265		
第158表 SI156 土器観察表(2)	266		
第159表 SI157 土器観察表	267		
第160表 掘立柱建物跡の形態と規模	272		
第161表 掘立柱建物跡及び竪穴住居 跡との重複関係	273		
第162表 掘立柱建物跡一覽(1)	297		
第163表 掘立柱建物跡一覽(2)	298		
第164表 掘立柱建物跡一覽(3)	299		
第165表 掘立柱建物跡一覽(4)	300		
第166表 土坑一覽(1)	302		
第167表 土坑一覽(2)	303		
第168表 瓦観察表(1)	308		
第169表 瓦観察表(2)	309		
第170表 紡錘車観察表	320		

## 图版目次

图版 1	前田遺跡周辺航空写真	
图版 2	前田遺跡全景	
图版 3	(1) 前田遺跡垂直写真(1)	(2) 前田遺跡垂直写真(2)
图版 4	(1) SI001	(2) SI002
图版 5	(1) SI005	(2) SI006
图版 6	(1) SI007,161	(2) SI008
图版 7	(1) SI010	(2) SI011
图版 8	(1) SI012, 円形周溝遺構	(2) SI013
图版 9	(1) SI015	(2) SI016
图版 10	(1) SI017	(2) SI018
图版 11	(1) SI021	(2) SI023
图版 12	(1) SI024	(2) SI025
图版 13	(1) SI027	(2) SI028
图版 14	(1) SI030	(2) SI031
图版 15	(1) SI032	(2) SI033
图版 16	(1) SI035,036	(2) SI039
图版 17	(1) SI040	(2) SI043
图版 18	(1) SI044	(2) SI045
图版 19	(1) SI047	(2) SI049
图版 20	(1) SI050	(2) SI051,052
图版 21	(1) SI054	(2) SI055
图版 22	(1) SI056	(2) SI057
图版 23	(1) SI058	(2) SI059
图版 24	(1) SI061,062	(2) SI067
图版 25	(1) SI074	(2) SI075
图版 26	(1) SI076,077	(2) SI078
图版 27	(1) SI079	(2) SI081
图版 28	(1) SI083	(2) SI085
图版 29	(1) SI086	(2) SI088
图版 30	(1) SI092	(2) SI095,096
图版 31	(1) SI097	(2) SI098,099
图版 32	(1) SI104	(2) SI105
图版 33	(1) SI109,110	(2) SI113

図版 34	(1) SI116	(2) SI117	
図版 35	(1) SI118	(2) SI119,120	
図版 36	(1) SI122	(2) SI129	
図版 37	(1) SI131	(2) SI132	
図版 38	(1) SI133	(2) SI134	
図版 39	(1) SI135	(2) SI136	
図版 40	(1) SI139,140	(2) SI141,142,154	
図版 41	(1) SI144	(2) SI148	
図版 42	(1) SI151	(2) SI156	
図版 43	(1) SI157	(2) SI159	
図版 44	(1) SI006 カマド	(2) SI007 カマド	(3) SI012 カマド
	(4) SI017 カマド	(5) SI019 カマド	(6) SI022 カマド
図版 45	(1) SI025 カマド	(2) SI027 カマド	(3) SI033 カマド
	(4) SI033 カマドソデ除去	(5) SI044 カマド	(6) SI057 カマド
図版 46	(1) SI059 カマド	(2) SI075 カマド	(3) SI078 カマド
	(4) SI079 カマド	(5) SI081 カマド	(6) SI084 カマド
図版 47	(1) SI086 カマド	(2) SI087 カマド	(3) SI092 カマド
	(4) SI092 カマド	(5) SI092 カマド用石材	(6) SI097 カマド
図版 48	(1) SI102 カマド	(2) SI106 カマド	(3) SI109 カマド
	(4) SI118 カマド	(5) SI124 カマド	(6) SI135 カマド
図版 49	(1) SI141 カマド	(2) SI143 カマド	(3) SI153 カマド
	(4) SI157 カマド		
図版 50	(1) SB01	(2) SB02,03	
図版 51	(1) SB17	(2) SB18	
図版 52	(1) SB19	(2) SB23,24	
図版 53	(1) SB24,25	(2) SB26,28,29	
図版 54	(1) SB30	(2) SB35,36	
図版 55	(1) SB40,41,42,43,44	(2) SB41,42,43,44,45	
図版 56	(1) SB50,55,56	(2) SB51	
図版 57	(1) SB57,58	(2) SB65	
図版 58	(1) SB67	(2) SB69,70,71, 井戸跡	
図版 59	(1) SB73,74,75	(2) SB76,77	
図版 60	(1) SB80	(2) SB84,85	
図版 61	SI002,004,005,006,009,010,011 出土遺物		
図版 62	SI011,012,013,015,016,022 出土遺物		

图版	63	SI017,018,019,020,024	出土遺物
图版	64	SI025,027,030	出土遺物
图版	65	SI030	出土遺物
图版	66	SI031	出土遺物
图版	67	SI031	出土遺物
图版	68	SI033	出土遺物
图版	69	SI034,035,036	出土遺物
图版	70	SI039,040,047,049	出土遺物
图版	71	SI049	出土遺物
图版	72	SI050,057	出土遺物
图版	73	SI058,059,061,064,067	出土遺物
图版	74	SI067,069,070,071,074	出土遺物
图版	75	SI075,076,079,081	出土遺物
图版	76	SI083,085,086	出土遺物
图版	77	SI086	出土遺物
图版	78	SI086	出土遺物
图版	79	SI087,088,089	出土遺物
图版	80	SI092,093,094,095	出土遺物
图版	81	SI095,096	出土遺物
图版	82	SI097,098,099,104,105	出土遺物
图版	83	SI106,107,109	出土遺物
图版	84	SI109,111,113	出土遺物
图版	85	SI115,116	出土遺物
图版	86	SI116	出土遺物
图版	87	SI116,117,118,119	出土遺物
图版	88	SI120,122,124	出土遺物
图版	89	SI132	出土遺物
图版	90	SI133,135,136,137,140	出土遺物
图版	91	SI140,141,142	出土遺物
图版	92	SI144,145,146,149	出土遺物
图版	93	SI149,150,154,155	出土遺物
图版	94	SI155,156,157	出土遺物
图版	95	墨書土器	
图版	96	瓦(1)	
图版	97	瓦(2)	



图版 98 纺锤车、铁器(1)

图版 99 铁器(2)

## 第1章 調査の経過

### 第1節 発掘調査までの経過

前田遺跡（仮称宇都宮市立第59小学校建設予定地内遺跡・宇都宮市上戸祭町前田）は宇都宮市埋蔵文化財報告 第10集「宇都宮の遺跡」（昭和58年）には未記載の所謂周知の遺跡ではなかった。これは釜川低地から宇都宮丘陵へのなだらかで、南北に細長い遺跡を包含する斜面はかなり以前から水田として利用されており灌漑期の遺物表採が不可能なこと、比重の関係で遺物は作土中に沈下しやすいことなどにより、分布調査の際確認が困難であった。しかしその反面、深耕されることなくまた水田の平坦面を造成する際に旧地形に盛土されている箇所も多く、そのため遺構の保存は極めて良好であった。

この地に開発の目が向けられ始めたのは、市立細谷小学校の児童過密問題に端を発する。細谷小は昭和58年現在、児童数1,579名、39クラスの市内最大規模の学校であった。このような実情に対し昭和49年頃から地域住民による過密解消のための運動が始まり、昭和55年には新設分離の請願書が提出され採択となった。この頃より学校用地の本格的検討がなされてきたが、住宅地化の進む細谷地区で20,000㎡に及ぶ学校用地を確保するのは極めて困難であった。しかし最終的には3か所の候補地の中から昭和59年、日光街道東側の上戸祭町前田にその用地が決定された。

小学校建設が確定した昭和61年、宇都宮市教育委員会総務課職員と当事務局職員により現地踏査を行ったところ畦畔に沿って多少の土師器片が散見された。5㎡以上の大規模開発に該当はしないものの、開発主体が市役所という公共事業であるという点と、付近に水道山瓦窯跡群、戸祭大塚古墳、野沢遺跡、長岡横穴群等の遺跡が分布するを鑑みトレンチ掘削による確認調査を同年10月21日から31日まで実施した。その結果多数の遺物、遺構が確認され記録保存のため小学校建設予定地を発掘調査することで緊急に市関係各課と協議に入った。特に小学校建設の日程に関しては、この用地の段差の処理と釜川改修とも絡んで初めから造成期間を2年間という余裕を持って計画されていたことにより、発掘調査による建設スケジュールの遅延は避けることができた。しかし調査期間はこの遺跡の規模と比較して充分にとることができず、現在までの発掘体制、調査方法から短期間で科学的レベルを落とさない大規模調査の方法について検討を行った。

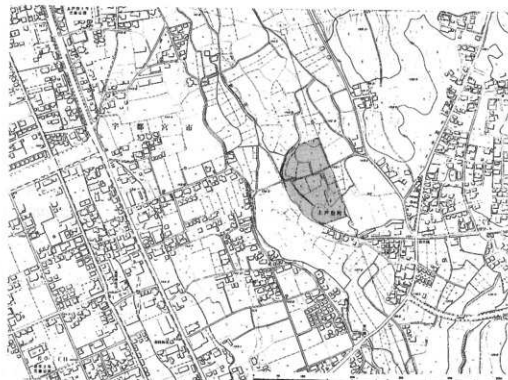
### 第2節 調査の方法

確認調査の結果をふまえて釜川左岸の低地を除いた段丘上、東西最大幅約110m南北約170mの台形状を呈する15,000㎡を調査区と設定した。この調査区のほぼ中央を東西に横断する市道2361号があり、調査区を南北に分断しているため便宜上これを境に北地区、南地区と呼称することにした。なおこの市道は、北地区辺縁部の調査終了後、仮周回路の完成を待って撤去され、その下部も調査対象となった。



第1図 前田車站位置図

(国土地理院N J-54-30-1)



第2図 前田遺跡調査地区図

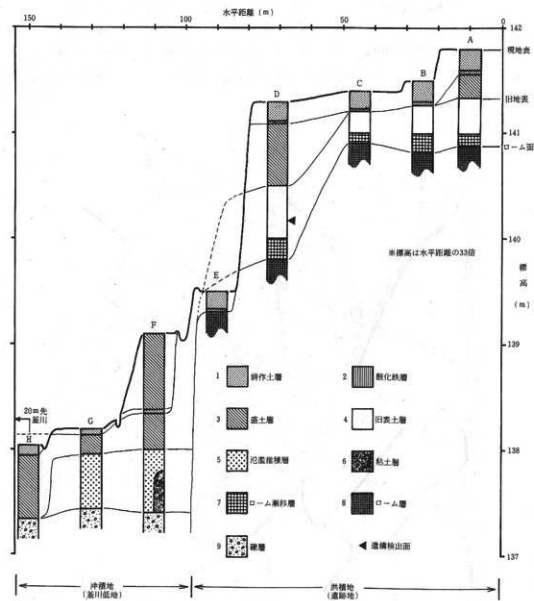
発掘調査は北地区、南地区、中央道路地区の順に行い、発生土は土砂流失防止用擁壁に囲まれた釜川低地上に留置した。規模の別に短期間の調査という関係から排土は重機によって行ったが、確認調査の結果から第4層（旧表土、黒土）の遺構検出面直上までとした。それ以降の遺構検出作業には、すべて人力（ジョレン）により数センチずつ削ぐように排土していった。すべての遺構は第7層（ローム漸移層）に達する直上までに検出することができたが、遺物の一部に重機による排土の際、上部を切削されたものがあつたことは誠に残念である。グリッドは10m間隔に基準杭を設置した。第1基準杭は調査区の北東コーナーの宇都宮市官民境界杭（コンクリート製）から移動し、東西方向に北からアラビア数字を配し、地区名は北東コーナーの杭名（F-9等）と呼ぶことにした。グリッドの南北軸は方位磁石により磁北を合致させた。標高は調査地北東20m地点の東京電力第18号鉄塔直下の基準杭（基・3 コンクリート製142.500m）から北地区に4点、南地区に4点とそれぞれベンチマークを設定した。

#### 基本層序

前田遺跡の土層は地形や土地利用の特徴から各地点一様でなく、また洪積台地の段丘遷移点でもあることから複雑である。しかし標準的に土層は以下の9層に分けることができる。

- 1 耕作土層 黒色を呈する。有機物を多量に含み柔らかい。調査直前まで水稲栽培を行っており、毎年攪乱を受けていた土層である。層厚12～20cm。
- 2 酸化鉄集積層 赤褐色を呈し緻密である。緻密には酸化鉄集積層と勸床層はわけるべきであるが、しかし近年まで使用されていた水田であり遺跡への直接的な関係が認められないのであえて同一に扱っている。
- 3 盛土層 黒褐色を呈し粘性に富む。後世の水田をつくる際に盛ったと思われる土層でその下の4・旧表土層が窪んでいたり、水平面から段をなして下がる箇所などに厚く堆積している傾向がある。
- 4 旧表土層 黒色を呈し、しまりがある。随所にSP、IPが少量混入する。遺物包含層である。層厚15～50cm。
- 5 氾濫堆積層 黒色を呈するが均質に砂が少量混入する。湿り気が強く、釜川氾濫の際に上流から運ばれてきた土砂が堆積した層と推測される。
- 6 粘土層 乳白色を呈し極めて海次の連んだきめ細やかな粘土ある。第5層と同様に水性堆積物である。母岩はこの付近に分布する凝灰岩（長岡石）と思われる。
- 7 ローム漸移層 黄褐色を呈しローム粒子、SP、IPが混入する。強い粘性を有する。
- 8 ローム層 黄色を呈し固結性、粘性を有する。上層にはSP、IPが散見される程度で（田原ローム）層を成さない。なお調査地より北西約500mの戸祭赤坂標式地でSP、IPが各30、40cm堆積しているが、この付近が市内で層を成すほぼ南限である。
- 9 礫層 釜川低地に伴う礫層で大小混在し、ともに円礫である。

※ SP：七本桜軽石（層） IP：今市軽石（層）

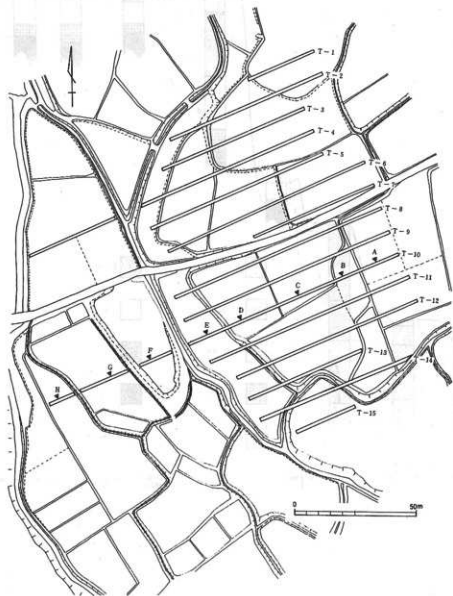


第3図 標準土層図

#### 発掘調査の経過

昭和61年10月21日～同年10月31日 トレンチ掘削による確認調査

トレンチは建設予定地の北辺に沿って東西方向(E14°N)に10mおきに15本設定した。その結果地表から0.5～1.7m付近に遺構面を確認した。これらは、土師器片、須恵器片を伴出し、遺構の分布密度から集落の規模を竪穴住居跡95軒、堀立柱建物跡10棟、土坑50基等が包蔵されると推定した。その他の所見として益川左岸の河岸段丘に見えた段差は、後世の水田造成のための削平と盛土によるものであることが判明した。



第4図 確認調査時トレンチ配置図(A～Hの各ポイントは標準土層採取点を示す)

これはローム面と旧地表面が約2%勾配でほぼ平行して傾斜しているのに対し、現地形はそれに従順せず水田の平坦面と段差が交互にあり所謂階段状を呈する。すなわち当時の地表は現在の様相と異なり少なくとも釜川低地の縁までは2%勾配の緩斜面であったということが推察できる。釜川沖積低地は網島面に



発掘調査状況

比定されるもので、田原ローム以下3層のローム層を欠き、表土のすぐ下はすぐ礫層となる。この低地の表土は主に砂礫の河川堆積層で、その他河川改修に伴うと思われる盛土などが見られ、遺構は確認されなかった。これは釜川低地が現在に至っても豪雨のたびに冠水することから考えて、当時もこのような事態が頻繁で住居を建てるのに適さなかったことによるものと思われる。以上の調査結果より発掘調査区域を、釜川東岸の沖積地を除く学校建設予定地面積の約58.8%、約15,000㎡に決定した。

昭和62年4月2日～昭和63年6月30日 全面排土による本調査

——発掘日誌抄——

4月1日

本庁及び現場において直前の調査計画検討会を行う。迅速にしかも正確に調査を終了するための工夫、技術等に重点がおかれた。

4月2日

調査作業員による排土作業開始。北地区において遺構検出面の確認を行い、重機による排土の深さを決定する。重機導入（4月27日迄）。

4月11日

重機で遺構検出面直上まで削いだ後、ジョレンにて人力で排土。その結果、北地区で整穴住居跡44軒を確認する。予想どおりの高密度である。またそれに伴い土器片も多量に出土する。

4月27日

S I 011、S I 037、S I 038の3軒の排土を開始する。住居の切り合いは北地区で3か所あるが、調査は予定通り順調に進行する。

5月18日

真岡市教育委員会から法師人飯沼氏が研修のため調査に参加する。



北地区遺構確認作業状況



5月26日

国土館大学 大川清教授、早稲田大学 久保哲三教授、宇都宮市文化財保護審議委員橋本遼朗氏により発掘調査技術等の指導を受ける。

6月19日

南地区において遺構確認作業と全景写真を撮影する。

6月23日

南地区の遺構配置図を作成する。これにより110軒の竪穴住居跡を確認する。

6月24日

北地区の全景写真撮影のため全域清掃を行う。

6月26日

南地区の調査に入る。S1039排土開始。

7月10日

夜間の豪雨により掘りあげた遺構内に泥土が多量に堆積したため、その排土作業を行う。

8月8日～23日

調査作業員2週間の夏期休暇に入り排土作業は一時停滞するが調査員と一部の作業員は測量作業及び写真撮影を継続する。

9月10日

夜間、集中豪雨により釜川氾濫。事務所床上浸水、遺構に泥土が多量に堆積する。

9月11日

浸水被害復旧作業。主に遺構内の堆積泥土排土作業。

11月9日

北側外周道路工事開始。調査区の一部が作業終了。

12月10日

第1回目 航空撮影。北地区の排土がほぼ終了し、冬の霜の影響が入る状態の前に撮影を行う。

12月15日～昭和63年3月1日

霜のための作業効率低下と低温による健康への影響を考慮し、調査作業員冬期休暇とする。ただ調査員と一部の作業員は測量作業、写真撮影等を継続する。

昭和63年2月16日

北側外周道路の完成を待って、調査区中央を横断する市道2361号の排除作業が開始される。



南地区遺構確認状況



遺構の調査状況



S1011調査状況

2月17日

調査検討会を開き宇都宮市中央、西、南の各消防署及び本部より職員16名を迎え、主に焼失住居跡の調査方法について意見をいただく。

3月4日

調査区中央の市道2361号の排除作業が完了しその下の遺構精査作業を開始する。11軒の壁穴住居跡を確認する。これによって調査区全体の壁穴住居跡は161軒となった。

3月26日～4月3日

年度末年度始休暇。調査員と一部の作業員は測量作業、図面化作業を継続する。

3月28日

第2回目 航空撮影。調査区中央道路の排除後で調査区全域の写真が得られる。

6月13日

調査作業員による排土作業はほぼ終了する。土坑、ピットの遺構全域図化作業を開始する。

6月20日

排土作業完全終了。

6月27日

国士館大学 大川清教授、宇都宮市文化財保護審議委員 埴静夫、大金亮亮、橋本澄朗各氏より調査結果についての指導をいただく。

6月29日

第3回目最終の航空撮影。調査区全域にわたって調査終了した遺跡の全体写真が得られた。

6月30日

測量、写真撮影を含む全調査終了。

7月3日

調査区の埋めもどしが行われる前に、遺跡現地説明会を実施した。市民約200名が来訪し、発掘調査の成果を公表した。



発掘調査関係者



委員の先生方による現地指導状況



遺跡現地説明会の風景

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

栃木県の地形は北西の山間部から南東の平野部へと徐々に高度を下げつつ変化しているが、諸河川によりその地形の幅斜変換地点付近に広大な複合扇状地が形成されている。宇都宮市はその扇端にあたり、「七水」に代表されるような溪口性を示している。この付近の扇状地は旧大谷川によって形成されたものであるが、それ以降河川の侵食により台地と低地が南北に平行して発達している。また北部の高館山地より市内の八幡山に向けて宇都宮丘陵が南北に細長く貫入する。この宇都宮丘陵は横山付近で南部と北部に分けられるが、これは丘陵の西側を南流する田川がこの横谷をつくって東側へ横断しているためである。宇都宮丘陵南部は東側と北側を田川低地、西側を釜川低地に挟まれ、それに伴う両河川は横山より約6.5km南方の市街地にて合流する。そのため宇都宮丘陵南部はほぼ三角形を呈している。

丘陵の標高は約160～205mで平地から40～60mの比高がある。丘陵の西側斜面は5～10°で緩やかであるが、東側は田川による側方侵食が進んでおり30～45°の急斜面が多く、開折谷も細かく発達している。丘陵の基盤は第三系中新世の堆積岩（凝灰岩・凝灰質砂岩・泥岩）よりなり、古代サメの歯や二枚貝類、樹木等の化石を産出する。上部には第三紀以降のロームを乗せているが、随所に凝灰岩等の露頭があり栃木県指定史跡長岡百穴はそこに埋り込まれたものである。釜川低地は源流を宝木本町悟理道及び野沢町付近にもつ釜川に伴って発達しており田川のような侵食崖はない。この付近で低地の幅は約75m、田川に合流する直前の宇都宮市街地付近で約500mであり全長約6.5kmの低地である。

前田遺跡は上戸祭町259番地他に所在し、宇都宮市の市街地から北西へ約4kmの地点である。宇都宮丘陵南部から釜川低地へかけての西側緩斜面上に立地し、遺跡は標高138～141mに分布しており、釜川と宇都宮丘陵に沿って南北に調査区外へ広がる様相を呈している。この付近は釜川低地とその東側に沿った緩斜面を利用して水田が広がり現在でも水稻耕作が盛んであるが、本遺跡東の丘陵は開発の波が押しよせており、大規模な住宅団地も現在造成中である。

### 第2節 歴史的環境

本遺跡の周辺地域には縄文時代から奈良、平安時代に至る遺跡が広く分布している。地形別みると釜川の源流のひとつである野沢町付近では、本県弥生中期の標式土器で知られる野沢遺跡や野沢北、野沢石塚遺跡がある。田川、釜川の両低地、及び宇都宮丘陵に至る緩斜面には縄文時代から古墳、奈良時代にわたる集落跡、散布地が多く分布している。また丘陵上には瓦葺古墳群をはじめ平坦面には集落跡が分布し、現在多くの畑等の耕作地に利用されている。しかし発掘調査が行われている例は少なく、表層遺物等により時期が多少推測できるものもあるが遺跡の規模や性格については不明なものがほとんどである。また釜川西側の宝木台地も戦後急速に宅地化が進み、



第5図 前田遺跡周辺遺跡分布図（図内の番号は宇都宮市遺跡台帳による）

現在ではその分布の確認は困難である。そこでここではある程度規模性格等が判明しているものについて、そして本遺跡との関連を考える上で必要と思われる遺跡について以下概述する。

#### (1) 古墳時代

##### ① 集落跡

関堀遺跡(45)は南流する田川が瓦谷町付近において宇都宮丘陵を東西に横断し、市街地に向けさらに流下するその屈曲部の左岸、段丘上に位置する。標高は約135mで段丘下面からの比高は約5mである。現在は水田として利用されているが、かつて開田中に壘、杯、高杯、甌などの多量の土師器が出土している。これらの資料から古墳時代後期を中心とした集落とみられている。その他管理部羅遺跡(42)、上の台遺跡(43)、上戸祭中ノ島遺跡(50)、田向遺跡(63)も田川、釜川の形成した沖積地からあまり比高のない段丘上に位置している。しかし関堀遺跡を除く上記の4遺跡は土師器、須恵器の小破片がほとんどで時期を特定するのは少々難があると思われる。遺跡の立地するもうひとつの傾向は、沖積低地からの比高のある宇都宮丘陵上の平坦面あるいは緩斜面に位置するものである。桜畑遺跡(38)、欠の上遺跡(39)、瓦塚日満北久保遺跡(40)、百穴裏遺跡(40)、松ヶ丘遺跡(59)は標高130~180mに位置し比高は10~30mである。その中でも日満遺跡については昭和55年に発掘調査が行われ、縄文時代中期の土坑15基、奈良時代の竪穴住居5軒が確認されている。古墳の分布については田川に沿って南北に連る傾向があり、茂原町、東谷町付近と共に密度が高い地域である。特に田川の右岸と釜川の左岸、すなわち田川と釜川に囲まれた宇都宮丘陵南部に集中する。また市南部の茂原、東谷地区と異なる占地上の特徴は平地から10~50mの比高を有する丘陵上という点である。

##### ② 古墳

本遺跡周辺の丘陵上の古墳は、ほとんどが後期に属するもので内部主体は凝灰岩等の堆積岩による横穴式石室である。宇都宮丘陵におけるこれらの古墳のなかでも御蔵山古墳と横穴式石室を持つ古墳の初期と考えられる権現山古墳がそれぞれ丘陵の南端と北端に位置しており、また前方後円墳も丘陵の南部と北部に集まる傾向を示している。そしてその中間地域に円墳群が占地することが分布上の特徴として挙げることができる。またこれらの古墳は低地及び平坦面からかなりの比高があり、丘陵深部に立地する古墳でも必ず眺望が開けている方向をもつことから、立地を選定する条件のひとつにこの眺望が良好であるということが考慮された可能性が挙げられる。ただ長岡百穴については必ずしもこの条件には当てはまらない。平坦部(現在の水田面)からの比高が最もあるもので約7m(第31号横穴墓)であり、丘陵上にある他の古墳と比較すると極端に比高差がない。また宇都宮丘陵南部を東に向かって開析する谷のほぼ中央にあり、周囲を尾根にかこまれ眺望は全くきかない。これは岩盤の露頭に工作を施すという作業上の必然性が大きく影響しているものと思われる。

No	名称	形態	全長(m)	主体部	石室材質	備考
44	宮下古墳	前方後円墳	43	片袖型横六式	凝灰質砂岩	6C後半代
	宮下2号墳	円墳		横六式	*	
	雷電山古墳	前方後円墳	41	両袖型横六式	*	割石
	梅原山古墳	前方後円墳	55	袖無型横六式	凝灰岩	割石
	北の入2号墳	円墳	不明	T字型横六式	凝灰質砂岩?	権現山1号墳
	北の入3号墳	*	不明	不明	*	斜面に礫石露出
	北の入4号墳	*	不明	不明	不明	権現山3号墳
53	長岡百穴	横穴	—		凝灰岩	
54	瓦塚古墳	前方後円墳	45	両袖型横六式	*	切石
	瓦塚25号墳	円墳	18	横六式	*	
	瓦塚29号墳	*	40	両袖型横六式	*	割石
	瓦塚32号墳	*	14	T字型横六式	砂質凝灰岩	長岡石割石
48	浮ノ森古墳	前方後円墳?	不明	不明	不明	
55	谷口山古墳群	円墳5基	10	不明	不明	
57	大塚古墳	円墳	53	横六式	砂質凝灰岩	割石
58	大ジノ古墳群	*	15-17	*	凝灰岩	切石
68	山本山1号墳	*	16	横六式?	不明	
	山本山2号墳	*	18	両袖型横六式	緑色凝灰岩	石材に削痕
69	御蔵山古墳	前方後円墳	60?	不明	不明	
344	戸原堂塚古墳群	円墳6基			不明	不明
	兜塚古墳	円墳	30	横六式?	不明	
345	覆雲寺境内古墳	前方後円墳	40	不明		石材一部露出
346	宇都宮タワー前古墳	円墳?	不明	横六式	凝灰岩	切石

第1表 周辺古墳一覧表

## (2) 奈良時代

南部宇都宮丘陵付近には瓦谷、瓦塚、根瓦、釜(窯?)川などの地名が散見され古来から窯業との結びつきが考えられる。事実、この付近には窯跡が多く存在しており、現在確認されている窯跡だけでも6か所(そのうち1か所は江戸時代末期の窯跡)と本県でも大規模な窯業地帯の一つである。南部宇都宮丘陵の戸祭町付近は、通称「水道山」と呼ばれており、その南から南西麓にかけて瓦窯群がある。この水道山瓦窯群(65)は昭和初期から知られるところであり、発掘調査も昭和37, 52, 55年の3次にわたり行われている。また釜川をはさんだ対岸には根瓦瓦窯群(64)が昭和51年に再発見され確認調査が行われているし、昭和62年には前田遺跡東方約500mの大塚古墳直下において瓦窯跡1基が住宅建築のため発見された。この上戸祭大

塚瓦窯跡(388)と同形の女瓦が前田遺跡から多数出土していることから、付近の集落との深い結びつきが類推できる。なお出土した女瓦の凸面に「卍」の型押がみられた。なお以上の3か所はいずれも瓦を主体とした窯であると思われるのに対し、南部宇都宮丘陵の北端、田川に南の斜面に現在2か所の主に須恵器用と推測されている穴の上窯跡(426)、広表窯跡(427)の存在が確認されている。このように田川及び釜川流域の低地と宇都宮丘陵縁の緩傾斜地には古墳時代から飛鳥、奈良時代にわたるこれらを支える集落が脈々と営まれていたわけであるが、これは豊富な水と粘土、燃料となる植物等の原材料と生産に携わる人々という大きな生産基盤をもった地域であったわけである。

No	遺跡名	種別	時期	No	窯跡	備考
29	野沢北	集落	縄文-古墳	64	根河原(瓦)	S51調査
30	野沢	集落	縄文-古墳	65	水登山(瓦)	S37, 52, 55調査
31	野沢石塚	集落	縄文・弥生	66	入畑	江戸米
33	念仏塚	集落	古墳	366	上戸祭大塚(瓦)	S62発見
35	星の宮神社裏	集落	古墳	426	穴の上(竈)	未調査
38	紙田	集落	縄文・弥生	427	広表(竈)	H2新木原調査
39	穴の上	集落	縄文・古墳			
40	瓦塚日蓮北久保	集落	縄文・古墳			
42	管理部屋	集落	縄文・古墳			
43	上の台	集落	古墳			
45	関塚土用地	集落	古墳			
46	野沢内	集落	縄文			
48	宇都宮ゴルフ場	集落	縄文			
49	北原	集落	縄文・古墳~平安			
50	上戸祭中ノ島	集落	縄文・古墳			
52	百穴裏	集落	縄文・古墳			
56	三本松	集落	縄文			
59	松ヶ丘	集落	縄文・古墳			
60	田向	散布地	縄文・古墳			
67	私面	集落	縄文			
71	戸祭成田	散布地	古墳			
34	寺山供養塚群	江戸		36	千貫枡	江戸、供養塚・寺院
37	大久保牛塚	江戸、高塚		41	立野高塚群	江戸
51	蓮平塚供養塚群	江戸		51	蓮平塚供養塚群	江戸
60	長山供養塚群	江戸		60	長山供養塚群	江戸
61	前坂供養塚群	江戸		61	前坂供養塚群	江戸
62	姥ヶ入供養塚群	江戸		62	姥ヶ入供養塚群	江戸
128	北の館跡	鎌倉、城跡		128	北の館跡	鎌倉、城跡
342	谷口山権現南供養塚群	江戸		342	谷口山権現南供養塚群	江戸
343	権現山供養塚群	江戸		343	権現山供養塚群	江戸

第2表 周辺の遺跡一覧



第6図 第三回博覧會場配置區



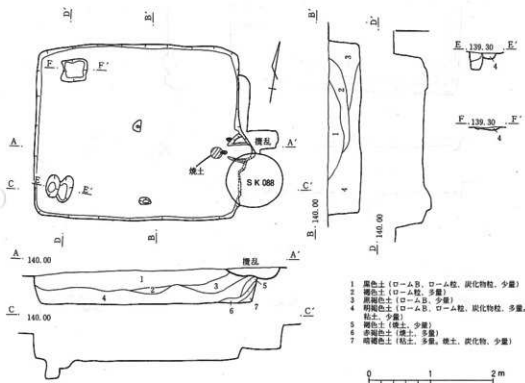
### 第3章 調査結果

発掘調査の結果確認した遺構は、竪穴住居跡161軒（S1001～161）、竪立柱建物跡98棟（SB01～99）、土坑102基（SK001～102）。および円形周溝遺構、井戸がそれぞれ1基ずつである。遺物は土師器、須恵器の土器類を中心に古代瓦、鉄製品、土製品、石製品等が約1,000点出土した。以下、遺構と出土遺物を順に従い記述する。なお本文中の記載例は次のとおりである。平面形は縦（南北）×横（東西）、カマドは焚口に向かって左右である。

#### 第1節 住居跡と出土遺物

S1001

位置 北地区J-5グリッド 平面形 2.8×3.2mの東西に長い方形 方位 住居：N10°W カマド：E 規模 小 床面 平坦、堅くしまった面はない。壁 84° 深さ50cm 周溝・柱穴 共に認めず。備考 北西、南西コーナーに土坑。埋土は人為埋没である。SK088に切られる。遺物 土師器甕1、須恵器甕1、鉄製鋸先1

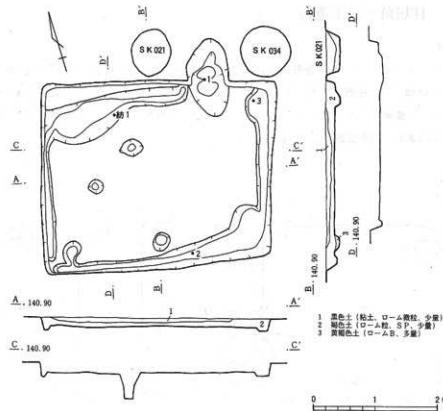


第7図 S1001

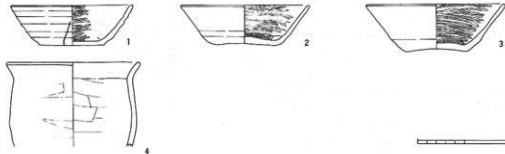
S 1002

位置 北地区F-2グリッド 調査区内最北端 平面形 3.0×3.7mの東西に長い方形 方位  
 住居：N13°E カマド：N 規模 中 床面 はほぼ水平で平坦。ローム地山 壁 65~78°深さ  
 15~18cm 周溝 周回するが一部を欠く（南西コーナー部、カマド東脇部） 各コーナー部は壁  
 下端から3~30cmの幅をおいて周溝があるので、この部分の床はテラス状を呈する。 柱穴 主  
 柱穴と思われるものは確認できない。ピット3本。

遺物 土師器杯3・甕1、紡錘車1



第8図 S 1002



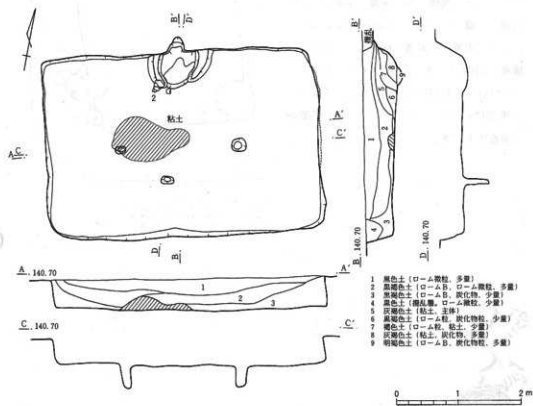
第9図 S 1002出土土器

No.	器種	寸法 (cm)		形制 分類	使用時期	胎土	焼成	色澤	出土 状態	保存 量	備考	
		口径	底径									
1	杯(耳)	12.8	4.3	7.0	J(2)	I	小砂粒を多く含む	良好	外褐色, 内黒色	覆土	1/3	内照
2	杯(耳)	13.8	4.2	6.5	J(3)	n	石英, 炭石	良好	暗褐色	覆土	1/2	内照
3	杯(耳)	15.0	5.0	6.4	J(3)	n	石英, 炭石, 赤色粒	良好	暗褐色	覆土	1/3	内照
4	深(耳)	14.2	-	-	D(3)	k	小砂粒	良好	淡褐色	覆土	1/4	

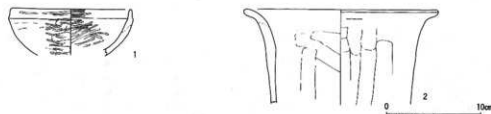
第3表 S I 002土器観察表

S I 003

位置 北地区G-3グリッド 平面形 3.0×4.4mの長方形 方位 住居：N14°W カマド：N  
規模 中 床面 平坦ではあるが北西から南東へ向かって緩傾斜する。壁 94°深さ48cm 埋  
土の剥離は良好で明瞭だが西壁はやや脆弱で不明瞭。東壁は最大5cmオーバーハングする。周  
溝 認めず。柱穴 東西中心軸上に2本、横持柱。遺物 土師器杯1・甕1



第10図 S I 003実測図



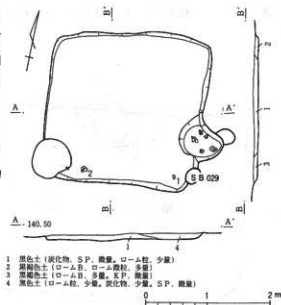
第11図 S I 003出土土器

No.	器種	寸法 (cm)			形態分類	成形手法	胎土	焼成	色調	出土状態	埋蔵層	備考
		口径	器高	器径								
1	杯(註)	13.9	—	C	a	石灰、長石、赤色粒	良好	褐色	覆土	1/8		
2	甕(註)	20.4	—	E	a	石灰、長石	良好	赤褐色	破片	1/4		

第4表 S I 003土器観察表

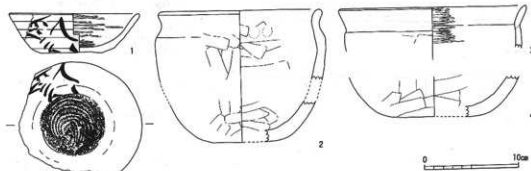
S I 004

位置 北地区G-6グリッド 平面形 2.5×2.4mのほぼ正方形 方位 住居：N 03°W  
 カマド：E 規模 小 床面 不規則な小凹凸面。壁 63~73°深さ10cm 西壁はさらに浅く不明瞭。周溝・柱穴 共に認めず。  
 備考 南西コーナー部をピット、南東コーナー付近をS B35柱穴に切られている。カマド煙道付近でピットを切っている。遺物 土師器環1・壺2



- 1 褐色土 (灰化物、S.P.、炭塵、ローム粒、少量)
- 2 濃褐色土 (ローム粒、C=灰化物、少量)
- 3 濃褐色土 (ローム粒、多量、灰.P.、燻炭)
- 4 黒褐色土 (ローム粒、少量、灰化物)

第12図 S I 004平面図



第13図 S I 004出土土器

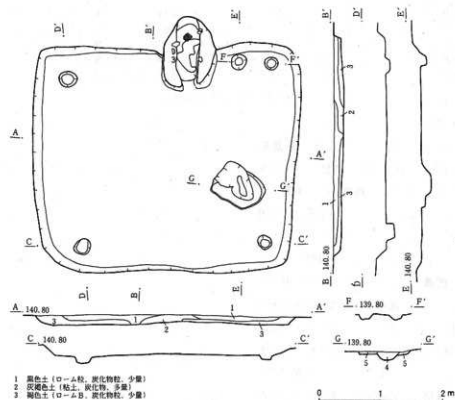
No.	部 類	寸 法 (cm)			形 態・整 形 分 類	胎 土	焼 成 色 調	出土 状態	発 見 量	備 考
		口経	器高	底径						
1	環(耳)	14.0	4.3	6.5	J[D]	a	石灰, 小砂粒	良好 外淡褐色, 内黒色	環土	3/4 内黒, 黒書(環a)
2	環(耳)	16.8	14.0	8.2	D[D]	a	小石を多く含む	良好 黒褐色	環土	1/4
3	環(耳)	20.0	—	—	C	e	縞帯	良好 淡褐色	環土	1/16
4	環(耳)	—	—	11.2			縞帯	良好 淡褐色	環土	

第5表 S I 004土器調査表

S I 005

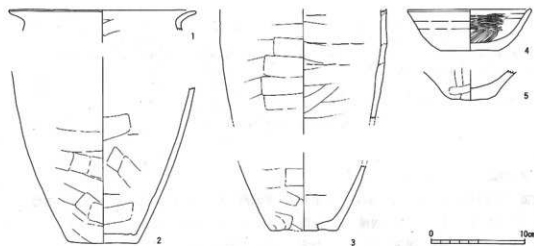
位置 北地区D-3グリッド 調査区の北東端 平面形 3.5×4.3mの東西に長い方形 方位  
 住居: N12°W カマド: N 規模 中 床面 平坦ではあるが駆くしまったローム面はない。  
 壁 51~71深さ20cm 周溝 認めず。 柱穴 四隅に径20cm前後のピットがそれぞれ4本ある  
 が非常に浅い。カマド右ソノ脇にピット。

遺物 土師器環1・変5, 紡錘車1



- 1 黒色土(ローム状, 炭化物粒, 少量)
- 2 灰褐色土(粘土, 炭化物, 多量)
- 3 褐色土(ローム状, 炭化物粒, 少量)

第14図 S I 005実測図



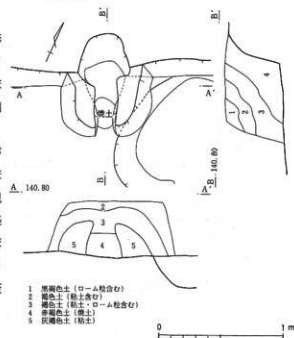
第15図 S 1005出土土器

No.	器種	口径	寸法 (cm)	形制	整 形 分 類	胎 土	地 成 色	調 色	出土 状態	残 存 量	備 考
1	甕(耳)	20.2	—	I	I	石灰, 小砂粒多	良好	暗褐色	覆土	1/32	
2	甕(耳)	—	7.4	I	k	石灰, 小砂粒多	良好	暗褐色	覆土	1/2	
3	甕(耳)	—	8.0	I	k	石灰, 雲母, 小石	良好	淡褐色	覆土	1/6	
4	杯(耳)	13.2	4.4 6.3	J(3)	l	石灰, 小砂粒	良好	外淡褐色, 内黒色	覆土	2/3	内黒
5	甕(耳)	—	5.0		a	小砂粒多	良好	外黒色, 内淡褐色	ヨマフ	1/16	

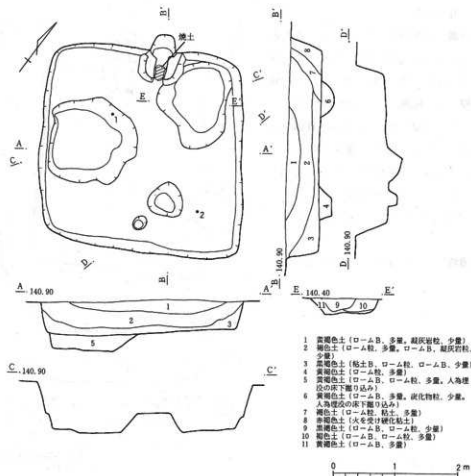
第6表 S 1005土器観察表

### S 1006

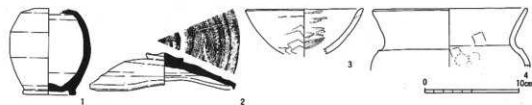
位置 北地区E-3グリッド 平面形  
 3.2m四方のほぼ正方形 方位 住居: N  
 36°W カマド: N 規模 中 床面 床  
 下土坑は貼床、それ以外の床面は踏み固  
 められたようにしまったローム面を持つ。  
 壁 78° 深さ52cm。北壁は不規則な凹凸が  
 ある。周溝 認めず。柱穴 南壁中央の床  
 面にピット。備考 北東隅と西側に大規  
 模な床下土坑がある。この土坑は住居構築  
 の際同時に掘られたもので、それから貼床  
 が施されたことがセクションから推測でき  
 る。遺物 土師器杯1・甕1, 須恵器蓋  
 1・壺1



第16図 S 1006カマド



第17図 006実測図



第18図 S1006出土土器

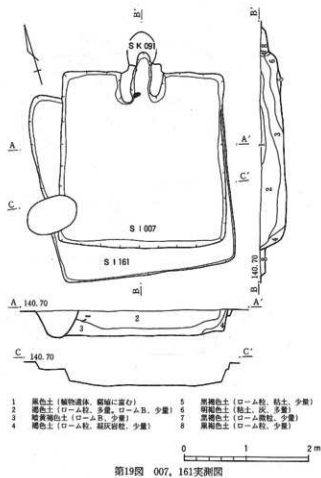
No.	器種	寸法 (cm)		形態	成分	胎土	焼成	色調	出土状態	現存	備考
		口径	器高								
1	杯(S)	-	5.7	B	a	石英, 白色砂粒	良好	灰色	覆土	2/3	
2	甕(S)	15.5	4.0	-	(I)	小石少	良好	灰色	覆土	完形	自然輪, ヘラ跡
3	杯(皿)	12.7	-	G	d	石英, 雲母, 小砂粒	良好	暗褐色	覆土	1/3	
4	甕(皿)	19.8	-	A	-	小砂粒	良好	褐色	覆土	1/16	

第7表 S1006土器観察表

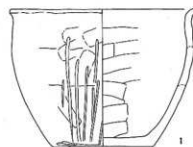
S 1007

位置 北地区F-3グリッド 平面形  
 2.6×2.8mの若干南北に長い方形  
 方位 住居：N18°E カマド：N 規模  
 小 床面 はほぼ平坦、堅い面は認め  
 めず。壁 76° 深さ40cm 周溝・柱  
 穴 共に認めず。備考 南西コー  
 ナー付近の一部をピットによって切ら  
 れている。またS 1161を切る。カマ  
 ドの煙道付近がピットの一部を切っ  
 ている。

遺物 土師器甕1, 土師質土器1



第19図 007, 161実測図



第20図 S 1007出土土器

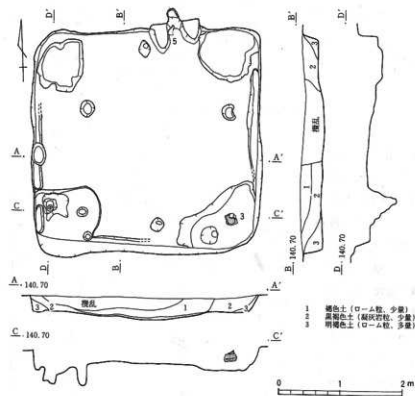
No.	器種	寸法 (cm)			形制 口徑	底径	分類	埴・整 形・手 法・痕	胎	土	焼成	色	調	出土 状態	埋 入 量	備 考
		口徑	高さ	底径												
1	甕(耳)	18.4	14.6	10.6	K		b	小砂粒多	良好	黒褐色			覆土	1/3		
2	土師甕	8.7	1.8	5.0	A		a	小砂粒多	良好	赤褐色			土坑	2/3		

第8表 土器観察表

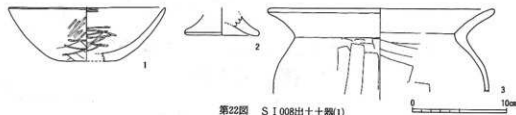


S 1 008

位置 北地区F-4グリッド 平面形 3.6m四方のほぼ正方形 方位 住居：N05°E カマド  
 :N 規模 中 床面 中央部はほぼ平坦、四隅に床下掘込みがある。床下掘込みの掘り方は凹  
 凸があり雑な感じを受ける。壁 64~80° 深さ24cm 周溝 東壁と南壁、西壁の一部にある。  
 しかし全体的に不明瞭で南壁と西壁のものは床面と同一高になり消失してしまう。柱穴 ビツ  
 トが住居内に認められるが、深さはまちまちでプランは不明。また南壁中央からやや東寄りの床  
 面にビツトあり。備考 南西掘込みの掘り方は極めて不規則で、後世に樹木の根等に攪乱され  
 ている可能性がある。遺物 土師器環1・壺3、須恵器壺1



第21図 S 1 008実測図



第22図 S 1 008出土土師(1)



第23図 S I 008出土土器 (2)

No.	器種	寸法 (cm)	形態・整形分類	成形方法	胎土	焼成	色調	出土状態	残存量	備考	
1	甕(H)	16.8	5.6	6.0	I	*	石英、小砂粒	良好	褐色	甕土	1/3
2	甕(H)	—	—	—	F	—	石英、小砂粒	良好	褐色	甕土	1/16
3	甕(H)	24.2	—	—	A(D)	△	石英、小砂粒	良好	褐色	甕土	1/12
4	甕(H)	17.3	—	—	D(D)	△	石英、長石、小石	良好	淡褐色	甕土	1/6
5	甕(S)	—	—	—	—	*	磁石	良好	灰色	カマド	1/12

第9表 S I 008土器観察表

S I 009

位置 北地区H-3グリッド

平面形 3.5×南辺3.2北辺

2.5mの台形 方位 住居：

N 18° カマド：N 規模

中 床面 多少の凹凸がある

がほぼ平坦。壁 78° 深さ

15cm 周溝・柱穴 共に認め

ず。備考 カマドが極端に

東偏し、平面プランは台形と

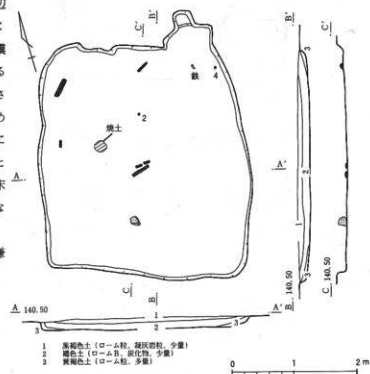
特異。床面には炭化材、焼床

がみられる。全体的に粗雑な

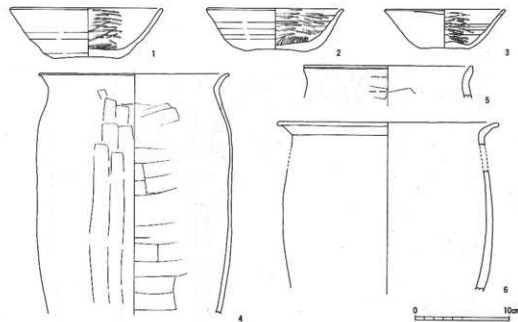
造りの印象を受ける。

遺物 土師器杯3・葉3、鎌

1



第24図 S I 009実測図



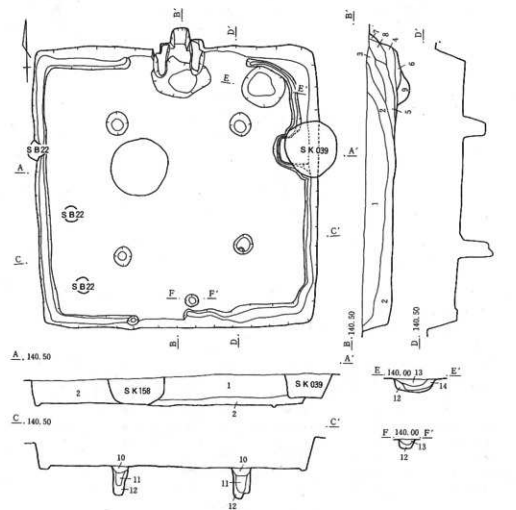
第25図 S I 009出土土器

No.	器種	寸法 (cm)			形態 分類	成・整 形手置	胎土	焼成 色調	出土 状態	備 考
		口径	器高	底径						
1	杯(耳)	16.2	5.3	6.9	J(3)	a	石英、輝石	良好 外褐色、内黒色	覆土 1/3	内黒
2	杯(耳)	14.6	4.5	6.7	J(3)	a	石英、長石、小石	良好 外褐色、内黒色	覆土 壳形	内黒
3	杯(耳)	12.8	4.2	5.0	J(3)	a	石英、小砂粒	良好 外褐色、内黒色	覆土 1/3	内黒
4	罐(耳)	23.4	-	-	I	j	小砂粒多	良好 赤褐色	覆土 1/8	
5	罐(耳)	17.8	-	-	G(2)		砂粒	良好 淡褐色	覆土 1/32	
6	罐(耳)	20.2	-	-	I	a	小砂粒	良好 淡黄褐色	覆土 1/12	

第10表 S I 009土器観察表

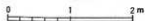
S I 010

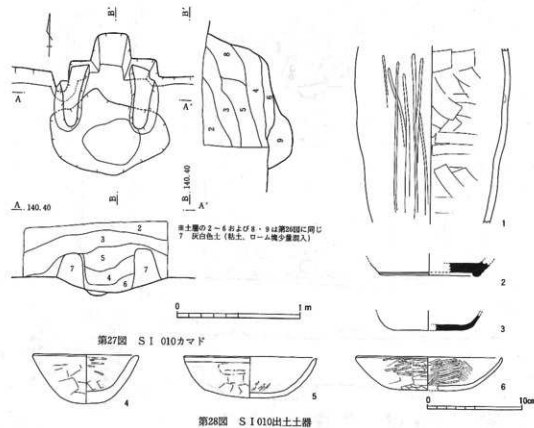
位置 北地区H-3グリッド 平面形 4.3m四方のほぼ正方形 方位 住居：N0° カマド：  
E 規模 中 床面 堅く踏み固められたような面で小さな凹凸はあるものの、全体に平坦な状  
態である。壁 73~82° 深さ47cm 埋土との剥離は良好。東壁の一部はS K 039によって切ら  
れる。周溝 床面から5cmの深さで全周する。しかし南壁の中央部約70cmが途切れている。また  
S K 039の直下の部分だけこれを避けるように内曲する。なおカマドの両側で止まり下まで入  
りこまない。柱穴 4本スクエアで各個ともしっかりとしたものである。備考 S K 039、  
S B 22、ピットに切られる。カマド右に周溝に接続する土坑がある。カマド 左ソデ基部にロー  
ムの造り出しがある。土坑の貼床の上に設置されており、ソデ内側に焼ロームが貼り付く。遺物  
土師器環2・塊1・甕2、須恵器環1・高台付杯1



- |                                 |                            |
|---------------------------------|----------------------------|
| 1 黑土 (ロ-A粒, 木炭粒, 少量)            | 8 非常褐色土 (壤土, 多量, ロ-A粒, 少量) |
| 2 褐色土 (ロ-A粒, 少量)                | 9 赤褐色土 (ロ-A粒, 少量, 黄土, 少量)  |
| 3 砂质粘土 (ロ-A粒, 粘土, 少量)           | 10 黑土 (ロ-A粒, 少量)           |
| 4 赤褐色粘土 (壤土, 少量, 腐植物, ロ-A粒, 少量) | 11 褐色粘土 (ロ-A粒, 少量)         |
| 5 灰黄褐色土 (壤土, 腐植土, 少量, 粘土, 少量)   | 12 黄褐色土 (ロ-A粒, 少量)         |
| 6 赤褐色土 (ロ-A粒, 腐植土, 少量, 壤土, 少量)  | 13 褐色土 (ロ-A粒, 少量)          |
| 7 黄褐色土 (ロ-A粒, 少量)               | 14 褐色土 (ロ-A-B, 黑土, 少量)     |

第26图 SI 010发掘图





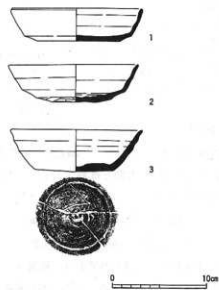
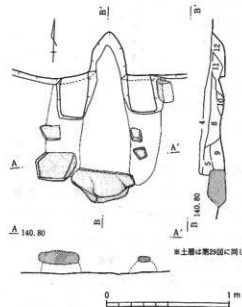
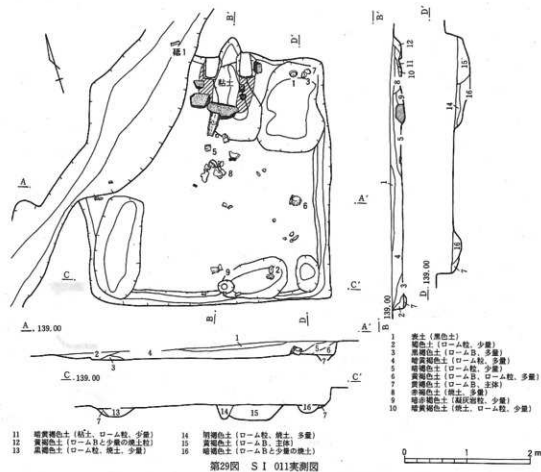
第28図 SI 010出土土器

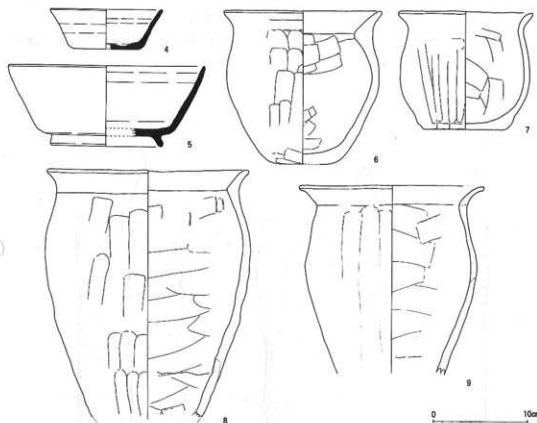
No.	器種	寸法 (cm)	形態	成・整	胎	土	焼成	色	面	出土	残	備	考
		口径	高さ	底径	分類	形状	手	痕		状態	量		
1	埴(口)	—	—	—	a	小砂粒	良好	赤褐色	裏土	1/8			
2	高台皿	—	10.8	A(1)	a	小砂粒多	不良	灰色	裏土	1/8			
3	埴(S)	—	7.2	—	a	緻密	良好	灰色	裏土	1/4			
4	埴(口)	11.4	5.2	—	B	c	礫石、小砂粒多	良好	褐色	裏土	1/3		
5	埴(口)	14.2	4.4	—	G	f	赤色スコリア、砂粒	良好	赤褐色	裏土	1/3		
6	埴(口)	15.6	3.6	8.6	I	a	石灰、砂粒	良好	赤褐色	表面	1/2		

第11表 SI 010土器観察表

S I 011

位置 北地区K-3グリッド 調査地区北西隅 平面形 北西コーナーを水路に切られているが4.0m四方のほぼ正方形と推測される。方位 住居：N16°E カマド：N 規模 中 床面 堅く踏み固められたような面をもつ。各隅に床下掘込があり、その箇所については貼床が施されている。壁 80～83° 深さ25cm 周溝 東壁から南壁にかけて廻る。カマドに接続せず、北東床下掘込みで止まる。西壁、北壁は水路によって不明。柱穴 認めず。備考 北西床下掘込みは、水路によって洗われており、範囲は少々拡大している。カマド 焚口を補強していたと思われる凝灰岩切石が認められる。また多量の粘土が認められ、煙道部から焚口部方向へ圧壊した様子がうかがえる。遺物 土師器環5・須恵器環4・高台付埴1、礫石1





第32図 S I 011出土土器 (2)

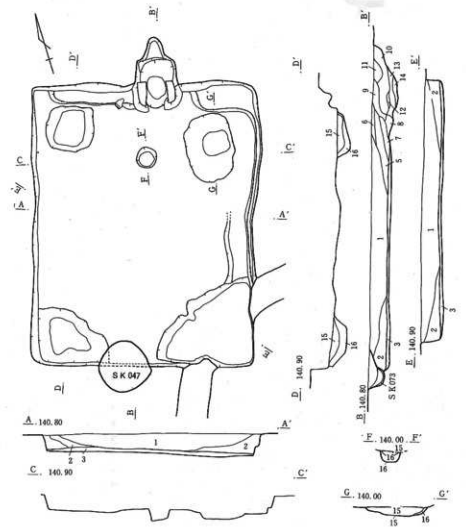
No.	器種	口径	器高	底径	形態分類	底・底部分類	胎土	焼成	色調	出土状態	数量	備考
1	杯(S)	14.0	3.5	9.0	B	c	石灰、砂粒、小石	良好	灰白色	覆土	2/3	
2	杯(S)	13.9	4.0	8.1	C	b	副産物	良好	灰白色	覆土	2/3	
3	杯(S)	14.1	4.5	8.4	C	e	炭石、小石	良好	灰白色	覆土	2/3	底部へラ記号「V」
4	杯(S)	12.0	4.2	7.0	C	e	礫石	良好	灰白色	覆土	1/8	
5	高台杯	21.0	8.6	12.1	B(D)	e	石灰、炭石、小砂粒	良好	灰白色	覆土	1/4	
6	薬(皿)	16.8	16.3	7.0	D(D)	a	石灰、小砂粒沙	良好	灰褐色	坪面	4/5	
7	薬(皿)	14.3	12.5	8.6	D(D)	j	石灰、小砂粒沙	良好	暗褐色	覆土	1/3	
8	薬(皿)	21.6	-	-	D(1)	a	小砂粒	良好	褐色	覆土	2/3	
9	薬(皿)	19.6	-	-	D(2)	j	小石、小砂粒沙	良好	灰褐色	覆土	2/3	

第12表 S I 011土器観察表

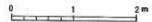
S I 012

位置 北地区E-4グリッド 平面形 3.3×4.2mの東西に長い方形 方位 住居：N17°E カマド：E 規模 中 床面 貼床。四隅に床下掘込みがある。壁 80~90° 深さ30cm 東から南壁にかけてテラス状遺構がある。テラス状遺構のレベルと貼床のレベルは同一であり、床の一部を形成していたものと思われる。周溝 南壁下のみ南西床下掘込みから延長するものがあるが深く不明瞭である。その他認めず。柱穴 認めず。備考 南西コーナー部が円形周溝遺

構を切る。西壁の一部はS K 047によって切られている。カマド 燃焼部内側に焼粘土が貼り付けられており、多量の粘土が用いられている。カマド本体が壁外側へ突出するタイプ。遺物土師器杯1・甕6, 須恵器杯1

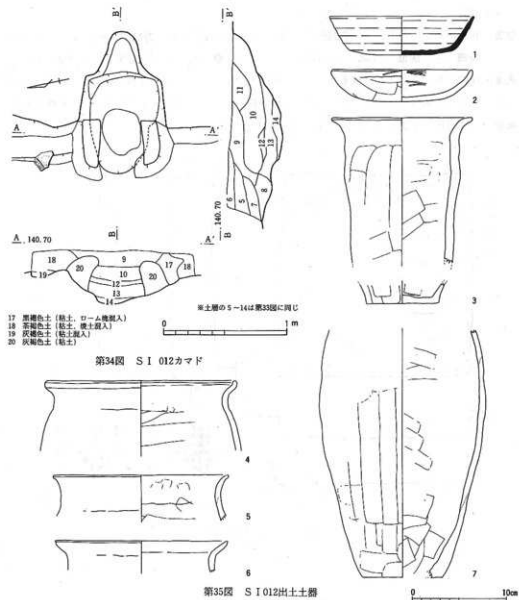


- |                                 |                                |
|---------------------------------|--------------------------------|
| 1 黄褐色土 (ローム粒, ロームB, 多量)         | 10 黒色土 (ローム粒, 多量)              |
| 2 暗褐色土 (ロームB, 少量, 炭灰付粒, 微量)     | 11 黄褐色土 (ローム粒, 粘土, 少量)         |
| 3 暗褐色土 (ロームB, 炭灰付粒, 少量)         | 12 暗褐色土 (粘土, 黄土, 少量)           |
| 4 灰褐色土 (粘土, 少量, ロームB, 炭灰付粒, 少量) | 13 灰褐色土 (粘土, 少量, 黄土, ローム粒, 多量) |
| 5 黄褐色土 (ロームB, 微量)               | 14 暗黄褐色土 (ローム粒, ロームB, 多量, 少量)  |
| 6 黒色土 (ローム粒, 少量)                | 15 黄褐色土 (ロームB, ローム粒, 多量)       |
| 7 黄褐色土 (粘土, 多量, ロームB, 微量)       | 16 黄褐色土 (ローム粒主体)               |
| 8 粘土土 (粘土, 多量)                  |                                |
| 9 褐色土 (粘土, 多量, ロームB, 少量)        |                                |



第33図 S I 012実測図





17 赤褐色土 (粘土、ロー層埋入)  
 18 赤褐色土 (粘土、奥土埋入)  
 19 赤褐色土 (粘土埋入)  
 20 赤褐色土 (粘土)

※土層の5-14は第35図に同じ

第34図 SI 012カマド

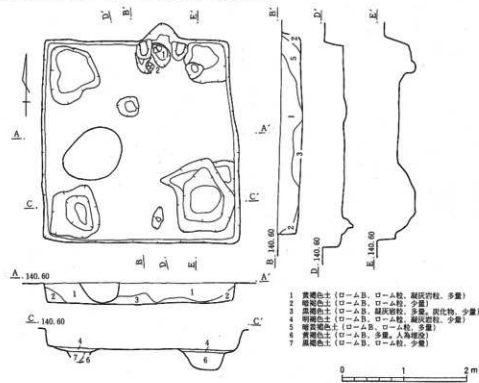
第35図 SI 012出土土器

No.	器種	寸法 (cm)			形態・製作 分類	胎土	焼成	色調	出土 状態	出土 位置	備考
		口徑	高さ	底径							
1	杯(S)	15.4	4.1	10.0	B	e	灰石、白色砂粒	良好	覆土	1/3	
2	杯(H)	14.8	3.4	8.2	G	b	石灰、小砂粒	良好	埋土	1/2	
3	壺(H)	15.0	—	7.7	E(I)	a	石灰、小石、小砂粒	良好	埋土	1/8	
4	壺(H)	20.6	—	—	G(II)	m	石灰、灰石、雲母	良好	埋土	1/8	
5	壺(H)	18.6	—	—	D	—	石灰、小砂粒多	良好	埋土	1/32	
6	壺(H)	18.9	—	—	G	—	石灰、小砂粒多	良好	埋土	1/32	
7	壺(H)	—	—	8.5	E(II)	j	石灰、小砂粒	良好	埋土	1/3	

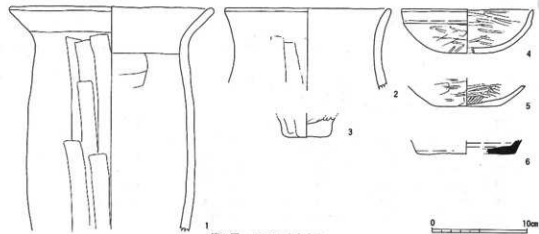
第35表 SI 012土器観察表

S 1013

位置 北地区G-4グリッド 平面形 一辺が3.2mのほぼ正方形 方位 住居：N 0° カマド  
 :N 規模 中 床面 四隅に床下掘込みがある。 壁 87° 深さ30cm埋土との剝離は良好。  
 周溝・柱穴 共に認めず。 備考 小ピットが住居内にあるがプラン不明。南壁中央から東偏し  
 た床面にピットあり。ピットに切られる。 カマド 掘り込みが凸形のタイプだが小規模である。  
 遺物 土師器杯2・甕2・手づくね1, 須恵器杯1



第36図 SI 013実測図



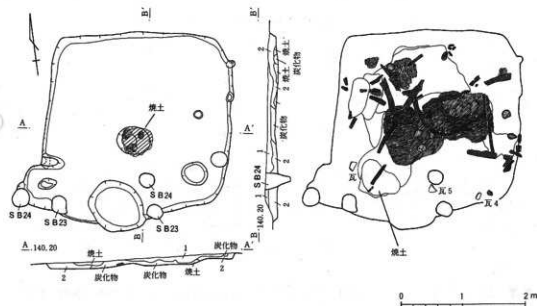
第37図 SI 013出土土器

No.	器 種	寸 法 (cm)			形 態 分 類	成 形 分 類	胎 土	焼 成 色 調	出 土 状 態	備 考
		口 径	器 高	底 径						
1	甕(Ⅱ)	22.0	—	—	D(1)	a	石英, 小砂粒多	良好 褐色	埋土	1/3
2	甕(Ⅱ)	—	—	8.5		a	石英, 礫母, 小砂粒	良好 褐色	埋土	1/16
3	手(Ⅱ)	—	—	4.6			石英	良好 赤褐色	埋土	1/2
4	甕(Ⅱ)	14.0	4.7	—	C	c	石英, 灰石, 小砂粒	良好 褐色	埋土	1/3
5	甕(Ⅱ)	—	—	7.0	I	a	石英, 赤色粒	良好 暗赤褐色	埋土	1/4
6	甕(S)	—	—	10.3		a	石英, 小砂粒	良好 灰白色	埋土	1/6

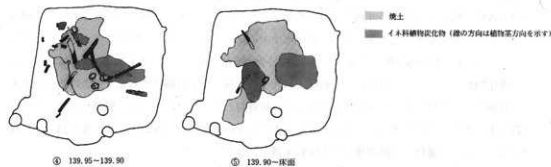
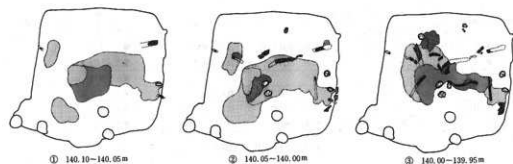
第14表 S1013土器観察表

S1014

位置 北地区 I-4 グリッド 平面形 一辺が3.2mの方形 方位 住居：N11°E カマド：W  
規模 小 床面 ローム地山床 壁 65~75° 周溝・柱穴 共に認めず。備考 住居内埋土  
中の各所に炭化物や焼土の堆積が認められた。これらは大きく上下2層に分かれており、上層は  
4~6cmの明灰褐色の焼土層である。この焼土中には、完全に灰化した植物遺体の圧痕が多く認  
められた。また焼土層は堅くしまっており、強い火力で焼かれたものと思われる。下層は2~12cm  
の炭化物層であり、そのほとんどは直径4~10cmの木材とイネ科植物である。構造的にみて住  
居の骨格である木材の上にイネ科植物をもって上層葺材とするわけであるが、層順から考えて炭化  
物の上に焼土があることから、さらに屋根の上に土がのっていたと推察できる。S B23、S B24  
に切られる。遺物 土師器Ⅱ1・土師質土器Ⅰ、瓦2



第38図 014実測図(1)



第39図 標高別遺物平面図 S I 014(2)



第15表 S I 014土器観察表

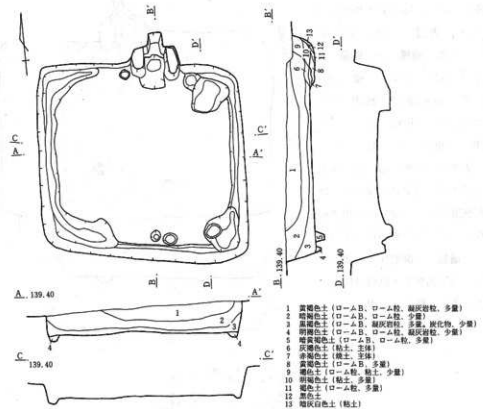
No.	器種	寸法 (cm)			形態 口縁	底 分類	胎土	焼成 色調	出土 状態	発見 量	備考
		口径	器高	底径							
1	甕(耳)	25.0	-	-	K	i	石灰, 小砂粒多	良好 黒褐色	57F	1/16	
2	土師甕	9.1	1.5	4.9	A	a	雲母	良好 淡褐色			形状 SB-29と切り合い

第15表 S I 014土器観察表

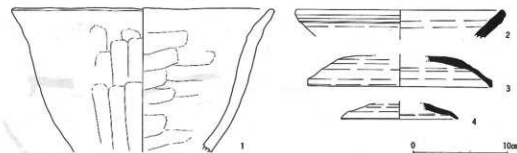
S I 015

位置 北地区J-4グリッド 平面形 西辺3.0東辺3.2m, 東西3.2mのほぼ正方形 方位 住居  
: N 3°E カマド: N 規模 中 床面 ほぼ平坦。壁 83~88° 30~40cm 周溝 カマド  
付近を除き全周する。四隅の床下掘込みに接続する。柱穴 認めず。ただし南壁中央床面にピ  
ット2本。備考 四隅の掘り込みは周溝の幅が次第に広くなるようなタイプである。床面中央に焼

版、その上に炭化物あり。カマド 明瞭な凸形の廻り込みみであるが、焼土、粘土共に出土量は少ない。遺物 土師器埴1、須恵器鉢1・蓋2



第41図 015実測図



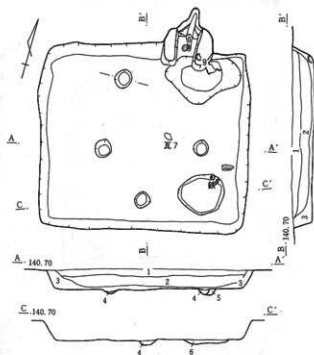
第42図 S I 015出土土器

No.	器種	寸法 (m)		形態・整分	成・整分	胎土	焼成	色調	出土状態	残存量	備考
		口径	器高								
1	鉢(H)	28.2	-	D	i	石灰、小砂粒多	良好	褐色	土灰	1/3	
2	鉢(S)	22.4	-	D	a	小砂粒	良好	暗褐色	覆土	1/8	
3	蓋(S)	19.6	-	-	a	白色砂粒	良好	灰白色	覆土	1/4	
4	蓋(S)	12.5	-	-	a	白色砂粒	良好	灰白色	覆土	1/4	

第16表 S I 015土器観察表

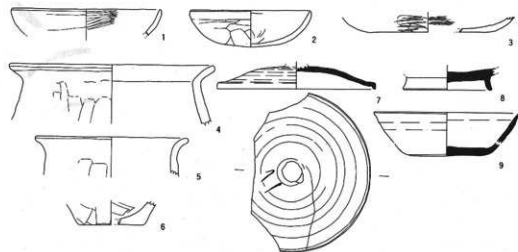
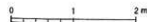
S 1016

位置 北地区D-5グリッド 平面形 2.8×3.2mの若干東西に長い方形。方位 住居：N17°W  
 カマド：N 規模 中 床面 ほぼ平坦。貼床は認めず。壁 63～72° 深さ28cm 周溝・柱穴 共に認めず。南壁中央床にピットあり。備考 南東コーナー部に土坑あり。カマド 凸形の掘り込みをもつが煙道部は丸溝状を呈する。燃焼部底面のピットは、支脚用の可能性がある。粘土を多量に用いている。遺物 土師器杯2・甕3・皿1、須恵器杯1・高台付杯1・甕1・蓋1、鉾具1・簪1



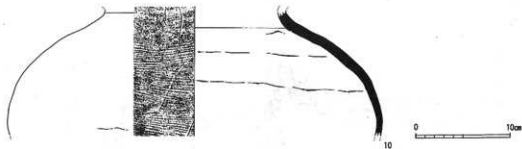
- 1 黒色土 (ローム粒、少量)
- 2 黒褐色土 (ローム粒、ローム粒、多量)
- 3 黒色土
- 4 黒褐色土 (ローム粒、ローム粒、少量)
- 5 黒褐色土 (ローム粒、ローム粒、多量)
- 6 灰褐色土 (ローム粒、ローム粒、炭灰混粒、少量)

第43図 016実測図



第44図 S 1016出土土器 (1)





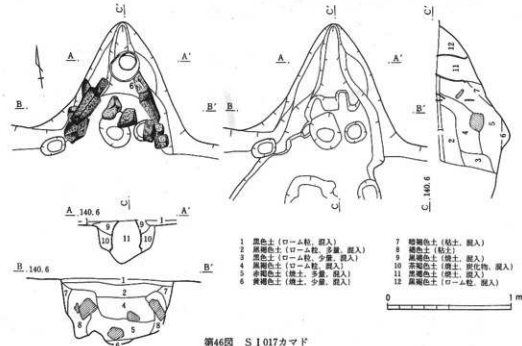
第45図 S I 016出土土器 (2)

No.	器種	寸法 (cm)			形制 分類	成・整 形方法	胎土	焼成 色調	出土 状態	残 存量	備考
		口径	胴高	底径							
1	埴(日)	15.8	-	-	G	d	小砂粒	良好 橙褐色	覆土	1/8	
2	埴(日)	12.2	3.9	-	G	h	小砂粒	良好 褐色	覆土	1/4	
3	埴(日)	-	-	13.0	-	-	黒母, 小砂粒	良好 暗赤褐色	覆土	1/4	
4	埴(日)	22.0	-	-	D	a	砂粒, 小石	良好 褐色	覆土	1/16	
5	埴(日)	16.4	-	-	E	a	小砂粒	良好 褐色	覆土	1/32	
6	埴(日)	-	-	7.0	-	a	小石, 砂粒	良好 灰白色	覆土	1/32	
7	甕(S)	17.0	-	-	-	a	小砂粒	良好 灰色	覆土	2/3	蓋破有り
8	高台(S)	-	-	9.4	B(I)	e	小砂粒	良好 灰色	覆土	1/2	
9	埴(S)	15.5	14.6	8.9	-	c	白色砂粒	良好 灰白色	3マF	1/3	
10	埴(S)	-	-	-	-	e	白色砂粒	良好 灰白色	覆土	1/8	

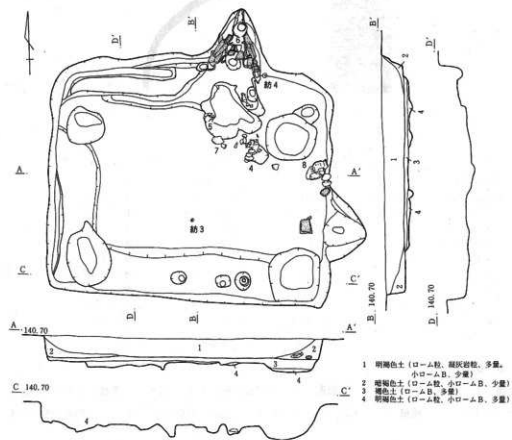
第17表 S I 016土器観察表

S I 017

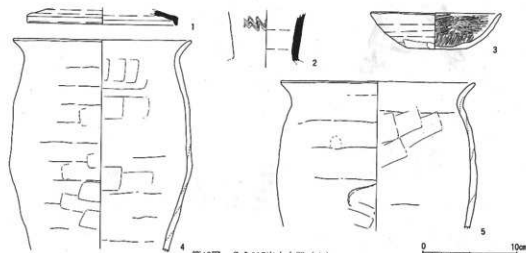
位置 北地区E-5グリッド 平面形 3.9×4.5mの東西に長い方形。方位 住居：N 07°E  
 カマド：N, E 規模 中 床面 掘り方は非常に不規則。拡張が行われており後期の住居の床



第46図 S I 017カマド



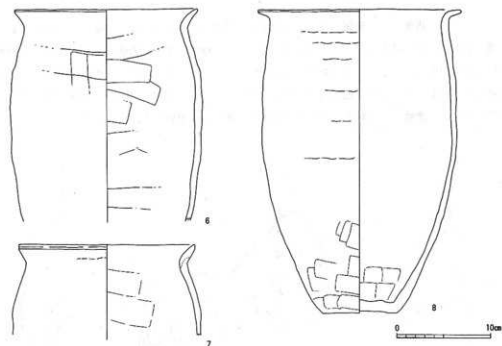
第47図 SI 017実測図



第48図 SI 017出土土器 (1)







第49図 S1017出土土器(2)

No.	器種	寸法 (cm)		形類	成形法	胎土	焼域	色調	出土状態	残存量	備考	
		口径	器高									
1	甗(S)	16.2	—	—	—	緻密	良好	灰白色	埋土	1/8		
2	甗(S)	—	—	A		白色砂粒	良好	灰白色	埋土	1/32	肩部に縦状文有り	
3	埴(Ⅱ)	14.1	3.9	6.2	J(3)	k	小砂粒	良好	外黒褐色、内黒色	土坑	完形	内黒
4	埴(Ⅱ)	19.1	—	—	I	P	石英、輝石、小砂粒	良好	褐色	埋土	1/2	
5	埴(Ⅱ)	20.8	—	—	I	P	石英、輝石、小砂粒	良好	褐色	埋土	1/4	
6	埴(Ⅱ)	19.6	—	—	I	P	石英、輝石、小砂粒	良好	褐色	埋土	1/4	
7	埴(Ⅱ)	19.0	—	—	I	P	石英、輝石、小砂粒	良好	法褐色	埋土	1/16	
8	埴(Ⅱ)	21.6	32.3	8.0	I	P	石英、輝石、小砂粒	良好	褐色	坪面	2/3	

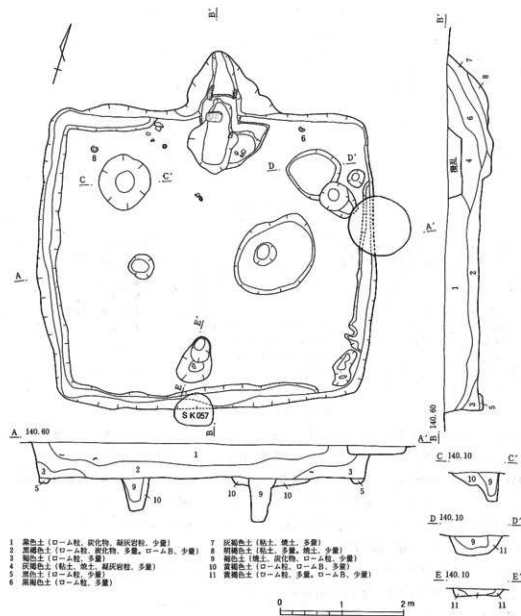
第18表 S1017土器観察表

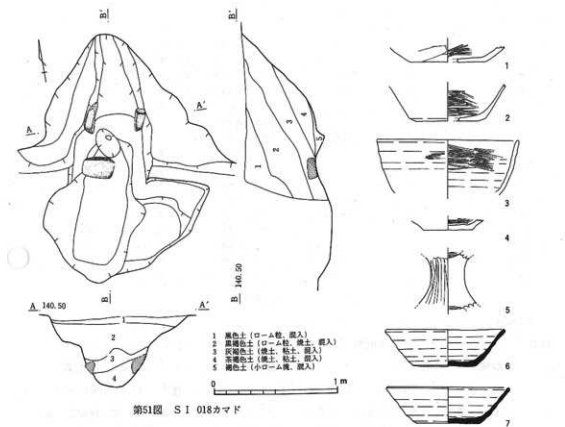
の高さのレベルで貼床が施されていた。貼床は踏みしめられたような堅い面をもつ。壁 75-83° 深さ28cm 四隅コーナー部に土坑あり。 溝溝 北壁と西壁の拡張後の住居床面にみられる。柱穴 認めず。南壁床面にピット3本。 備考 拡張前の住居は東カマドで掘り方は深く、四隅に床下掘り込みをもつ。その後北壁と西壁を拡張し東カマドを廃絶し、新たに北カマドを設置する。床面は拡張前のものより浅く、貼床が施される。床下掘り込みは新たに造られていない。カマド 北カマド：多量の凝灰岩切石を補強材に用いており、煙道立ち上がり部に壺を倒立し煙突としている。壁外へ突出するタイプ。南カマド：凝灰岩1。燃烧部は住居内。 遺物 土器 器坏1・甗5、須恵器壺1・甗1、紡錘車1、刀子1

S1018

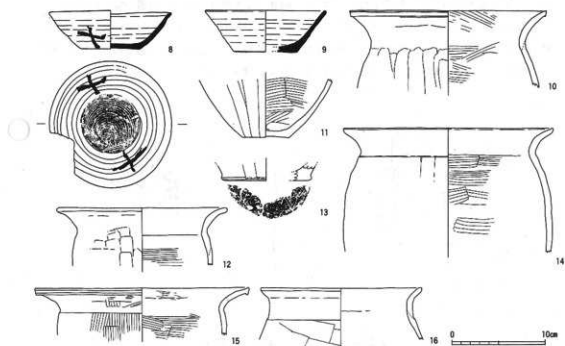
位置 北地区D-6グリッド 平面形 4.7×5.5mの東西に長い方形。 方位 住居：N18°W

カマド：N 規模 大 床面 ローム地山床で中央部は堅い面である。壁 78° 深さ30cm 周溝 南東コーナー付近で途切れるがほぼ全周する。柱穴 東西中央軸にそって2本並ぶ。棟持柱。南壁中央床にピット1本 カマド U字形に壁外に突出するタイプ。燃焼部両側に凝灰岩の補強材。前部に大きな床下掘り込みが認められるが、ソデは確認できない。SK057、ピットに切られる。遺物 土師器杯3・壺1・高杯1・甕9、須恵器杯4、刀子1





第51図 S I 018カマド



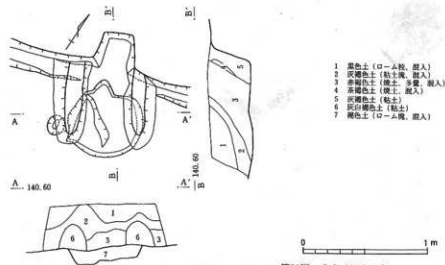
第52図 S I 018出土土器

No.	番 種	寸 法 (m)	形 態	成・整 形・整 形・整	土	焼 成	色 調	出 土 状 態	現 存 数	備 考	
1	塚(H)	—	—	8.2 I	d	小砂粒多	良好	外淡褐色、内黒色	葺土	1/4	内黒
2	塚(H)	—	—	6.7 J	j	石灰、小砂粒	良好	外淡褐色、内黒色	葺土	1/4	内黒
3	塚(H)	15.7	—	—	F i	緻密	良好	外淡褐色、内黒色	葺土	1/8	内黒
4	塚(H)	—	—	5.3 J	d	緻密	良好	外淡褐色、内黒色	葺土	1/8	内黒
5	高塚0	—	—	—	—	小石、小砂粒	良好	褐色	葺土	1/4	
6	塚(S)	12.8	4.0	6.8 C	e	小石、小砂粒多	良好	青灰色	葺土	完形	
7	塚(S)	13.2	3.8	6.8 C	e	小砂粒多	良好	暗灰色	葺土	1/4	
8	塚(S)	13.5	4.1	6.3 D	f	緻密	良好	褐色	葺土	完形	墓室「十」2方所
9	塚(S)	13.1	4.4	6.8 C	e	小石、小砂粒多	良好	暗灰色	葺土	1/4	
10	塚(H)	21.1	—	—	J k	石灰、雲母、小砂粒	良好	淡褐色	葺土	1/16	
11	塚(H)	—	—	5.0 k	k	砂粒、赤色粒	良好	褐色	葺土	1/12	
12	塚(H)	18.4	—	—	D l n	石灰、礫石	良好	淡褐色	葺土	1/16	
13	塚(H)	—	—	9.8	n	小砂粒	良好	淡褐色	葺土	1/32	底部木構底有り
14	塚(H)	22.5	—	—	J k	石灰、雲母や中多	良好	淡褐色	葺土	1/16	
15	塚(H)	23.1	—	—	J h	石灰、小砂粒	良好	暗褐色	葺土	1/18	
16	塚(H)	17.2	—	—	H l n	小砂粒	良好	赤褐色	葺土	1/32	

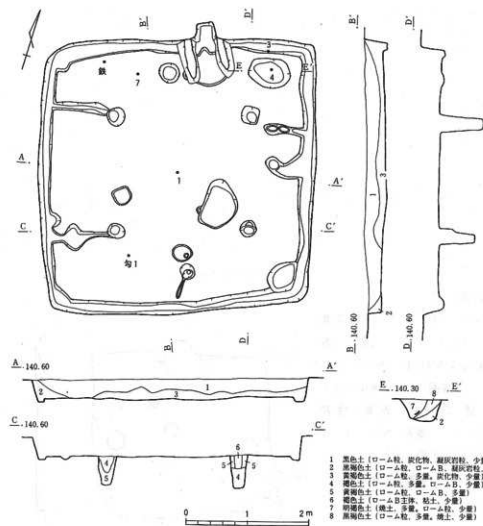
第19表 S I 018土器調査表

S I 019

位置 北地区G-5グリッド 平面形 4.3×4.5mのほぼ正方形。方位 住居：N13°W カマド：N 規模 中 床面 ローム地山床で平坦。壁 82~89° 立ち上がりは明瞭。周溝 一周する。カマド左ソデの下にはいる。右側はソデ手前で終了する。柱穴 4本 南壁中央床にビット2本。備考 北西、南西柱穴と東側ビットにそれぞれ周溝から延長する溝が接続し、間仕切り状を呈する。カマド脇に土坑(貯蔵穴)。四隅の床下廻り込みは、周溝の幅が広がったような形状を呈する。カマド コの字形の廻り方をもつ煙道部でソデが長く住居内に突出する。煙道の立ち上がりは急である。カマド床下部にみられる廻り方の痕跡から、過去最低2回の改造の可能性ある。遺物 土師器坏1・高坏1・鉢1・甕4、鏝1



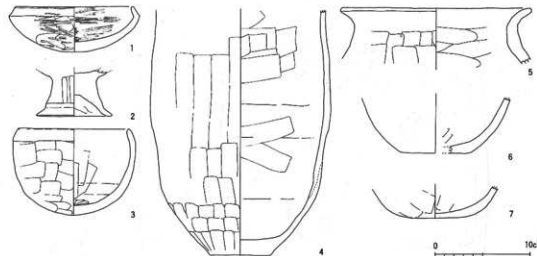
第53図 S I 019カマド



第54图 S I 019实例图

No.	规格	寸法 (cm)		形制 口径	底径	形制 分型	底·底 分型	胎·土	烧成	色 调	出土 状态	備 考
		口径	底径									
1	钵 (耳)	12.5	4.8	D	a			石灰, 小砂粒	良好	暗褐色	覆土	3/4
2	高钵 (耳)	—	—	—	8.2			小砂粒	良好	深褐色	覆土	1/4
3	钵 (耳)	11.6	9.2	—	C	f		石灰, 砂粒, 小石多	良好	暗褐色	炸面	1/2
4	钵 (耳)	—	—	6.6	D	a		石灰, 砂粒, 小石多	良好	褐色	炸面	1/2 二次烧成
5	钵 (耳)	20.3	—	—	A	a		石灰, 砂粒	良好	褐色	覆土	1/16
6	钵 (耳)	—	—	7.2				石灰, 砂粒, 小石多	不良	褐色	覆土	1/18
7	钵 (耳)	—	—	7.0				石灰, 砂粒	良好	外褐色, 内黑色	覆土	1/32

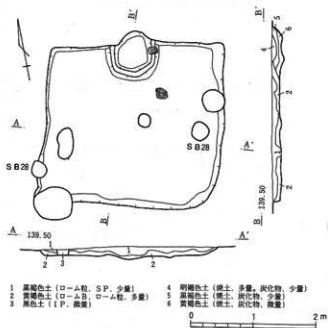
第20表 S I 019土器一览表



第55図 S I 019出土土器

S I 020

位置 北地区H-5グリッド 平面  
形 2.5×2.9mのほぼ正方形。方  
位 住居：N11°E カマド：N  
規模 小 床面 ローム地山床で平  
坦。壁 78～67° 周溝・柱穴  
共に認めず。備考 掘り込みが浅  
く全体的に不明瞭。S B28とピット  
に切られる。遺物 土師器杯2・  
壺1



第56図 S I 020実測図



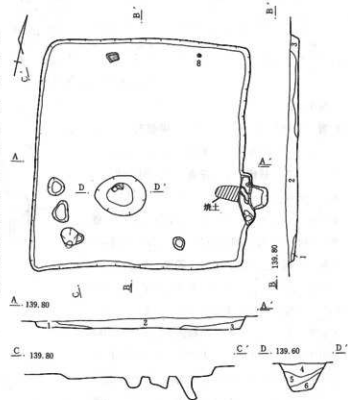
第57図 S I 020出土土器

No.	器種	寸法 (cm)		形態 口徑	底径	形類 分類	成・整 形分類	胎土	焼成 色調	出土 状態	残 存量	備 考
		口徑	器高									
1	杯 (B)	13.3	4.1	7.1	J(2)	a		黄褐色, 小砂粒	良好 淡褐色	覆土	2/3	
2	杯 (B)	13.8	—	—	—	—		輝石, 小砂粒	良好 淡褐色	覆土	1/3	
3	壺 (R)	18.6	—	—	I	j		石英, 小砂粒	良好 淡褐色	覆土	1/32	二次焼成

第21表 S I 020土器観察表

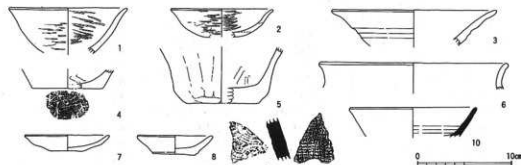
S I 021

位置 北地区 J-5 グリッド  
 平面形 3.7×3.4mのほぼ正方形。方位 住居：N 10°W  
 カマド：E 規模 中 床面  
 ローム地山床で平坦。堅くし  
 まった面は認めず。壁 70～  
 73° 隅溝・柱穴 共に認めず。  
 備考 住居内に人為埋没とみら  
 れる土坑あり。ピットが南西  
 コーナー付近に3本等間隔に並  
 ぶ。遺物 土師器杯3・壺  
 1・壺3, 土師質土器2, 須恵  
 器杯1



- 1 黒褐色土 (ローム粒, 少量)
- 2 黄褐色土 (ローム粒, 若干, 少量)
- 3 黄褐色土 (ローム粒, 多量, S.P., 少量)
- 4 黒褐色土 (ローム粒, 焼土, 炭化物, 少量)
- 5 褐色土 (ローム粒, 炭化物, 少量)
- 6 黄褐色土 (ローム粒, ローム質, 多量)

第58図 S I 021実測図



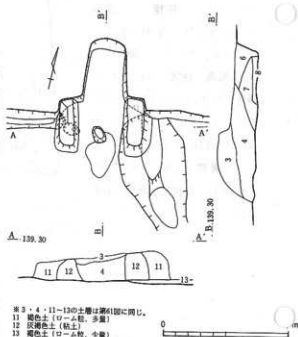
第59図 S I 021出土土器

No.	器種	寸法 (cm)		形類	成・整 形手 分類	胎土	焼成	色調	出土 状態	保存 番号	備考
		口径	器高								
1	杯(耳)	12.8	-	-	A c	小砂粒	良好	外淡褐色, 内黒色	覆土	1/6	内黒
2	杯(耳)	11.5	-	-	A a	小砂粒	良好	外淡褐色, 内黒色	覆土	1/4	内黒
3	碗(耳)	17.6	-	-	G j	小砂粒やや多	良好	外暗褐色, 内褐色	覆土	1/5	
4	碗(耳)	-	-	7.75	a	石灰, 小砂粒	良好	褐色	覆土	1/32	底部に木葉痕有
5	碗(耳)	-	-	7.6	a	小砂粒やや多	良好	淡褐色	覆土	1/24	
6	碗(耳)	22.0	-	-	I	小砂粒	良好	暗褐色	覆土	1/32	
7	土師甕	7.2	1.7	3.8	A f	緻密	良好	褐色	覆土	2/3	
8	土師甕	8.22	2.0	4.6	A f	小石, 微砂粒	良好	赤褐色	覆土	完形	
9	埴(S)	-	-	-	b	緻密	良好	灰色	覆土	破片	
10	杯(S)	13.6	-	-	-	白色砂粒	良好	灰色	覆土	1/4	

第22表 S I 021土器観察表

## S I 022

位置 北地区K-5グリッド 平面形 3.3×3.7mのほぼ正方形。方位 住居：N 06°W  
 カマド：N 規模 中 床面 不規則な凹凸がある。床中央部付近は堅くしまり、光沢さえ認められる。北西コーナー付近は若干高い。壁埋土の剝離良好。凹凸が著しい。78~82°規模の割りに掘り込みは浅い。周溝 床面から5~8cmの深くしっかりしたものである。しかし西壁の一部とカマド下部にはない。ただし左ソデ下部に若干入りこむ。柱穴 認めず。南壁中央床にピット1本。カマド 煙道部の掘り方が大きい形で、燃焼部底面に支脚用と思われるピットがある。粘土を多用している。遺物 土師器杯3・埴2・鉢1・甕2、須恵器甕



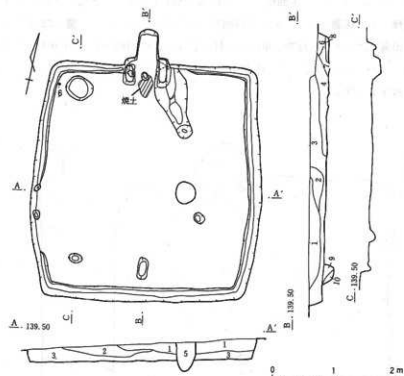
※ 3・4・11-13の土層は第61図に同じ。  
 11 褐色土(10~15部, 少量)  
 12 淡褐色土(粘土)  
 13 褐色土(ローム状, 少量)

第60図 S I 022カマド

No.	器種	寸法 (cm)		形類	成・整 形手 分類	胎土	焼成	色調	出土 状態	保存 番号	備考
		口径	器高								
1	杯(耳)	17.6	-	-	F(1) c	石灰, 小砂粒	良好	淡褐色	覆土	1/3	
2	碗(耳)	17.2	-	-	A b	緻密	良好	外紫褐色, 内黒色	覆土	1/4	内黒
3	碗(耳)	9.8	-	-	C a	緻密	良好	淡褐色	覆土	1/6	
4	碗(耳)	16.6	-	-	A b	小砂粒	良好	淡褐色	覆土	1/4	
5	杯(耳)	15.2	-	-	a	石灰, 小砂粒	良好	暗褐色	覆土	1/6	
6	鉢(耳)	12.3	10.5	7.0	B(2) b	石灰, 礫石, 小砂粒	良好	外赤褐色, 内黒色	覆土	完形	
7	碗(耳)	24.0	-	-	-	小砂粒	良好	褐色	覆土	1/24	
8	甕(S)	-	-	-	b	緻密	良好	外青灰色, 内灰色	覆土	破片	
9	碗(耳)	14.2	-	-	A(2) c	緻密	良好	淡褐色	覆土	1/32	

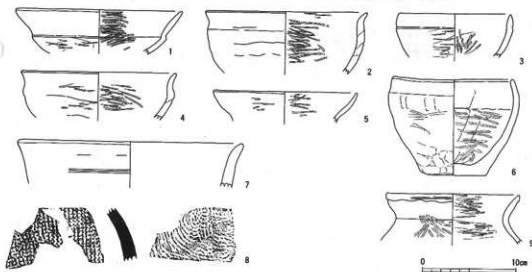
第23表 S I 022土器観察表





- |                               |                          |
|-------------------------------|--------------------------|
| 1 黑色土 (口—A 层, 凝灰岩粒, 少量)       | 6 褐色土 (粘土, 少量)           |
| 2 黄褐色土 (口—A 层, 凝灰岩粒, 炭化物, 少量) | 7 暗赤褐色土 (粘土, 多量, 粘土, 少量) |
| 3 褐色土 (口—A 层, 少量)             | 8 黄灰色土 (粘土)              |
| 4 暗褐色土 (口—A 层, 少量, 粘土, 少量)    | 9 褐色土 (口—A 层, 少量)        |
| 5 灰土 (口—A 层, 少量)              | 10 暗黄褐色土 (口—A 层, 多量)     |

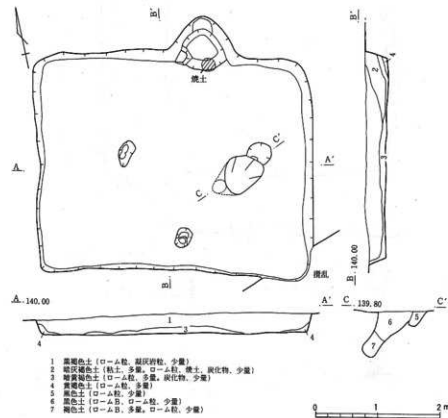
第61图 S I 022



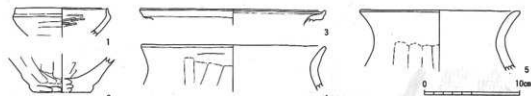
第62图 S I 022出土土器

S I 023

位置 北地区1-7グリッド 平面形 3.5×4.4mの横長長方形。方位 住居：N11°E カマド：N 規模 中 床面 ローム地山で特別堅い面は認められない。壁 72°立ち上がりはなだらかな。周溝 認めず。柱穴 東西中心軸に沿って2本の横持柱。なお東柱穴は後世の斜めに入る土坑によって切られている。南壁中央床にピット1本。(出入口施設に伴うものか?)  
遺物 土師器環1・壺4



第63図 S I 023



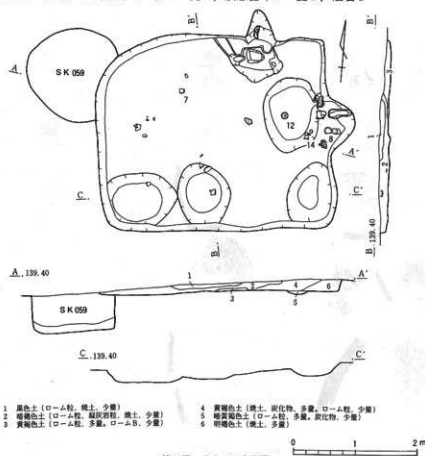
第64図 S I 023出土土器

No.	器種	寸法 (cm)		形態分類	造形手法類	胎土	焼成色	調	出土状態	現存量	備考
		口径	器高								
1	杯(目)	10.4	—	C	d	練面	良好	淡褐色、	覆土	1/12	
2	盃(目)	—	—	6.0	a	小砂粒やや多	良好	暗褐色	覆土	1/24	
3	盃(目)	20.0	—	G(1)	a	石英、小砂粒	良好	褐色	覆土	1/32	
4	盃(目)	18.6	—	A	a	石英、小砂粒	良好	淡褐色	覆土	1/24	
5	盃(目)	16.8	—	A(2)	a	石英、小砂粒	良好	外淡褐色、内黒色	覆土	1/24	

第24表 S I 023土器観察表

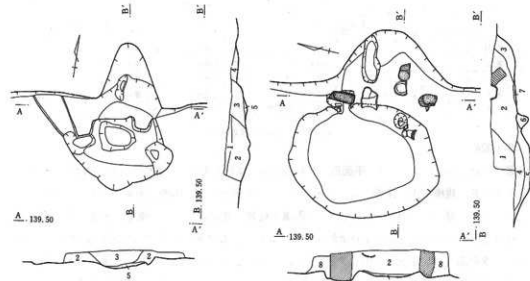
S I 024

位置 北地区K-7グリッド 平面形 3.1×3.8mの横長長方形。方位 住居：N11°E カマド：N・E 規模 中 床面 ローム地山でしまった面をもつ。南西、南東コーナーに床下掘り込みあり。壁 74-76°非常に浅い。間溝・柱穴 共に認めず。備考 床面の3ヶ所の床下掘り込みがあることを除いて特徴的なものはない。カマド 北カマド：全体的に掘り込みは浅く、煙道部のみが住居外へ出るタイプ。両ソデ下にビットが1本ずつある。東カマド：両ソデ付近に凝灰岩切石がみられる。また燃焼部にも同様の石がみられ、これは支脚の可能性がある。規模や遺構の状態から北側から東側に移動したものと推察できる。備考 北西コーナー部がSK 059を切る。遺物 土師器杯7・壺1・甕7、須恵器杯1・甕2、砥石1



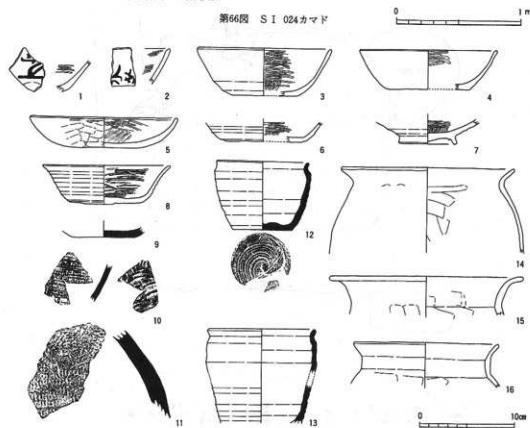
第65図 S I 024実測図

- 1 黒色土 (ローム粒、礫土、少量)
- 2 暗褐色土 (ローム粒、凝灰岩粒、礫土、少量)
- 3 黄褐色土 (ローム粒、少量、ローム砂、少量)
- 4 黄褐色土 (粘土、炭化物、赤炭、ローム粒、少量)
- 5 暗褐色土 (ローム粒、多量、炭化物、少量)
- 6 明褐色土 (粘土、多量)



- |                     |                    |                         |
|---------------------|--------------------|-------------------------|
| 1 黒色土 (ローム粒, 少量)    | 1 黒色土 (黄土粒, 混入)    | 5 黒色土 (ローム粒, 小ローム塊, 少量) |
| 2 黒色土 (ローム粒, 少量)    | 2 赤褐色土 (黄土, 少量)    | 6 暗褐色土 (ローム粒, 混入)       |
| 3 黒色土 (黄土, 粘土質, 少量) | 3 暗褐色土 (黄土質)       | 7 赤褐色土 (黄土)             |
| 4 赤褐色土 (黄土, 少量)     | 4 赤褐色土 (小ローム塊, 混入) | 8 赤褐色土 (ローム粒, 粘土, 混入)   |

第66図 S I 024カマド



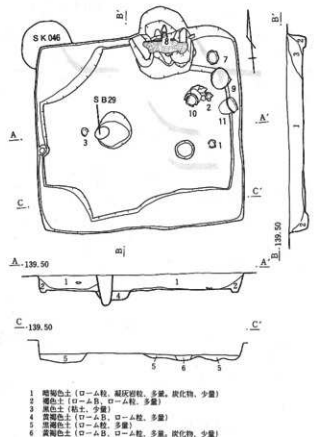
第67図 S I 024出土土器

No.	器 種	寸 法 (cm)		形態 分類	底・壁 形状 分	胎 土	焼成 色 調	出土 状態	項 目 番 号	備 考	
		口径	器高								
1	杯(H)	—	—	J		小砂粒	良好 外淡褐色、内黒色	覆土	1/12	基層「万葉」	
2	杯(H)	—	—	J		小砂粒	良好 淡褐色	αTF	1/12	基層	
3	杯(H)	14.4	5.0	7.0	J(3)	a	小砂粒	良好 淡褐色	αTF	1/4	
4	杯(H)	10.7	4.5	5.0	J(3)	a	石英、小砂粒	良好 外淡褐色、内黒色	覆土	1/5	
5	杯(H)	15.9	3.2	—	G	b	石英、赤色粒	良好 褐色	覆土	1/3	
6	杯(H)	—	—	7.8	J	a	石英、小砂粒	良好 淡褐色	αTF	1/4	
7	碗(H)	—	—	6.4	G	i	石英、小砂粒	良好 外淡褐色、内黒色	覆土	1/3	
8	杯(H)	13.5	4.1	7.8	J(2)	l	雲母、赤色粒	良好 外淡褐色、内黒色	αTF	2/3	
9	杯(S)	—	—	6.5	e		磨面	良好 青灰色	αTF	1/4	
10	碟(S)	—	—	—	b	白色砂粒、小石	良好 青灰色	覆土	破片		
11	碟(S)	—	—	—	c	砂粒、小石	良好 灰白色	覆土	破片		
12	碟(S)	5.6	7.3	6.2	F	k	雲母、小砂粒、石英	良好 暗褐色	覆土	完形	埋付蓋
13	碟(S)	11.2	—	9.6	F	k	雲母、小砂粒、石英	良好 暗褐色	αTF	1/3	
14	碟(H)	18.4	—	—	I	i	石英、小砂粒	良好 褐色	αTF	1/8	
15	碟(H)	20.4	—	—	—	石英、小砂粒多	良好 淡褐色	覆土	1/16		
16	碟(H)	15.4	—	—	II(2)		小砂粒	良好 暗赤褐色	αTF	1/24	

第25表 S I 024土器観察表

S I 025

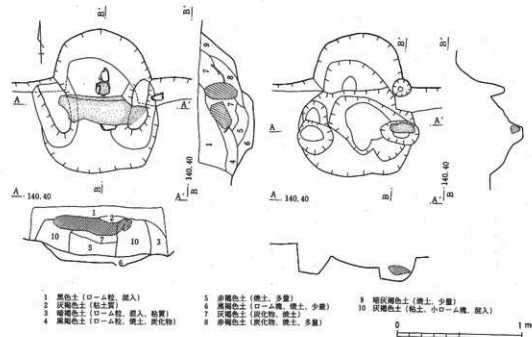
位置 北地区H-6グリッド 平面形 3.0×3.3mのほぼ正方形。方位 住居：N04°E カマド：N規模 中 床面 ローム地山で周辺部は貼床。壁 72-81非常に浅い。周溝 一周し、カマド廻り方に接続する。また四隅床下掘り込みにも接続するが、南側はその幅が非常に広く拡張してしまう。柱穴 認めず。備考 SB29に切られる。SK046を切る。カマド 焚口部と右ソデ前端、支脚に凝灰岩が用いられており、特にソデ部の凝灰岩はその下のビットに差し込まれている。遺物 土師器選6、須恵器杯4・高台付杯1・甕1



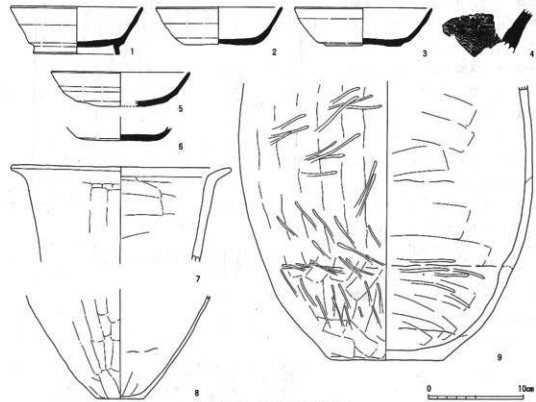
第68図 S I 025実測図

0 1 2m

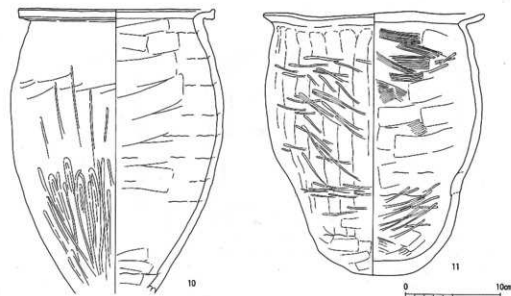
- 1 凝灰岩土 [ローム粒、凝灰岩粒、多量、炭化物、少量]
- 2 凝灰土 [ローム粒、ローム粒、少量]
- 3 灰土 [粘土、少量]
- 4 凝灰土 [ローム粒、ローム粒、少量]
- 5 凝灰土 [ローム粒、少量]
- 6 凝灰土 [ローム粒、ローム粒、少量、炭化物、少量]



第69図 S I 025カマド



第70図 S I 025出土土器 (1)



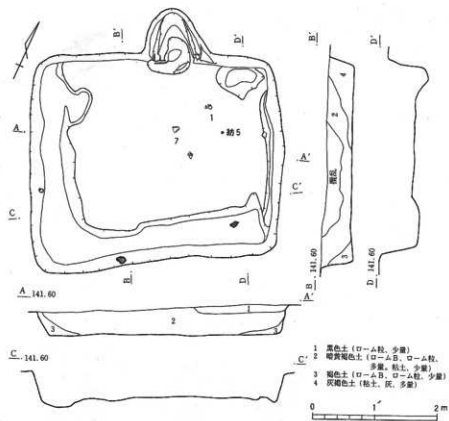
第71図 S I 025出土土器 (2)

No.	器種	寸法 (m)			形態分類	成形手法	胎土	焼色	調	出土状態	残存量	備考
		口径	器高	径差								
1	高台皿	14.1	5.0	9.4	B(1)	a	白色砂粒	良好	灰白色	床面	2/3	
2	環(S)	12.6	4.0	7.4	C	d	白色砂粒	良好	灰白色	床面	4/5	
3	環(S)	14.6	4.1	8.0	C	d	白色砂粒、小石	良好	灰色	覆土	2/3	
4	環(S)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
5	環(S)	14.6	3.7	6.2	D	d	白色砂粒やや多	不良	灰色、一部褐色	覆土	1/3	胴部破状文有り
6	環(S)	—	—	8.4	—	e	白色砂粒	良好	青灰色	覆土	1/5	
7	環(H)	23.8	—	—	E(1)	a	砂粒やや多	良好	褐色	覆土	1/16	
8	環(H)	—	—	4.9	H	a	小砂粒	良好	暗赤褐色	コマド	1/6	
9	環(H)	—	—	12.0	C	b	礫石、砂粒やや多	良好	外褐色、内淡褐色	床面	1/3	
10	環(H)	21.0	—	—	G(1)	m	石英、礫石、小砂粒	良好	淡褐色	床面	4/5	
11	環(H)	23.2	27.7	8.6	C	e	石英、礫石、小砂粒	良好	暗褐色	床面	壳形	外面煤付着

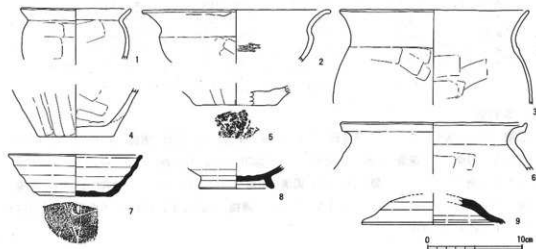
第56表 S I 025土器観察表

S I 026

位置 北地区K-6グリッド 平面形 3.4×4.0mの東西に長い方形 方位 住居:22°W カマド:N 規模 中 床面 西側から南側にかけて幅50~70cmの床下掘り込みが続いており、大きく貼床が施されている。壁 71~81° 周溝 東西のみに認められる。柱穴 認めず。備考 カマド右脇に貯蔵穴があるが不定型で浅い。遺物 土師器鉢1・甕4、須恵器杯1・高台付杯1・蓋1、紡織車1



第72图 S I 026夹陶器



第73图 S I 026出土土器

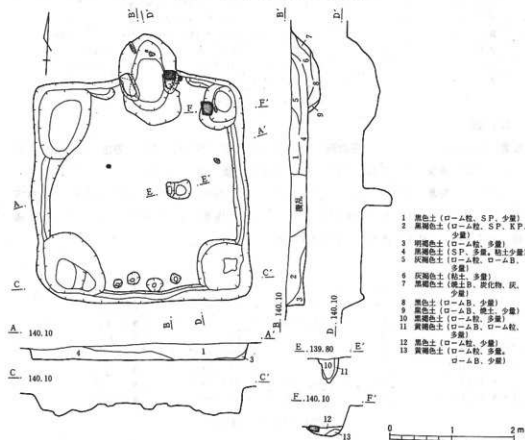


No.	器種	寸法 (cm)		形態・整 別・季 分	胎土	焼成	色調	出土 状態	備 考	
		口径	胎高							
1	甕(H)	11.8	—	A(3)	a	石灰、砂粒	不典 淡褐色	表面	1/12	
2	鉢(H)	20.2	—	A	b	小砂粒	良好 外暗褐色、内黒色	裏土	1/12	
3	甕(H)	20.2	—	B(1)	a	窯母	良好 赤褐色	裏土	1/16	
4	甕(H)	—	8.0	—	a	石灰、窯母、砂粒	良好 淡褐色	裏土	1/16	
5	甕(H)	—	8.0	—	a	砂粒	良好 褐色	裏土	1/16 木炭痕	
6	甕(H)	25.4	—	G(1)	m	窯母、小砂粒	良好 淡褐色	裏土	1/24	
7	杯(S)	13.6	4.4	7.2	C	e	小砂粒、小石	良好 青灰色	表面	1/4
8	高台(S)	—	—	8.2	B(1)	e	白色砂粒	良好 青灰色	表面	1/4 高台内墨痕有り
9	甕(S)	15.2	—	—	—	白色砂粒やや多	良好 灰色	裏土	1/5	

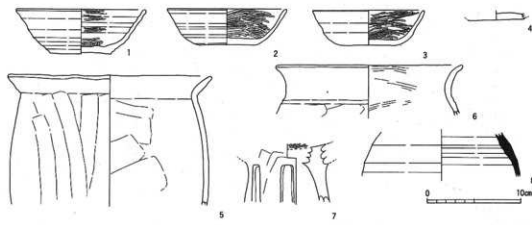
第27表 S I 026土器観察表

S I 027

位置 北地区H-6グリッド 平面形 3.6×3.4mのほぼ正方形 方位 住居：N06°W カマド  
：N 規模 中 床面 平坦、堅い面なし 壁 71~77° 周溝 全周する。カマドのソデの  
下に入りこまず、手前で終了する。また四隅にある床下掘り込みに接続する。 柱穴 中央より  
東偏して深さ45cm径30cmのピットが1本あるのみ。南壁に沿ってピットが4本並ぶ。(出入口敷  
設か?) 遺物 土師器坏4・高坏1・甕2、須恵器蓋2、紡錘車1



第74図 S I 027実測図



第75図 S I 027出土土器

No.	器種	寸法 (cm)			形態 口徑	底径	胎土	焼成 色調	出土 状態	残存 量	備考
		口徑	器高	底径							
1	杯(Ⅱ)	13.6	4.7	6.4	J(3)	a	良好 外黒色、内暗褐色	Ⅱ/2	外部保付着		
2	杯(Ⅱ)	12.8	3.8	6.2	J(3)	a	良好 外淡褐色、内黒色	Ⅱ/3	内黒		
3	杯(Ⅱ)	12.0	3.9	6.0	J(3)	a	良好 外淡褐色、内黒色	Ⅱ/3	内黒		
4	杯(Ⅱ)	—	—	6.0	—	a	良好 外淡褐色、内黒色	Ⅱ/5	内黒		
5	甕(Ⅱ)	21.6	—	—	I	j	良好 外暗褐色、内褐色	Ⅱ/8	外部保付着		
6	甕(Ⅱ)	20.0	—	—	II(2)	a	良好 淡褐色	Ⅱ/24			
7	高坪96	—	—	—	C	—	良好 褐色	Ⅱ/16	内黒		
8	甕(S)	—	—	—	—	e	良好 灰白色	Ⅱ/23			

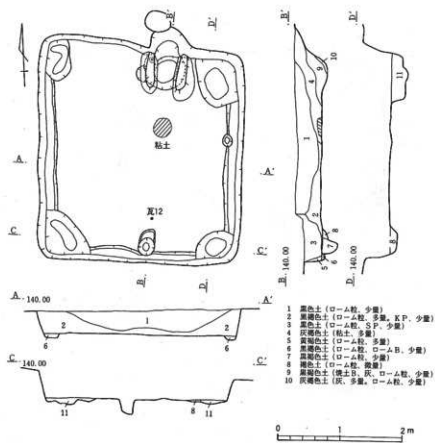
第28表 S I 027土器観察表

S I 028

位置 北地区 I-6 グリッド 平面形 3.6×3.3mの南北に若干長い方形 方位 住居: N04°E  
 カマド: N 規模 中 床面 平坦 ローム地山床 壁 71~73°斜度が同一でなく段がつく箇所がある。 周溝 全周するがカマドまで到達しない。四隅の床下掘り込みに接続する。 柱穴 認めず。 南壁中央の床面上で周溝を切るビット1本。 備考 カマドがビットに切られる。 遺物 土器器塊1・鉢1・甕2、須恵器鉢1・壺1

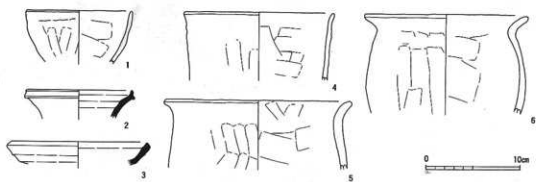
No.	器種	寸法 (cm)			形態 口徑	底径	胎土	焼成 色調	出土 状態	残存 量	備考
		口徑	器高	底径							
1	埴(Ⅱ)	11.4	—	—	D	f	良好 淡褐色	Ⅱ/4			
2	甕(S)	11.4	—	—	A	c	良好 灰白色	Ⅱ/32			
3	鉢(S)	15.0	—	—	A	c	良好 暗黄灰色	Ⅱ/8			
4	鉢(Ⅱ)	16.2	—	—	E	f	良好 暗褐色	Ⅱ/8			
5	甕(Ⅱ)	20.3	—	—	DI(1)	a	良好 暗褐色	Ⅱ/12			
6	甕(Ⅱ)	17.2	—	—	A(2)	a	良好 褐色	Ⅱ/12			

第29表 S I 028土器観察表



- 1 黒色土 (ローム粒、少量)
- 2 黒褐色土 (ローム粒、多量、K.P.、少量)
- 3 黒色土 (ローム粒、S.F.、少量)
- 4 灰色土 (粘土、少量)
- 5 黒褐色土 (ローム粒、多量)
- 6 黒褐色土 (ローム粒、C.A.B.、少量)
- 7 黒褐色土 (ローム粒、少量)
- 8 褐色土 (ローム粒、少量)
- 9 黒褐色土 (粘土、K.、ローム粒、少量)
- 10 灰褐色土 (灰、多量、ローム粒、少量)

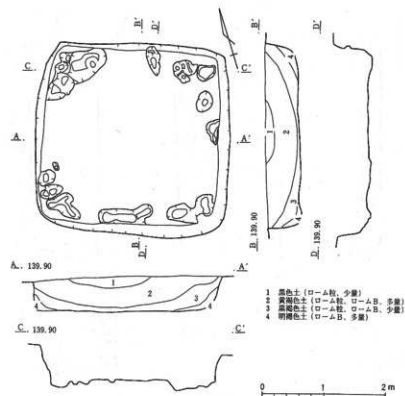
第76図 S I 028実測図



第77図 S I 028出土土器

S I 029

位置 北地区J-6グリッド 平面形 一辺3.1mの正方形 方位 住居：N13°E 規模 中  
 床面 四隅に不規則な掘り込みがある。壁 72~86°深いが斜面に段がついている箇所があり、  
 全体的に雑な印象がある。周溝・柱穴 共に認めず。備考 カマド認めず。遺物 土師器  
 埴1・甕1、須恵器甕1



第78図 S I 029実測図



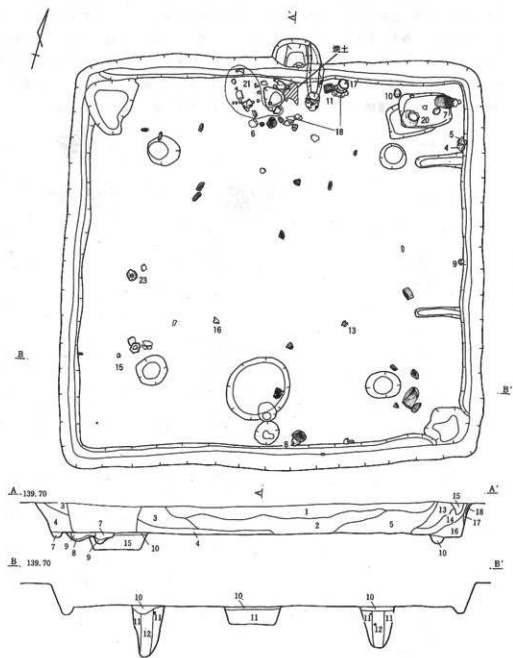
第79図 S I 029出土土器

No.	器種	寸法 (cm)		形状・整 形非 分類	胎土	焼成	色	土質	出土 状態	残存 量	備 考
		口径	器高								
1	埴(皿)	13.8	-	D	f	石英、砂粒多	良好	淡褐色	覆土	1/4	
2	埴(皿)	-	-	9.0		石英、雲母、砂粒	良好	淡褐色	覆土	1/32	
3	埴(S)	-	-		b	粘質	良好	灰白色	覆土	破片	

第30表 S I 029土器観察表

S I 030

位置 北地区J-6グリッド 平面形 6.7×6.8mのほぼ正方形 方位 住居：N12°W カマド  
：N 規模 大 床面 ほぼ平坦、中央部はローム地山の堅い面がある。貼床は部分的に見られ  
る程度。壁 70-73° 40-50cmと深くしっかりしている。周溝 カマド下を通り全周する。



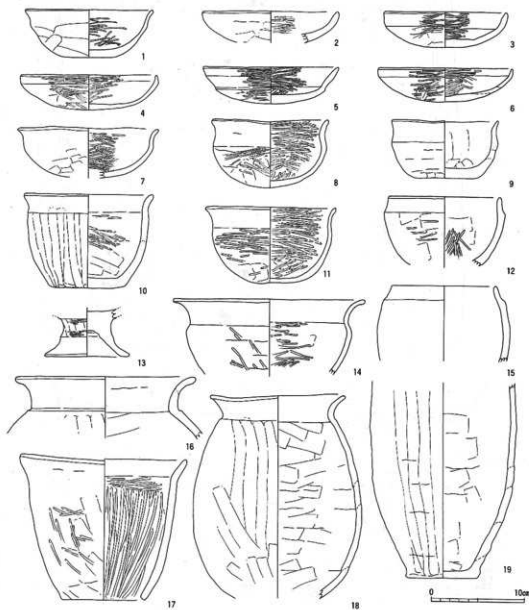
1 褐色土 (K.P., 凝灰岩粒, 少量)  
 2 暗褐色土 (炭化物, 少量)  
 3 赤褐色土 (凝灰岩粒, 少量)  
 4 暗紫褐色土 (凝灰岩粒, 少量)  
 5 灰褐色土 (粘土, 少量)  
 6 乳白色粘土

7 黑褐色土 (ローム粒, 少量)  
 8 黄褐色土 (ローム粒, 少量)  
 9 暗褐色土 (炭化物, 少量)  
 10 暗褐色土 (ローム粒, 少量)  
 11 暗褐色土 (ローム粒, 少量)  
 12 黑色土

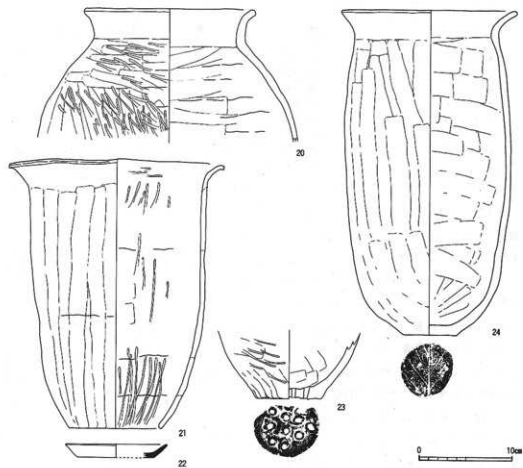
13 灰褐色土 (粘土, ローム粒, 少量)  
 14 赤褐色土 (粘土, 少量)  
 15 褐色土 (粘土, 少量)  
 16 赤褐色土 (凝灰岩, 少量)  
 17 黄褐色土 (凝灰岩)  
 18 黑色土 (ローム粒, 少量)

第80図 S I 030実測図

北西と南東コーナーに周溝と接続しない深さ約10cmの床下掘り込みがある。柱穴 4本スクエア形に配置し大型。径40～55cm、深さ60～85cm。南壁中央の床面にピットが2本（出入口施設に伴うものか？）備考 北東コーナーに貯蔵穴がある。切り合いのように見えるが、一方は極めて浅い。東壁に二つの間仕切り状の溝がある。カマド 燃焼部は主に内側でソデが住居内に突出し、カマド下を周溝が通るタイプ。ただし調査において左ソデは確認できなかった。燃焼部に焼床が認められる。遺物 土師器杯7・埴4・高坏1・鉢2・甕6・甗3、須恵器杯1



第81図 S I 030出土土器 (1)



第82图 S I 030出土土器 (2)

No.	器 種	寸 法 (cm)			形 態 分 類	底、壁 分 類	胎 土	燒 成 色 調	出 土 狀 態	残 存 量	備 考
		口 徑	器 高	底 徑							
1	埴 (耳)	13.5	5.0	-	D	b	砂粒	良好	褐色	覆土	1/2
2	埴 (耳)	14.6	-	-	G	d	小砂粒	良好	暗褐色	覆土	1/4
3	埴 (耳)	13.2	3.7	-	C	a	礫石、小砂粒	良好	外淡褐色, 内黑色	覆土	1/2 内黑
4	埴 (耳)	14.6	3.75	-	E	a	石灰、礫石、小砂粒	良好	淡褐色	覆土	完形
5	埴 (耳)	14.5	3.9	-	F(1)	a	礫石、砂粒々々多	良好	外淡褐色, 内黑色	覆土	2/3 内黑
6	埴 (耳)	14.5	3.6	-	E	a	礫石、砂粒々々多	良好	淡褐色	覆土	4/5
7	埴 (耳)	15.0	5.3	-	A	b	石灰、礫石	良好	淡褐色	土坑	1/2
8	埴 (耳)	12.6	7.2	-	A	b	石灰、砂粒々々多	良好	淡褐色	床面	完形
9	埴 (耳)	11.5	6.1	6.5	D	e	石灰、小砂粒	良好	黑褐色	床面	1/2
10	埴 (耳)	13.8	8.0	7.6	D(3)	j	礫石、砂粒多	良好	淡褐色	床面	2/3
11	埴 (耳)	14.0	8.1	-	A	b	礫石、砂粒々々多	良好	褐色	覆土	完形
12	埴 (耳)	12.2	-	-	C	f	小砂粒	良好	淡褐色	覆土	1/4
13	高坏(砂)	-	-	9.0	b	b	石灰、砂粒	良好	淡褐色	覆土	1/3
14	埴 (耳)	20.6	-	-	A	b	小砂粒	良好	暗褐色	覆土	1/4 外編織付着

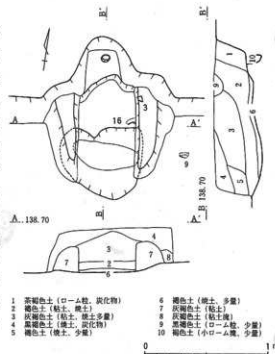
第31表 S I 030土器觀察表 (1)

No.	器種	寸法 (cm)	形態	成・整	胎	土	焼成	色	調	出土	残	備	考
		口径	器高	口径	形分類	形分類				状態	存	備	
15	鉢(Ⅱ)	11.2	—	—	B(1)	a	石灰、砂粒	不良	赤褐色	覆土	1/4	2次焼成	
16	甌(Ⅱ)	19.2	—	—	A(1)	a	石灰、小砂粒	良好	淡褐色	坪面	1/28		
17	甌(Ⅱ)	17.6	15.5	9.0	A(2)	b	石灰、礫石、砂粒	良好	褐色	σマフ	完形		
18	甌(Ⅱ)	14.6	—	—	C	a	石灰、雲母、砂粒	良好	淡褐色	σマフ	2/3	外側焼粘土層付着	
19	甌(Ⅱ)	—	7.5	D(1)	J		石灰、砂粒、小石	良好	外褐色、内暗褐色	覆土	1/4		
20	甌(Ⅱ)	17.6	—	—	A(1)	b	石灰、砂粒、小石	良好	淡褐色	土沈	1/2	外側層付着	
21	甌(Ⅱ)	23.0	28.5	10.0	A(1)	c	石灰、礫石、砂粒多	良好	褐色	σマフ	完形	2次焼成	
22	皿(S)	10.8	1.1	5.4	c		硬胎	良好	灰白色	覆土	1/12		
23	甌(Ⅱ)	—	7.0	C	b		石灰、礫石、砂粒	良好	赤褐色	覆土	1/8	小孔11, 2次焼成	
24	甌(Ⅱ)	18.8	34.5	5.5	D(1)	a	石灰、砂粒やや多	不良	褐色	σマフ	完形	2次焼成, 木炭痕	

第32表 S I 030土器観察表(2)

S I 031

位置 北地区L-6グリッド 平面形 4.3×4.5mのほぼ正方形 方位 住居: N05°W カマド: N 規模 中 床面 拡張前の旧住居上に貼床が施されている。拡張後の床面はロームの地山である。壁 68-82°立ち上がりにはばらつきがある。周溝 拡張に伴い周溝も三重に廻っている。北側から東側の壁直下の周溝が第3期目に拡張された最終の住居の周溝である。柱穴 4本。第1期の住居を切る。したがって第2期か第3期に伴う柱穴である。備考 2回にわたる建て替えが行われ、その度に拡張されている。北壁は動かさず東、西、南方向に拡張されている。カマド 凸形で煙道部に段をもつ。燃焼部から焚口部にかけて深さ約7cmの掘り込みがある。遺物 土師器杯1・高杯1・鉢1・甌4・甌1



第33表 S I 031カマド

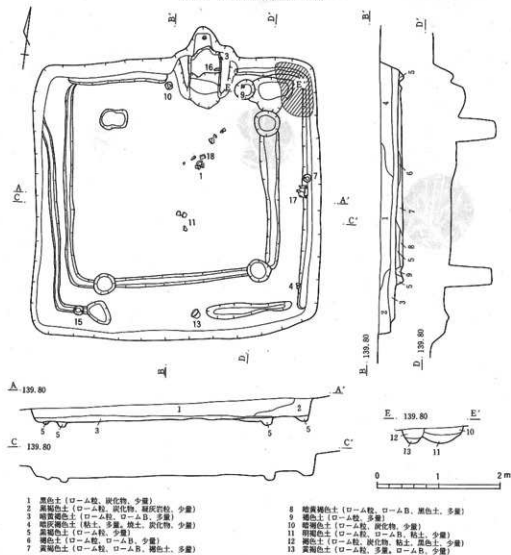
No.	器種	寸法 (cm)	形態	成・整	胎	土	焼成	色	調	出土	残	備	考
		口径	器高	口径	形分類	形分類				状態	存	備	
1	杯(Ⅱ)	12.8	—	—	D	a	礫石、砂粒やや多	良好	淡褐色	覆土	完形		
2	杯(Ⅱ)	17.0	—	—	F(1)	a	雲母、小砂粒	良好	暗褐色	覆土	1/4		
3	杯(Ⅱ)	14.0	—	—	C	a	礫石、砂粒多	良好	暗褐色	σマフ	1/4		
4	杯(Ⅱ)	12.6	5.0	—	C	c	白色砂粒、礫石	良好	暗褐色	覆土	完形	内面層付着	
5	杯(Ⅱ)	15.0	—	—	F(2)	a	小砂粒	良好	淡褐色	覆土	1/3		
6	杯(Ⅱ)	15.0	—	—	F(1)	a	雲母、小砂粒	良好	黒褐色	覆土	1/3	内底	
7	杯(Ⅱ)	12.5	4.9	—	C	a	砂粒やや多	良好	淡褐色	覆土	完形	内面一部層付着	
8	杯(Ⅱ)	15.0	—	—	C	a	小砂粒	良好	暗褐色	覆土	1/5		

第33表 S I 031土器観察表(1)

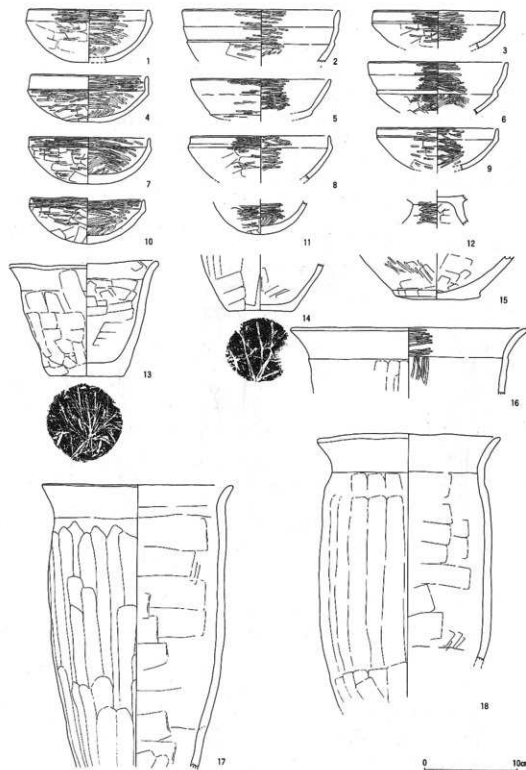


No.	器種	寸法 (cm)		形態或分類	或、裝飾分類	胎土	燒成	色調	出土	残存	備考	
		口径	器高									底徑
9	杯(Ⅱ)	13.0	—	C	a	小砂粒	良好	淡褐色	57F	1/5		
10	杯(Ⅱ)	12.2	4.8	D	a	石英、砂粒	良好	淡褐色	蓮土	完整		
11	杯(Ⅱ)	—	—	—	a	雲母、小砂粒	良好	淡褐色	蓮土	1/3	煤付物	
12	高杯(Ⅱ)	—	—	—	h	石英、小砂粒	良好	淡褐色	蓮土	1/6	內底	
13	壺(Ⅱ)	15.4	12.4	7.8	E(2)	a	石英、砂粒、小石	良好	淡褐色	蓮土	完整	木蓋底
14	壺(Ⅱ)	—	—	7.0	D	a	輝石、砂粒多	良好	褐色	蓮土	1/12	木蓋底
15	壺(Ⅱ)	—	—	9.0	b	石英、砂粒や砂多	良好	外底褐色、内黑色	蓮土	1/18	外面煤付物	
16	甌(Ⅱ)	25.6	—	—	A(1)	c	石英、砂粒	良好	褐色	蓮土	1/24	
17	壺(Ⅱ)	20.4	—	—	E(1)	j	石英、砂粒多	良好	褐色	蓮土	2/3	外面煤付物
18	壺(Ⅱ)	19.6	—	—	D(1)	j	石英、砂粒、小石	良好	褐色	57F	4/5	2次燒成

第34表 S I 031土器観察表(2)



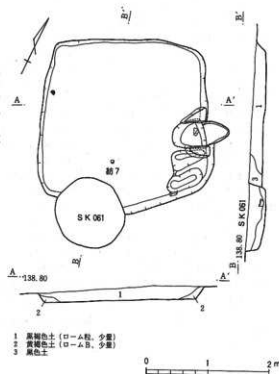
第34圖 S I 031



第85图 S I 031出土土器

## S 1032

位置 北地区L-7グリッド 平面形 北辺、東辺2.3m 西辺、南辺2.6mの菱形 方位 住居：N25°W カマド：N 規模 小床面 ほぼ平坦で堅い。壁 52~69° 約20cmと浅い。周溝・柱穴 共に認めず。備考 南東コーナー部をS K061に切られる。遺物 紡錘車 1



第86図 S 1032

## S 1033

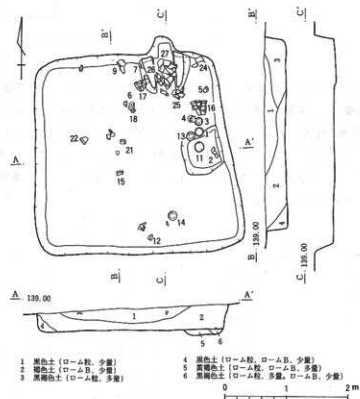
位置 北地区L-7グリッド 平面形 北辺2.8m、南辺3.3m、縦3mの台形 方位 住居：N0° カマド：N 規模 中 床面 平坦なローム地山で、東壁中央床面に浅い(7cm)の土坑がある。壁 68~70° 周溝・柱穴 共に認めず。カマド 煙道部のみが壁外へコの字形に突出するタイプ。焚口部のソデ前端には凝灰岩、その上部を長胴の甕を2本つないで渡した様子であるが、前部に倒伏している。支脚用のピットとそれに伴う凝灰岩製の支脚がある。遺物 土師器環1・2・壺2・高坏1・鉢2・甕8・甌1

No.	器種	寸法 (cm)		形態 口縁	口径	高さ	底径	分	或・整 形分 類	胎土	焼成	色	調	出土 状態	残 存 量	備 考
		口縁	高さ													
1	坏(豆)	14.2	4.8	—	C	f	小砂粒	良好	淡褐色	甌	完好	内面一部漆付着				
2	坏(豆)	12.3	4.6	—	I	a	小砂粒, 小石	良好	褐色	甌	完好	面入り				
3	坏(豆)	12.0	4.3	—	C	a	石灰, 小砂粒	良好	褐色	甌	完好	外面2次焼成				
4	坏(豆)	12.5	4.3	—	E	a	輝石, 小砂粒	良好	褐色	甌	4/5					
5	坏(豆)	11.0	4.0	6.0	I	c	輝石, 砂粒やや多	不良	暗褐色	甌	1/2					
6	壺(豆)	12.4	5.6	6.0	D	c	輝石, 小砂粒やや多	良好	暗褐色	甌	2/3	木炭灰				
7	坏(豆)	14.0	3.4	5.8	I	a	石灰, 小砂粒	良好	暗褐色	甌	4/5	木炭灰				
8	坏(豆)	14.0	—	—	C	c	輝石, 小砂粒	良好	褐色	甌	1/5	内面漆付着				
9	鉢(豆)	12.8	10.0	6.0	B(2)	e	石灰, 雲母, 小砂粒	良好	褐色	甌	完好	内面黒げつき有り				

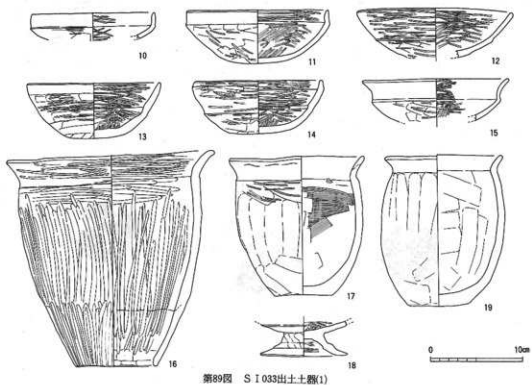
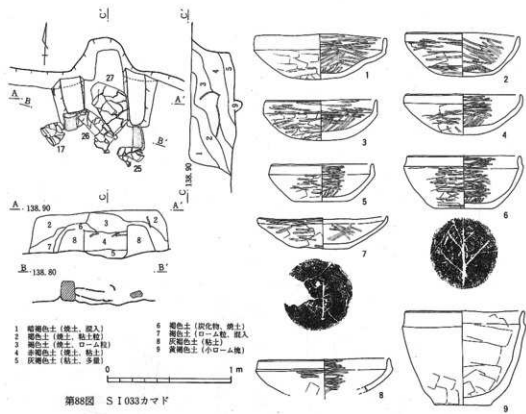
第35表 S 1033土器観察表 (1)

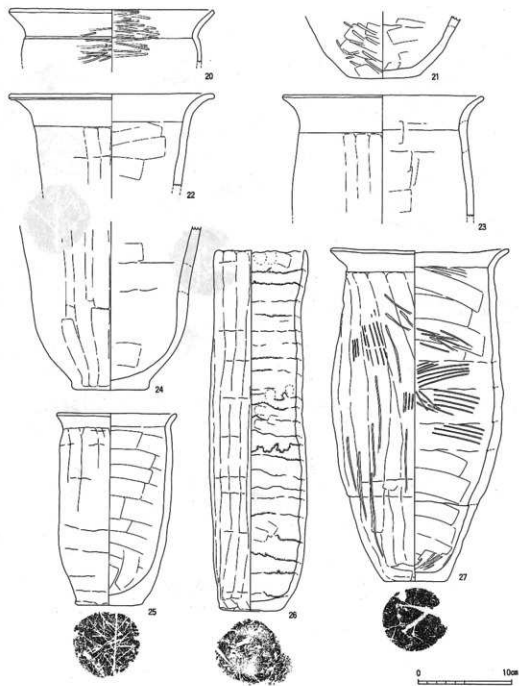
No.	層 号	寸 法 (m)		形 状	成 形	胎 土	燒 成	色 澤	出 土 状 態	残 存 量	備 考
		口徑	底徑	口徑	底徑	胎 土	燒 成	色 澤	出 土 状 態	残 存 量	備 考
10	杯(耳)	13.0	—	C	d	砂粒	良好	淡褐色	覆土	1/4	
11	杯(耳)	15.0	5.7	C	a	礫石, 小砂粒やや多	良好	褐色	覆土	4/5	内黒
12	杯(耳)	16.8	—	F(2)	a	礫石, 小砂粒	良好	外褐色, 内黒色	覆土	4/5	内黒
13	杯(耳)	14.2	4.9	F(1)	a	礫石, 小砂粒やや多	良好	褐色	覆土	完形	内面珐瑯付着
14	杯(耳)	13.7	3.6	F(1)	a	礫石, 小砂粒	良好	褐色	覆土	完形	内面珐瑯付着
15	杯(耳)	15.8	—	H	e	石英, 小砂粒	良好	暗赤褐色	覆土	1/4	
16	碗(耳)	22.2	22.8	A(1)	a	雲母, 小砂粒	良好	淡褐色	57F	完形	
17	碗(耳)	15.2	14.8	D(3)	g	石英, 礫石, 砂粒	良好	褐色	57F	完形	内面黒いつき有り
18	高坏(耳)	—	9.4	A	a	礫石, 雲母	良好	褐色	覆土	1/3	外面2次燒成
19	钵(耳)	12.3	16.0	D(3)	a	石英, 礫石, 砂粒	良好	淡褐色	57F	完形	外面焼粘土付着
20	钵(耳)	22.0	—	A	b	石英, 礫石, 砂粒	良好	暗褐色	覆土	1/6	
21	钵(耳)	—	7.0	A	a	石英, 小砂粒やや多	良好	暗褐色	覆土	1/16	外面2次燒成
22	钵(耳)	22.0	—	E(1)	a	石英, 小砂粒やや多	良好	外褐色, 内黒褐色	覆土	1/18	外面焼粘土付着
23	钵(耳)	21.6	—	D(1)	j	石英, 小砂粒やや多	良好	暗褐色	覆土	1/3	
24	钵(耳)	—	8.2	D(1)	j	石英, 小砂粒やや多	良好	褐色	坏面	1/8	外面2次燒成
25	钵(耳)	12.8	20.3	E(2)	i	石英, 礫石, 小砂粒	良好	淡褐色	57F	完形	2次燒成, 木炭灰
26	(耳)	9.3	38.3	6.5		石英, 礫石, 小砂粒	良好	淡褐色	57F	完形	2次燒成, 輪轆板
27	钵(耳)	19.4	35.4	6.8	D(1)	g	石英, 小砂粒やや多	良好	57F	完形	外面2次燒成

第36表 S I 033土器調査表(2)



第37図 S I 033

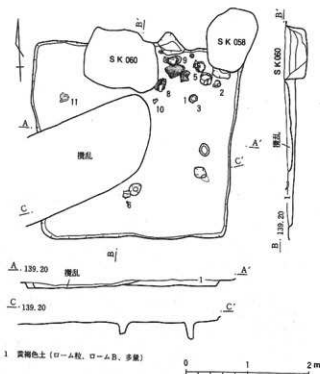




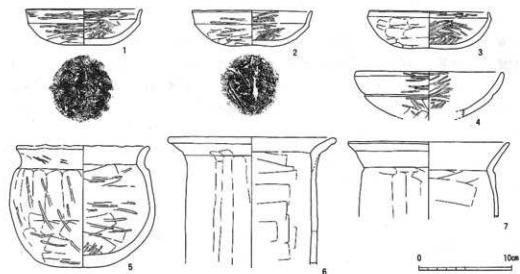
第90图 S1033出土土器(2)

S I 034

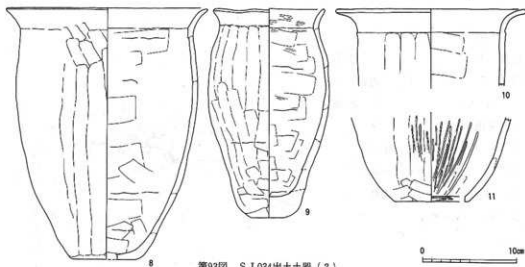
位置 北地区K-7グリッド 平面  
 形 3.2×3.1mの正方形 方位 住  
 居：N 06°E カマド：N 規模  
 中 床面 ローム地山 壁 62-  
 69°深さ10cm。 周溝・柱穴 共に  
 認めず。 備考 カマド両脇をS K  
 058, S K 060が切る。 遺物 土師  
 器 坏 4・甕 6・瓶 1



第91図 S I 034



第92図 S I 034出土土器 (1)



第93図 S I 034出土土器 (2)

No.	器種	寸法 (cm)			形態分類	造形手法分類	胎土	構成	色調	出土状態	数量	備考
		口径	器高	底径								
1	杯(Ⅱ)	12.4	3.8	—	B	a	石灰、輝石、小砂粒	良好	褐色	≠VF	4/5	木蓋痕
2	杯(Ⅱ)	13.0	3.5	—	B	a	石灰、輝石、雲母	良好	褐色	≠VF	1	底部に木蓋痕残す
3	杯(Ⅱ)	13.0	4.0	6.0	D	d	石灰、輝石、小砂粒	良好	褐色	≠VF	1	底部に木蓋痕残す
4	杯(Ⅱ)	16.2	—	—	F(1)	a	輝石、小砂粒	良好	赤褐色	覆土	1/5	
5	壺(Ⅱ)	14.2	12.9	4.5	A(3)	c	緻密	良好	淡褐色	覆土	2/3	
6	壺(Ⅱ)	18.2	—	—	E(1)	j	石灰、砂粒	良好	淡褐色	覆土	1/12	外面一部焼粘土付
7	壺(Ⅱ)	20.5	—	—	D	a	石灰、輝石、砂粒	不良	暗褐色	覆土	1/24	
8	壺(Ⅱ)	21.6	26.7	7.0	D(1)	a	石灰、輝石、砂粒多	良好	褐色	≠VF	1/6	2次焼成
9	壺(Ⅱ)	12.0	22.3	3.5	C	a	石灰、輝石、小砂粒	良好	暗赤褐色	≠VF	4/5	外面一部焼粘土付
10	壺(Ⅱ)	17.4	—	—	E	a	石灰、輝石、砂粒	不良	暗褐色	覆土	1/24	
11	甗(Ⅱ)	—	—	8.0	A(1)	b	石灰、輝石、砂粒	良好	淡褐色	床面	1/12	

第57表 S I 034土器調査表

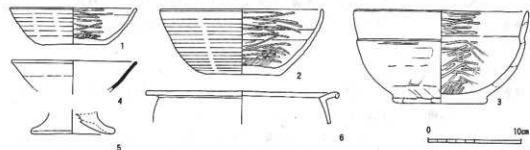
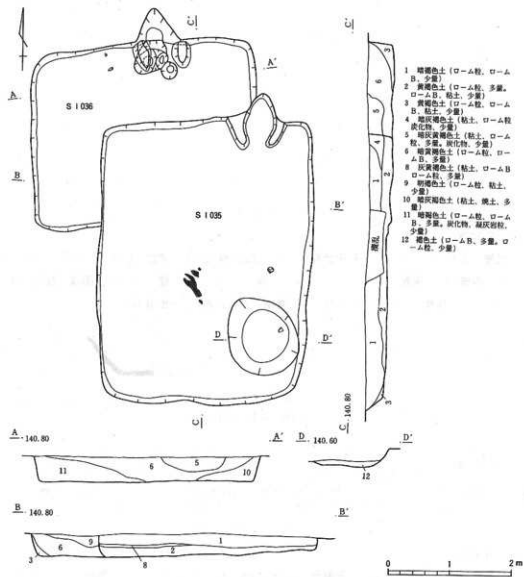
S I 035

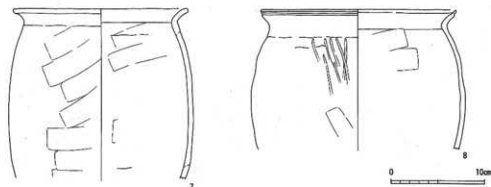
位置 北地区G-6グリッド 平面形 4.6×3.5mの長方形 方位 住居：N04°E カマド：N規模 中 床面 北側は貼床、南側はローム地山。(北側はS I 036の埋土上にあるため) 壁 58~83° 東壁の一部は後世の掘込みによって切られている。 周溝・柱穴 共に認めず。 備考 南東コーナー部に床下土坑あり。S I 036を切る。 遺物 土師器杯1・埴1・鉢1・壺4、須恵器杯1

No.	器種	寸法 (cm)			形態分類	造形手法分類	胎土	構成	色調	出土状態	数量	備考
		口径	器高	底径								
1	杯(Ⅱ)	13.5	4.9	6.8	J(3)	n	石灰、小砂粒	良好	外赤褐色、内褐色	覆土	2/3	内底
2	壺(Ⅱ)	17.6	7.1	7.9	F	i	石灰、小砂粒	良好	外暗褐色、内褐色	覆土	4/5	内底
3	鉢(Ⅱ)	19.0	10.0	10.0	C	b	石灰、輝石、砂粒	良好	褐色	≠VF	1/2	2次焼成
4	甗(S)	13.2	—	—			緻密	良好	青灰色	覆土	1/6	ヘラ跡あり「十」
5	壺(Ⅱ)	—	—	9.0	F		砂粒	良好	褐色	覆土	1/18	
6	壺(Ⅱ)	20.6	—	—	I		砂粒	良好	淡褐色	覆土	1/32	外面埋付層
7	壺(Ⅱ)	18.6	—	—	I	p	石灰、輝石、砂粒多	良好	暗褐色	覆土	1/4	
8	壺(Ⅱ)	20.9	—	—	G(2)	m	石灰、長石、砂粒	良好	淡褐色	覆土	1/6	2次焼成

第38表 S I 035土器調査表







第96図 S I 035土器実測図(2)

S I 035

位置 北地区G-6グリッド 平面形 2.9×3.7mの横長方形 方位 住居：N03°W カマド：N 規模 中 床面 ロームによって貼床が施されている。壁 77~81° 周溝・柱穴 共に認めず。備考 S I 035に切られる。遺物 土師器埴1, 須恵器杯1



第97図 S I 036出土土器

No.	器種	寸法 (cm)		形態 口徑	口径 底径	分類	埴・整 形手法 分類	胎 土	焼成 色	調	出土 状態	埋 入 層	備 考
		高さ	底径										
1	埴(耳)	21.0	—	C	a		礫石, 小砂粒	良好	褐色		キマフ	1/25	2次焼成
2	杯(S)	14.4	4.2	D	e		白色砂粒やや多	良好	青灰色		礫土	1/3	

第39表 S I 036土器観察表

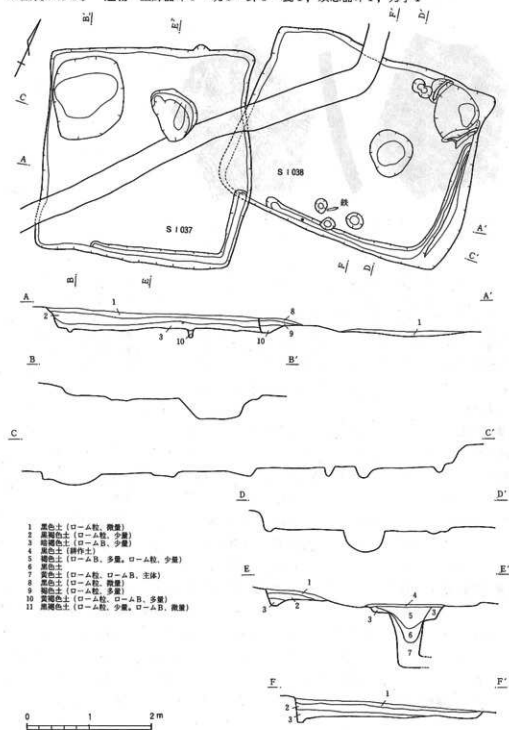
S I 037

位置 北地区J-3グリッド 平面形 3.5×3.3mの若干南北に長い方形 方位 住居：N17°W カマド：N 規模 中 床面 貼床であるが堅くしまった面は認められない。壁 地形の傾斜により北壁は殆どない状態。67~76° 周溝 南壁から南東壁に廻っている。柱穴 認めず。備考 北西コーナーに床下掘り込み。中心からやや北東寄りに深さ約1mの土坑あり。S I 038を切る。

S I 038

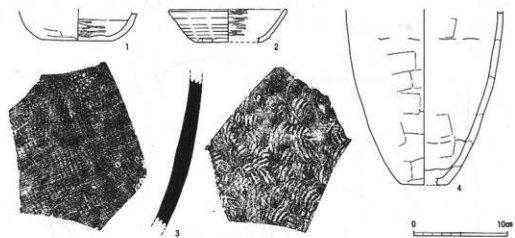
位置 北地区I-3グリッド 平面形 3.1×3.8mの東西に長い方形 方位 住居：N03°E カマド：NE 規模 中 床面 貼床であるが堅くしまった面は認められない。壁 70~85° 地形の傾斜により壁の残りは良好でない。周溝 東側及び南側にある。カマドの掘り方には接続しない。東壁と周溝の間に狭いテラス状の平坦面を持つ。柱穴 主柱穴は認められない。南

側中央にピット3本が集中する。(出入口施設に伴うものか?) 備考 中央やや東寄りに径70cmの土坑がある。遺物 土師器杯1・埴1・鉢1・甕1, 須恵器杯1, 刀子1



- 1 黒色土 (ロ-A粒, 散層)
- 2 黒褐色土 (ロ-A粒, 少量)
- 3 褐色土 (ロ-A粒, 少量)
- 4 黒色土 (耕作土)
- 5 褐色土 (ロ-A粒, 少量, ロ-A粒, 少量)
- 6 黒色土
- 7 赤褐色土 (ロ-A粒, ロ-A粒, 主縁)
- 8 黒色土 (ロ-A粒, 散層)
- 9 褐色土 (ロ-A粒, 少量)
- 10 赤褐色土 (ロ-A粒, ロ-A粒, 少量)
- 11 黒褐色土 (ロ-A粒, 少量, ロ-A粒, 散層)

第98図 S I 037・038



第99図 S I 038出土土器

No.	器 種	寸 法 (cm)		形制	模・整 形手法	胎 土	焼成	色	出 土 状 態	備 考	
		口径	器高								底径
1	杯(耳)	—	—	7.5	J	i	石灰, 黒色粒多	良好	褐色	壘土	1/3
2	杯(耳)	16.0	3.5	9.8	J(2)		炭粉(網目)	良好	褐色	壘土	1/8
3	葉(S)	—	—	—		b	石灰, 黒色粒, 網目	良好	灰色	壘土	破片
4	葉(耳)	—	—	5.5	I	P	黒色粒, 砂粒多	良好	褐色	壘土	1/8

第40表 S I 038土器観察表

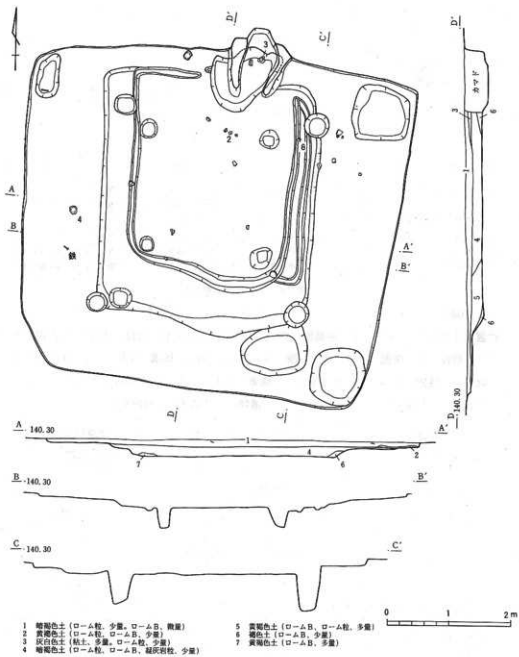
S I 039

位置 南地区C-11グリッド 方位 住居：N06°E カマド：N

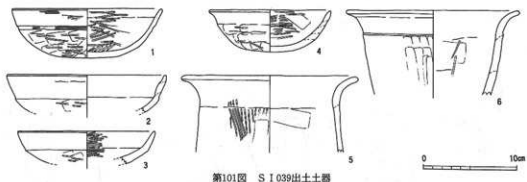
最低2回の建て替えがあり、拡張されている。

第1期	平面形	2.6×3.0m	第2期	平面形	4.0×3.4m	第3期	平面形	5.3×6.0m
	規模	中		規模	中		規模	大
	床面	ローム地山		床面	中央部貼床		床面	中央部貼床
	周溝	全周する		周溝	東側のみ		周溝	なし
	柱穴	なし		柱穴	4本		柱穴	4本

備考 拡張は北辺を基に行われており、第1期と第2期は北壁を共有する。第3期についても同様であるが、若干北を拡張している。また第3期に移行する前に小規模な第2期の東拡張があった可能性がある。第2期の東側周溝はその時点の遺構である可能性もある。床下掘り込みは第3期にのみ認められる。それも南西コーナーを除く各コーナーに浅いものが認められる。カマド凸形の掘り方をもち、ソダは内側に突出する。拡張に伴う以前の掘り方が、床下の掘り込みに認められる。遺物 土師器杯1・壺1・鉢1・葉4, 須恵器杯1, 鉄器刀子1・不明鉄製品1



第100回 S 1039



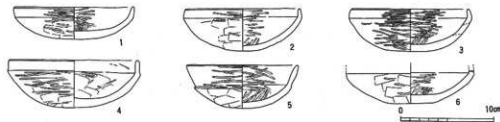
第101図 S I 039出土土器

No.	器種	寸法 (cm)	形態分類	成・整手形分類	胎土	焼成	色調	出土状態	残存量	備考
1	杯(耳)	16.0 5.3 -	F(1)	a	石英, 砂粒やや多	良好	赤褐色, 内黒色	覆土	4/5	内底
2	杯(耳)	17.0 - -	F(1)	g	石英, 小砂粒	良好	赤褐色, 内黒色	覆土	1/8	内底
3	杯(耳)	14.6 - -	G	c	石英, 小砂粒	良好	褐色	コヤフ	1/8	
4	杯(耳)	13.0 4.5 -	H	h	石英, 砂粒やや多	良好	褐色	覆土	4/5	
5	壺(耳)	19.0 - -	D	f	石英, 小砂粒	良好	赤褐色	覆土	1/28	外面輝付層
6	壺(耳)	18.6 - -	E(2)	a	石英, 黒色粒, 砂粒	良好	灰褐色	覆土	1/24	外面輝付層

第101表 S I 039土器観察表

S I 040

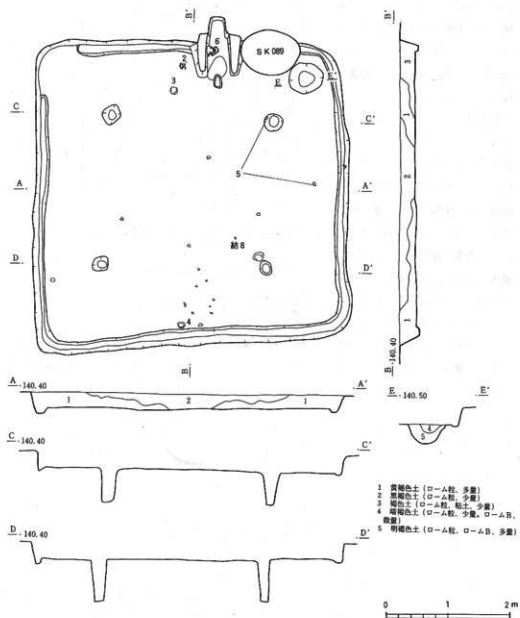
位置 北地区C-9グリッド 平面形 4.9×5.1mのほぼ正方形 方位 住居: N03°W カマド  
 : N 規模 大 床面 ローム地山 壁 50~78°深き30cm 間溝 全周する。(北西コーナ部を除く) 柱穴 4本スクエアに配す。備考 北東コーナをSK089に切られる。ただしカマド脇の穴は貯蔵穴ではないと思われる。遺物 土器器6, 紡錘車1



第102図 S I 040出土土器

No.	器種	寸法 (cm)	形態分類	成・整手形分類	胎土	焼成	色調	出土状態	残存量	備考
1	杯(耳)	12.8 3.4 -	E	a	石英, 小砂粒	良好	褐色	覆土	1/4	内面輝付層
2	杯(耳)	12.3 4.5 -	C	b	石英, 砂粒多	不凡	褐色	床面	1/2	
3	杯(耳)	12.5 4.6 -	D	a	石英, 砂粒やや多	良好	褐色	床面	完形	
4	杯(耳)	13.8 5.1 -	C	c	石英, 砂粒多	良好	褐色	床面	4/5	
5	杯(耳)	12.0 4.6 -	B	b	石英, 砂粒やや多	良好	褐色	床面	2/3	
6	杯(耳)	- - -	C	b	石英, 黒色粒, 砂粒	良好	赤褐色, 内黒色	覆土	2/3	内底

第102表 S I 040土器観察表



第103図 S 1040

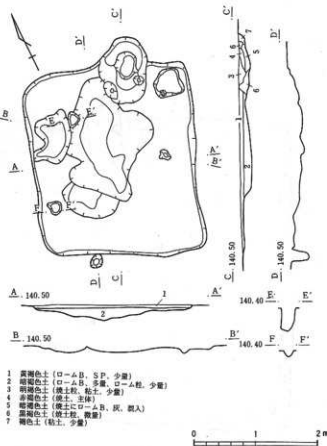
S I 041

位置 南地区D-9グリッド 平面形 3.0×2.7mの長方形 方位 住居：N20°E カマド：N 規模 中 床面 貼床、中央部で顕著である。壁 深さ3～8cmと浅い。壁角度測定不能。 周溝・柱穴 共に認めず。

S I 042

位置 南地区D-9グリッド 平面形 2.9×4.4mの横長方形 方位 住居：N02°E カマド：N 規模 中 床面 貼床 壁 極めて浅い。2～5cm。壁角度測定不能。 周溝・柱穴 共に認めず。

備考 東壁及び南壁中央と西壁脇にピットがあるが埋土が非常に浅いため切り合い判定不能。(壁柱穴の横持柱と出入口施設の可能性?) 遺物 土師器壺1, 須恵器杯1



第104図 S I 041

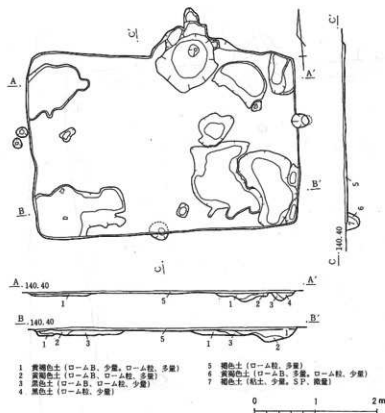


第105図 S I 042出土土器

No.	器名	寸法 (cm)	形制・口径	口径	器高	底径	分類	形制・口径	胎土	焼成	色調	出土状態	数量	備考
1	壺(B)	17.4	—	—	—	—	Ⅱ(口)	a	黄緑, 赤色粒	良好	赤褐色	覆土	1/32	
2	杯(S)	—	—	7.6	—	—	b	黄褐色	良好	青灰色	覆土	1/6		

第43表 S I 042土器観察表





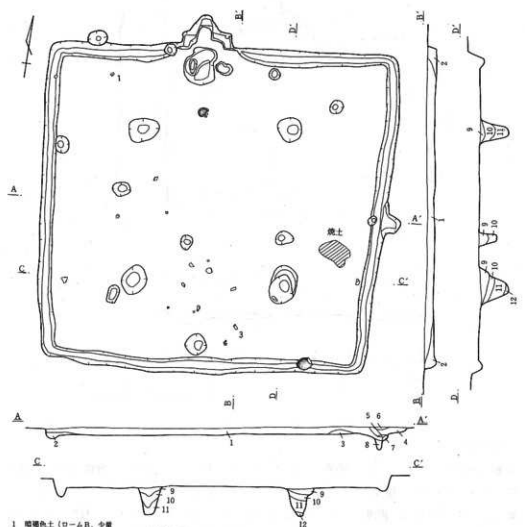
第106図 S I 042

S I 043

位置 南地区F-10グリッド 平面形 5.3×5.6mの若干東西に長い方形。方位 住居：N03°  
 W カマド：N・E 規模 大 床面 ローム地山床 あまり平坦ではないが堅い面を持つ。  
 壁 80~83° 深さ20cm 周溝 全周する。カマド両ソデ下において終了する。柱穴 4本スクエアに配する。南壁近く中央床面にピット1本(出入口施設か?) カマド 北カマド 凸形の掘り方でソデ先端付近の床面にピット2本と焼床が認められる。東カマド コの字形煙道廻り方で周溝を切るピット1本がある。当初東カマドを用いていたが、その後廃棄され北カマドに移したと思われる。遺物 土師器杯2・甕2・瓶1

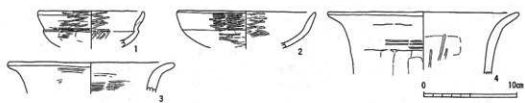
No.	部 種	寸 法 (cm)		形態	感・堅 形・分 類	胎 土	構成	色 調	出土 状態	残 存 量	備 考
		口径	器高								
1	杯(B)	10.3	-	F(1)	a	小砂粒	良好	黒褐色	覆土	1/6	内庫
2	杯(B)	14.8	-	G	a	石英、小砂粒	良好	黒褐色	覆土	1/6	内庫
3	甕(B)	17.8	-	E(2)		石英、雲母	良好	暗褐色	床面	1/32	煤付甕
4	瓶(B)	20.5	-	A(1)	c	石英、小砂粒	良好	淡褐色	覆土	1/28	
5	甕(B)	-	-	A(1)	e	緻密	良好	褐色	覆土	1/8	

第44表 S I 043土器観察表

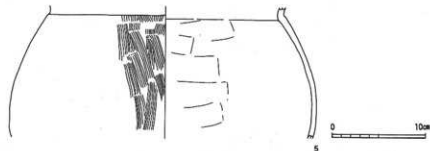


- |                    |                                    |
|--------------------|------------------------------------|
| 1 暗褐色土 (O-A-B, 少量) | 7 暗褐色土 (O-A-B, 少量)                 |
| 2 O-A粒, 少量         | 8 灰褐色土 (O-A粒, 少量)                  |
| 3 褐色土 (O-A粒, 少量)   | 9 褐色土 (O-A粒, 少量)                   |
| 4 暗褐色土 (黏土, 少量)    | 10 暗褐色土 (O-A粒, 少量, O-A-B, 少量)      |
| 5 暗褐色土 (O-A粒, 少量)  | 11 暗褐色土 (O-A-B, O-A粒, 少量)          |
| 6 褐色土 (粘土)         | 12 暗褐色土 (O-A-B, O-A粒, 少量, 褐色土, 少量) |

第107图 S I 043



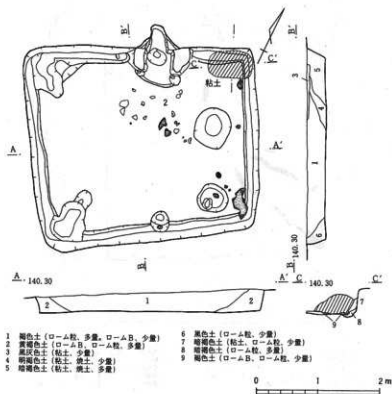
第108图 S I 043出土土器 (1)



第109図 S 1043出土土器 (2)

S 1044

位置 北地区G-10グリッド 平面形 3.3×3.8mの若干東西に長い方形。方位 住居：N33°  
 W カマド：N 規模 中 床面 ロームをもって貼床としている。四隅の床下掘り込み上は黒色土とロームブロックによって貼られている。壁 74~80° 深さ40cm 周溝 全周する。カマド掘り方には接続しない。柱穴 認めず。南壁近く中央床面にピット1本 (出入口施設か?)  
 備考 床面に数カ所性格不明の土坑が認められる。カマド U字形の掘り方で燃焼部付近にかけて浅い窪みとソデ前端に2本のピットが認められる。遺物 土師器類 3



第110図 S 1044



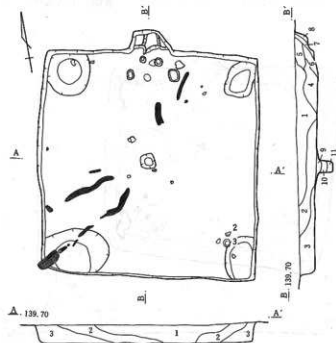
第111図 S I 044出土土器

No.	器種	寸法 (cm)		形態 分類	土質 分類	胎土	焼成 色	調	出土 状態	残存 量	備考
		口径	器高								
1	甕(Ⅱ)	—	7.6			石灰, 小砂粒	良好 暗褐色		覆土	1/18	外裾麻付着
2	甕(Ⅱ)	—	7.0			石灰, 雲母, 小砂粒	良好 褐色		覆土	1/16	外裾麻付着
3	甕(Ⅱ)	20.0	—	G(1)	a	白雲母, 長石	良好 淡褐色		覆土	1/16	

第45表 S I 044土器観察表

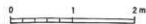
S I 045

位置 北地区H-11グリッド 平面形 3.6m四方の正方形 方位 住居: N11°E カマド: N  
規模 中 床面 平坦なローム地山床 壁 73~84° 深さ24cm 周溝 認めず。柱穴 中央に1  
本あるのみ。備考 四隅に浅い床下掘り込み(4~6cm) 遺物 土師器杯2・甕1



- |                         |                          |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 黄褐色土 (ローム粒, ローム粒, 多量) | 7 黄褐色土 (粘土, 玉砕)          |
| 2 黄褐色土 (ローム粒, ローム粒, 少量) | 8 粘土                     |
| 3 黄褐色土 (ローム粒, ローム粒, 少量) | 9 黄褐色土 (ローム粒, 少量)        |
| 4 黄褐色土 (ローム粒, ローム粒, 少量) | 10 黄褐色土 (ローム粒, 少量)       |
| 5 黄褐色土 (粘土, 少量)         | 11 黄褐色土 (ローム粒, ローム粒, 少量) |
| 6 黄褐色土 (粘土, 玉砕)         |                          |

第112図 S I 045





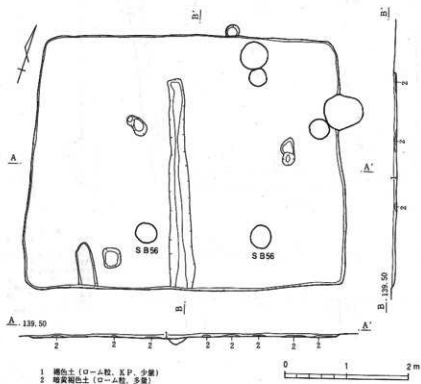
第113図 S I 045出土土器

No.	器種	寸法 (m)		形制・装飾 分類	胎土	構成	色調	出土 状態	残存 量	備考	
		口径	底径								
1	鉢(目)	—	—	6.1	b	石灰、雲母、小砂粒	良好	暗褐色	覆土	1/12	木簡底
2	鉢(目)	14.0	—	F(1)	g	雲母、小砂粒	良好	外暗褐色、内黒色	覆土	2/3	内黒
3	鉢(目)	13.4	4.5	B	g	石灰、炭石、小砂粒	良好	淡褐色	覆土	1/2	

第46表 S I 045土器観察表

S I 046

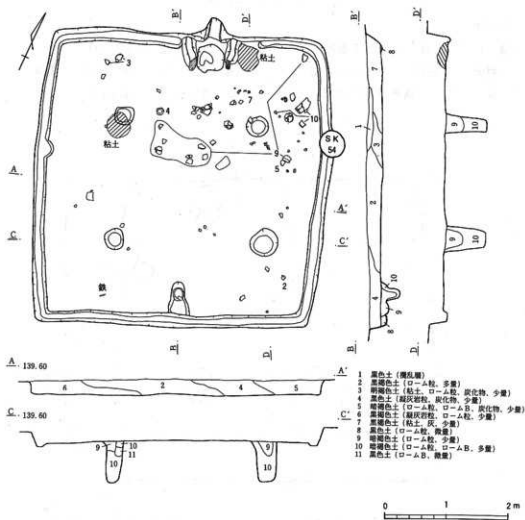
位置 北地区I-11グリッド 平面形 4.1×5.0mの横長方形 方位 住居：N11°E カマド：  
E 規模 大 床面 ローム地山床 壁 深さ3～5cm 浅いため壁角度測定不能。 周溝・柱  
穴 共に認めず。 備考 中央を南北に切る土坑は後世の攪乱である。S B56, ビットに切られ  
る。



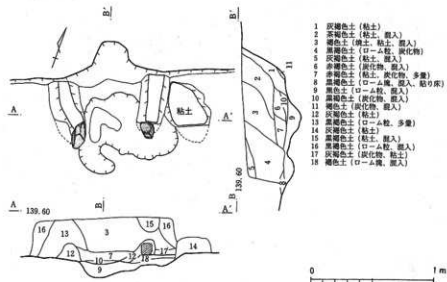
第114図 S I 046

S 1047

位置 南地区 I-12グリッド 平面形 4.7m四方の正方形。 方位 住居：N23°W カマド：N  
 規模 大 床面 ローム地山床で堅い面がある。 壁 80~89°ほぼ垂直 深さ20cm 周溝  
 カマド以外全周する。カマド掘り方に接続せず、手前で終了する。 柱穴 4本スクエアに配す  
 る。 備考 南壁近く中央床面に土坑（出入口施設か？）SB54に切られる。 カマド 煙道部  
 のみ小さな掘り込みで、燃焼部は住居内にある。ソデ前壁に凝灰岩が認められるが、床面にピット  
 はなく、張床に置かれている。右ソデ脇に粘土塊あり。 遺物 土師器杯3・甕3、須恵器  
 杯1・高台付杯3・蓋1、刀子1

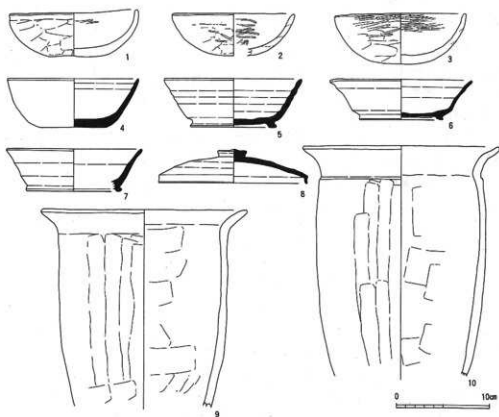


第115図 S 1047



- 1 灰緑色土 (粘土)
- 2 黄褐色土 (粘土、砂入)
- 3 黄褐色土 (粘土、砂土、砂入)
- 4 黄褐色土 (G-△粒、炭化物)
- 5 灰褐色土 (粘土、砂土)
- 6 赤褐色土 (炭化物、砂入)
- 7 赤褐色土 (粘土、炭化物、多量)
- 8 黄褐色土 (G-△粒、砂入、粘り厚)
- 9 黄褐色土 (G-△粒、砂入)
- 10 黄褐色土 (炭化物、砂入)
- 11 黄褐色土 (炭化物)
- 12 灰褐色土 (粘土)
- 13 黄褐色土 (G-△粒、多量)
- 14 灰褐色土 (粘土)
- 15 黄褐色土 (粘土、砂入)
- 16 黄褐色土 (G-△粒、砂入)
- 17 灰褐色土 (炭化物、粘土)
- 18 黄褐色土 (G-△粒、砂入)

第116図 S I 047カマド



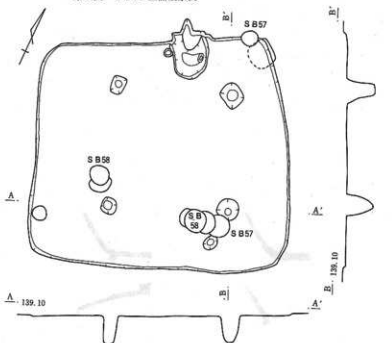
第117図 S I 047出土土器

No.	器種	寸法 (cm)			形態・整 形分類	胎土	焼成	色調	出土 状態	残存 量	備考
		口径	器高	底径							
1	杯(H)	14.2	4.6	6.0	I	h	石英、長石やや多	良好 淡褐色	覆土	完形	
2	杯(H)	13.1	4.4	—	G	a	石英、小砂粒	良好 淡褐色	覆土	1/4	
3	杯(H)	14.2	5.4	—	G	a	石英、輝石、小砂粒	良好 褐色	覆土	完形	
4	杯(S)	14.0	5.2	8.8	B	e	石英、小砂粒	良好 灰白色	床面	2/3	
5	高台(S)	14.8	5.2	9.2	A(I)	f	小砂粒	良好 灰色	覆土	1/2	底部にへう記号
6	高台(S)	15.5	4.4	9.0	A(I)	e	小砂粒	良好 灰白色	覆土	1/2	
7	高台(S)	14.4	4.5	10.0	A(I)	—	石英、小砂粒	良好 灰白色	覆土	1/6	
8	壺(S)	16.0	3.6	—	(L)	a	小砂粒多	良好 青灰色	覆土	1/2	
9	壺(H)	21.8	—	—	DO)	j	石英、砂粒	良好 暗褐色	床面	2/3	外面塗付層
10	壺(H)	21.2	—	—	DO)	j	石英、砂粒	良好 暗褐色	覆土	1/3	口縁部破損

第47表 S I 047土器観察表

S I 048

位置 南地区J-12グ  
リッド 平面形 3.5  
×4.1mの東西に長い  
方形 方位 住居:N  
25° カマド:N 規  
横 中 床面 ローム  
地山床 壁 深さ4~  
5cmと浅いため壁角度  
測定不能。 間溝 認  
めず。 柱穴 4本ス  
クエアに配される。  
備考 S B 57、S B 58  
に切られる。 遺物  
土師器Ⅰ



第118図 S I 048



第119図 S I 048出土土器

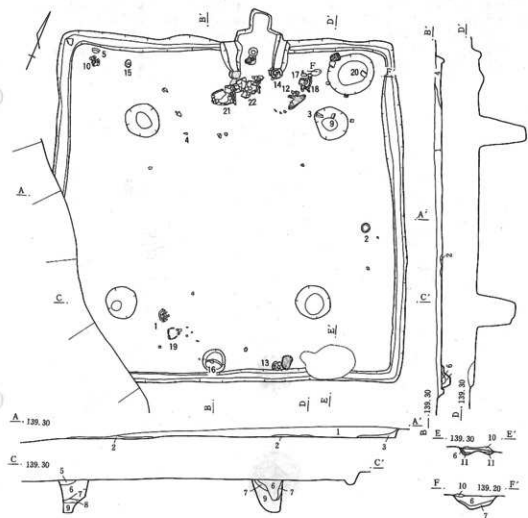
No.	器種	寸法 (cm)			形態・整 形分類	胎土	焼成	色調	出土 状態	残存 量	備考
		口径	器高	底径							
1	甕(H)	19.4	—	—	A	b	石英、小砂粒やや多	良好 褐色	覆土	1/12	

第48表 S I 048土器観察表

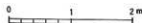


S 1049

位置 南地区J-11グリッド 平面形 5.5m四方の正方形。 方位 住居：N20°W カマド：  
N 規模 大 床面 ローム地山 壁 75° 周溝 南西部において後世の削平により不明であるがカマドを除き全周する。カマドの掘り方には接続しないが、そで下に若干入り込む。 柱穴  
4本スクエアに配され、掘り方が大きい。南壁の中央床面にビット1本（出入口施設が？）



- |                               |                           |
|-------------------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色土 (ローム粒、多量、ロームB、凝灰砂粒、少量) | 7 淡黄褐色土 (ロームB、少量、ローム粒、多量) |
| 2 黄褐色土 (ローム粒、少量)              | 8 淡褐色土 (ローム粒、多量、ロームB、微量)  |
| 3 深褐色土 (ローム粒、少量)              | 9 黄褐色土 (ロームB、少量)          |
| 4 深黄褐色土 (粘土、多量、ローム粒、少量)       | 10 灰白色粘土                  |
| 5 褐色土 (ローム粒、少量、ロームB、微量)       | 11 暗黄褐色土 (ロームB、多量)        |
| 6 暗褐色土 (ロームB、ローム粒、微量)         |                           |

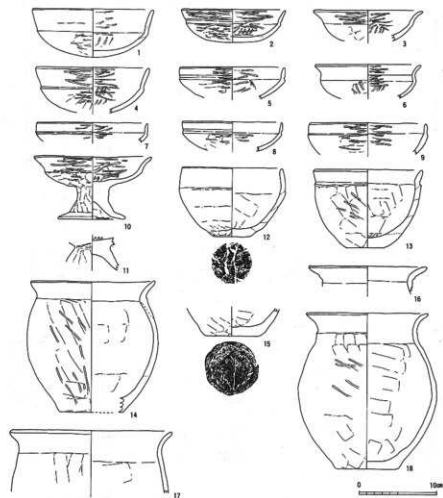


第120図 S 1049

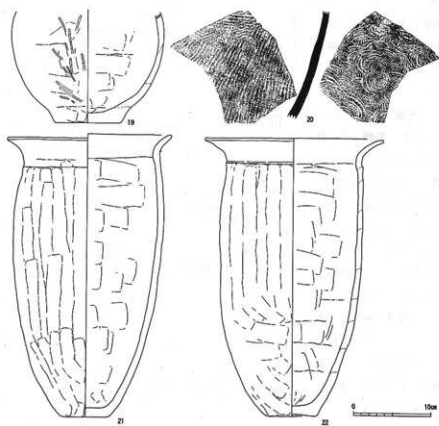
カマド 凸形の掘り方をもち、凝灰岩製の支脚がビットに差し込まれた状態が認められた。また粘土製のソアの前端には凝灰岩と土師器甕が認められ、補強材として用いられている。なお、ソア凝灰岩の下にはビットが認められた。 遺物 土師器環9・高杯2・鉢2・甕8、須恵器甕1

No.	器種	寸法 (cm)	形態	成形 手法	胎土	焼成	色	調	出土 状態	残存 量	備考
1	杯(鉢)	15.8 6.1	— B	c	輝石、砂粒やや多	不良	褐色		破面	2/3	
2	杯(鉢)	13.6 4.1	— B	a	緑泥	良好	褐色		蓋土 完形	1/3	口縁部に接付着
3	杯(鉢)	14.4	— A	b	石英、砂粒やや多	良好	青褐色、内黒色		蓋土 完形	1/3	内黒
4	杯(鉢)	14.8	— B	a	石英、輝石、小砂粒	良好	褐色		破面	1/2	
5	杯(鉢)	15.2	— C	a	石英、輝石、雲母	良好	褐色		蓋土 1/4	1/4	内面接付着
6	杯(鉢)	13.8	— A	c	石英、小砂粒	良好	褐色		蓋土 1/6	1/6	内面接付着

第49表 S1049土器観察表(1)



第121図 S1049出土土器(1)



第122图 S1049出土土器(2)

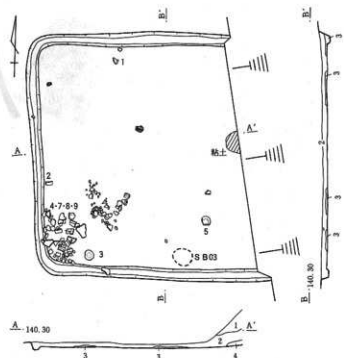
No.	器種	寸法 (cm)	形制分類	坯、整形分類	胎土	焼成色調	出土状態	発見量	備考
7	杯(耳)	14.4	—	C	a	緻密	良好 黒色	覆土 1/8	内庫
8	杯(耳)	13.0	—	C	e	礫石, 小砂粒	良好 褐色	覆土 1/3	
9	杯(耳)	13.8	—	C	a	石灰, 砂粒や砂多	良好 外褐色, 内暗褐色	床面 1/3	
10	高杯(耳)	15.0	8.0 8.6	A	a	石灰, 礫石, 砂粒	良好 褐色	覆土 2/3	非付着
11	高杯(耳)	—	—	—	a	石灰, 砂粒	良好 褐色	覆土 1/8	
12	鉢(耳)	13.0	8.8 5.0	B(2)	f	石灰, 砂粒, 小石	良好 暗褐色	床面 2/3	木炭痕, 輪轆痕
13	甕(耳)	14.0	10.0 4.8	E(2)	a	石灰, 砂粒, 小石	良好 暗褐色	覆土 2/3	外庫, 内底無有り
14	甕(耳)	15.8	16.5 8.0	A(2)	b	石灰, 砂粒多	良好 暗褐色	サマF 2/3	外庫, 内底無有り
15	甕(耳)	—	7.0	—	a	石灰, 小砂粒	良好 褐色	床面 1/12	外庫, 粘土付着
16	甕(耳)	15.4	—	—	—	砂粒多	不良 褐色	サマF 1/24	2次焼成
17	甕(耳)	20.8	—	D	a	小砂粒	良好 褐色	床面 1/18	
18	甕(耳)	15.8	16.9 7.7	A(2)	b	石灰, 砂粒や砂多	良好 褐色	床面 2/3	外庫, 内底無有り
19	甕(耳)	—	8.6	A(2)	b	石灰, 小砂粒	良好 暗褐色	床面 1/3	外面煤付着
20	甕(S)	—	—	—	b	白色砂粒や砂多	良好 青灰色	覆土 破片	
21	甕(耳)	20.8	35.8 6.0	D(1)	a	石灰, 砂粒や砂多	良好 暗褐色	床面 完形	外庫, 粘土付着
22	甕(耳)	23.0	35.6 6.5	D(1)	a	石灰, 砂粒や砂多	良好 暗褐色	床面 完形	外庫, 粘土付着

第50表 S1049土器観察表(2)

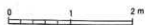
S 1050

位置 南地区H-5グリッド  
 調査区東端、東側の一部は調査  
 区外へ出ている。平面形 一  
 辺が3.8mほどの正方形と推定  
 される。方位 住居：N04°  
 W カマド：E 規模 中 床  
 面 ローム地山床で堅い面がある。  
 壁 深さ10cm内外で浅い  
 ため、壁角度測定不能。隅溝  
 確認できる部分においては全周  
 するも東側は不明。柱穴 認  
 めず。南壁中央付近の床面に  
 ビット1本（出入口施設に伴う  
 ものか？）備考 東壁が調査  
 区外のためカマド調査が不可能  
 であった。S B03を切る。遺

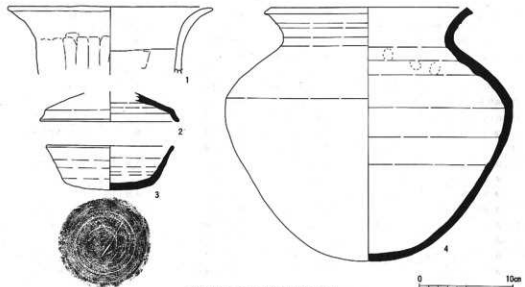
物 土師器杯1・鉢1・甕4、  
 須恵器杯1・甕1・蓋1



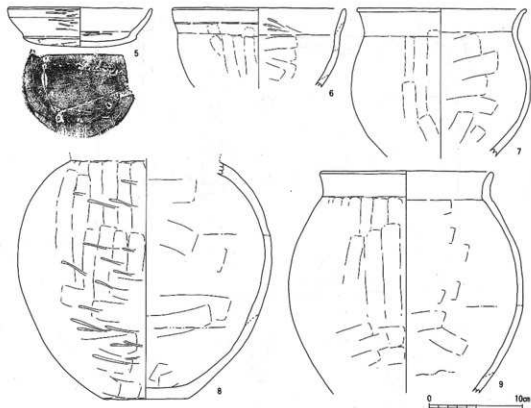
- 1 黒色土（ローム粒、粘土、少量）
- 2 黒褐色土（ローム粒、灰化性、凝灰岩粒、粘土、少量）
- 3 褐色黒色土（ローム粒、多量、一入土、少量）
- 4 灰褐色土（粘土、少量、凝灰性、灰化性、少量）



第123図 S 1050



第124図 S 1050出土土器(1)



第125図 S I 050出土土器(2)

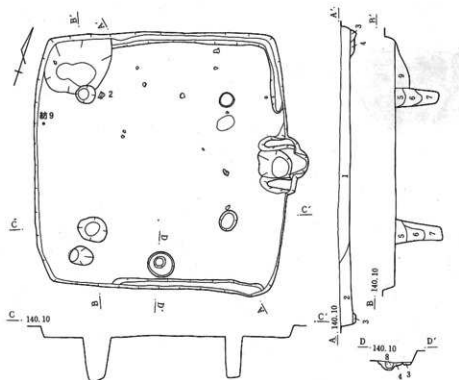
No.	器種	寸法 (cm)		形態 分類	底・胎 土質	胎土	構成 色調	出土 状況	残存 量	備考
		口径	底径							
1	甕(S)	21.6	—	E(1)	a	砂粒、小石	良好 淡褐色	覆土	1/24	2次焼成
2	甕(S)	14.8	—	—	a	緻密	良好 灰白色	覆土	1/6	
3	甕(S)	13.6	4.7	B	c	白色砂粒やや多	良好 暗灰色	床面	完形	
4	甕(S)	22.4	27.0	A	h	白色砂粒、小石	良好 灰白色	床面	1/3	
5	甕(S)	15.4	4.1	F(2)	—	緻密	良好 淡褐色	床面	2/3	口縁部に傷付き
6	甕(H)	18.4	—	D(3)	f	石灰、砂粒やや多	良好 暗褐色	覆土	1/6	
7	甕(H)	18.2	—	A(3)	a	石灰、砂粒やや多	良好 暗褐色	床面	1/4	内縁け集げ有
8	甕(H)	—	9.3	A(1)	a	石灰、砂粒やや多	良好 褐色	床面	2/3	2次焼成
9	甕(H)	18.6	—	A(1)	a	石灰、雲母、砂粒	良好 褐色	覆土	1/2	2次焼成

第51表 S I 050土器観察表

S I 051

位置 南地区D-10グリッド 平面形 4.0m四方の正方形。 方位 住居：N22°W カマド：  
E 規模 中 床面 貼床 壁 67~77° 深さ20cm 周溝 全周しない。西壁付近が認められない。  
カマド掘り方に接続しない。 柱穴 4本スクエアに配す。南壁中央付近の床面にビット1  
本(出入口施設に伴うものか?)。備考 S I 052、S I 054を切る。

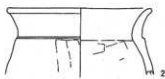
遺物 土器器坏1・薬1、紡錘車1



- 1 黒褐色土 [ローム粒, 炭化物, 少量, I.P. 観察]  
 2 黒褐色土 [ローム粒, 少量]  
 3 黒褐色土 [ローム粒, O-A.B., 少量]  
 4 黒褐色土 [ローム粒, 炭灰の粒, 少量]  
 5 黒色土 [ローム粒, 少量]  
 6 黒褐色土 [ローム粒, 少量]  
 7 黒褐色土 [ローム粒, O-A.B., 少量]  
 8 黒色土 [ローム粒, 少量, I.P. 観察]



第126図 S I 051



第127図 S I 051出土土器

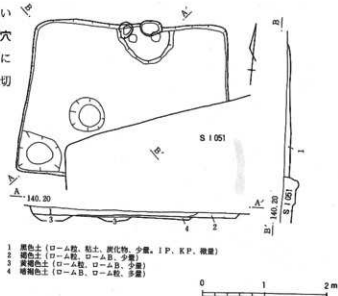
No.	器種	寸法 (cm)	形態	底・底分	胎土	構成	色調	出土状態	発見量	備考
1	杯(日)	12.2	—	E	g	小砂粒	良好 赤褐色	覆土	1/4	
2	碗(日)	15.6	—	D(2)	a	石灰, 小砂粒	良好 褐色	覆土	1/8	

第52表 S I 051土器観察表

S I 052

位置 南地区D-10グリッド 平面形 2.5×3.2mの若干横長の方形と推定される。方位 住居：N 0° カマド：N 規模 小 床面 貼床。カマド付近のみ張床面と同レベルのローム地

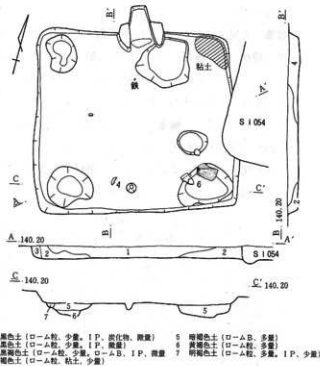
山がある。壁 深さ10-15cm 浅い  
ため壁角度測定不能。周溝・柱穴  
共に認めず。備考 南西コーナーに  
床下掘り込み。S I 051に南東部を切  
られる。



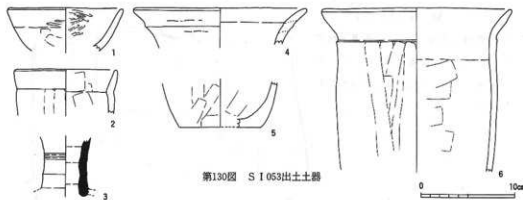
第128図 S I 052

S I 053

位置 南地区C-12グリッド 平面形  
3.0m四方の正方形。方位 住居：  
N17°W カマド：N 規模 中 床  
面 ローム地山 壁 61~75° 深さ  
20cm 周溝・柱穴 共に認めず。四隅  
に床下掘り込みがあり特に北西のものは  
カマド右下に若干入り込む。それぞ  
れは浅い。南壁中央からやや離れたと  
ころにピット1本（出入口施設に伴う  
ものか？）備考 S I 054に切られ  
る。カマド 整美な凸形の掘り方で  
床面に焼跡が見られる。遺物 土師  
器碗1・甕4, 須恵器壺1



第129図 S I 053



第130図 S I 053出土土器

No.	器種	寸法 (cm)	形態	土質	胎土	焼成	色調	出土状態	残存量	備考
1	碗(H)	12.2	—	B	c	砂粒	良好	褐色	覆土	1/5
2	碗(H)	10.9	—	F	a	石英、砂粒やや多	良好	暗褐色	覆土	1/24 2次焼成
3	壺(S)	—	—	A	—	緻密	良好	青灰色	覆土	1/8 自然胎、2本の沈線
4	碗(H)	18.4	—	E(1)	—	砂粒	良好	褐色	床面	1/24
5	碗(H)	—	8.8	—	a	石英、砂粒やや多	良好	褐色	覆土	1/18
6	碗(H)	20.2	—	D(1)	j	石英、砂粒やや多	良好	褐色	覆土	1/6 2次焼成

第53表 S I 053土器観察表

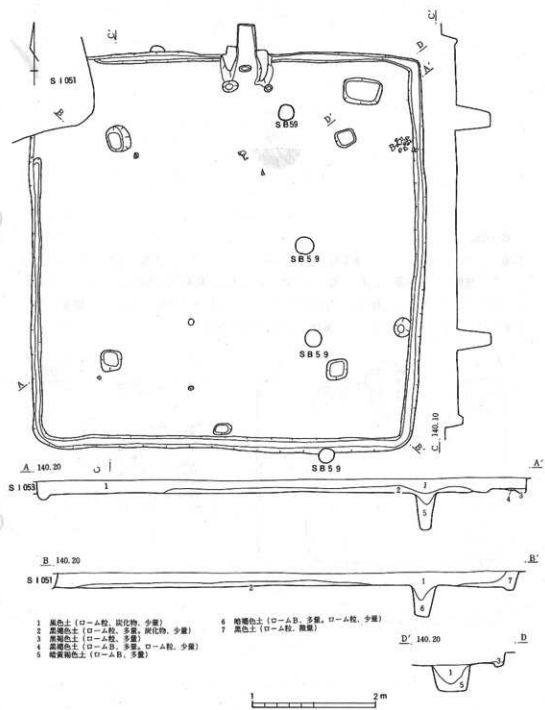
#### S I 054

位置 北地区B-12グリッド 平面形 一辺が6.4mの正方形。方位 住居：N02°E カマド：N 規模 大 床面 ローム地山 壁 80~85° ほぼ垂直。規模の割りには浅い。周溝 全周する。カマド掘り方には接続しない。カマド両ソアの下に若干入り込む。柱穴 4本スクエアに配する。掘り方は方形で深くしっかりしている。南壁中央直下に方形ピット。(出入口施設に伴うものか?) 備考 S I 053を切る。S I 051、S B 59に切られる。カマド 煙道部が長い凸形の掘り方で粘土によるソアと、その前端にピットが2本みられる。燃焼部にはピット1本(支脚用)と焼床が認められる。遺物 土器器杯5・埴1・高坏2・手づくね1・壺1、須臾器高台付杯1

No.	器種	寸法 (cm)	形態	土質	胎土	焼成	色調	出土状態	残存量	備考	
1	杯(H)	15.0	—	A	a	緻密	良好	外赤褐色、内黒色	土坑	1/4 内黒	
2	杯(H)	14.8	—	B	e	小砂粒	良好	褐色	覆土	1/6	
3	杯(H)	16.0	—	E	a	小砂粒	良好	褐色	覆土	1/6	
4	杯(H)	13.3	—	C	c	石英、小砂粒	良好	黒褐色	覆土	1/8 内黒	
5	杯(H)	13.6	3.4	C	d	緻密	良好	外褐色、内黒色	柱穴	1/4 内黒	
6	高台(S)	18.0	4.3	12.8	A(2)	石英、砂粒	良好	灰白色	覆土	1/6	
7	碗(H)	18.6	—	E(2)	a	石英、砂粒やや多	良好	褐色	覆土	1/12 外縁付着	
8	碗(H)	8.4	4.0	4.6	D	b	石英、小砂粒	良好	黒色	覆土	内黒
9	高坏(H)	—	11.8	—	a	石英、小砂粒	良好	褐色	覆土	—	
10	高坏(H)	—	9.0	—	a	石英、小砂粒	良好	赤褐色	床面	内黒	
11	手(H)	—	3.4	—	—	質母、小砂粒	良好	褐色	覆土	1/3	

第54表 S I 054土器観察表

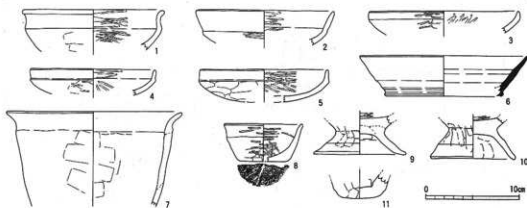




- 1 黒色土 (ロ-A粒, 灰化物, 少量)
- 2 赤褐色土 (ロ-A粒, 少量, 灰化物, 少量)
- 3 黒褐色土 (ロ-A粒, 少量)
- 4 赤褐色土 (ロ-A粒, 少量, ロ-A粒, 少量)
- 5 暗黄褐色土 (ロ-A粒, 少量)

- 6 暗褐色土 (ロ-A粒, 少量, ロ-A粒, 少量)
- 7 黒色土 (ロ-A粒, 少量)

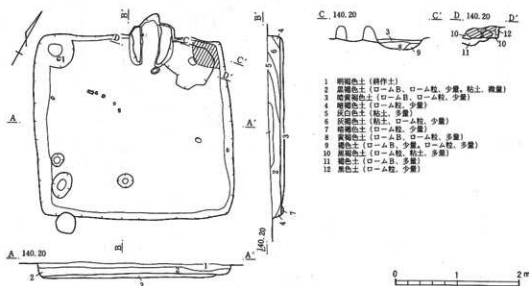
第131図 S 1051



第132図 S I 054出土土器

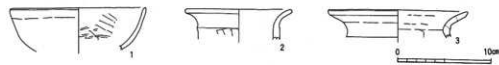
S I 055

位置 南地区C-12グリッド 平面形 3.2×3.0mのほぼ正方形。方位 住居：N34°W カマド：N 規模 中 床面 貼床。壁 78~83° 深さ22cm 周溝 不明瞭ながら北、南、南東コーナー付近に認められる。柱穴 上屋を推測できるような柱穴は認められない。備考 北西、北東コーナー部に床下廻り込み。遺物 土師器焼1・甕2



第133図 S I 055

- C. 140.20 C. D. 140.20 D.
- 1 明褐色土 (粘作土)  
 2 黄褐色土 (ローム粒、ローム粒、少量、粘土、微塵)  
 3 暗褐色土 (ローム粒、ローム粒、少量)  
 4 暗褐色土 (ローム粒、少量)  
 5 灰白色土 (粘土、多量)  
 6 灰白色土 (粘土、ローム粒、少量)  
 7 暗褐色土 (ローム粒、少量)  
 8 黄褐色土 (ローム粒、ローム粒、少量)  
 9 暗褐色土 (ローム粒、少量、ローム粒、多量)  
 10 暗褐色土 (ローム粒、粘土、多量)  
 11 粘土 (ローム粒、少量)  
 12 黒色土 (ローム粒、少量)



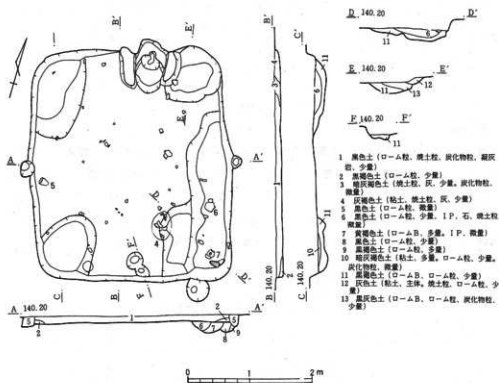
第134図 S I 055出土土器

No.	器種	寸法 (cm)		形類・器 口徑	成・器 分	胎	土	焼成	色	調	出土 状態	残 存 量	備 考
		口径	器高										
1	埴[目]	14.4	—	B	c	石瓦, 小砂粒	良好	褐色			覆土	1/6	
2	埴[目]	11.4	—	D(C)	a	石瓦, 小砂粒	良好	褐色			覆土	1/24	
3	埴[目]	15.0	—	—	—	石瓦, 礫石	良好	暗赤褐色			覆土	1/22	

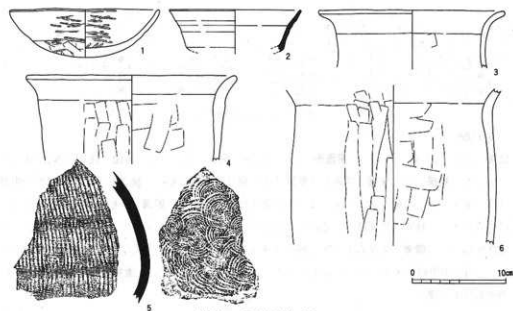
第55表 S I 055土器観察表

S I 056

位置 南地区D-11グリッド 平面形 3.7×3.2mの南北に長い方形 方位 住居: N23°W カ  
マド: N 規模 中 床面 四隅及び壁際の床下掘り込み上に貼床が施されている。なお中央部  
は堅い面をもつ。壁 深さ10cm 浅いため壁角度測定不能。周溝 一般的な周溝としては、  
認められず。柱穴 住居跡内に認められないが、東西壁中央を切る柱穴が棟持柱の壁柱穴の可  
能性が高い。備考 東壁直下の床下掘り込みは帯状を呈し、あたかも大規模な周溝の様相を呈  
する。南壁中央直下床面にピット2本(出入口施設に伴うものか?) 遺物 土師器環1・甕3、  
須恵器環1・甕1



第135図 S I 056



第136図 S1056出土土器

No.	器種	寸法 (cm)		形態 口徑 器高 底徑	成形 手形 分型	胎土	焼成	色調	出土 状態	残存 量	備考
		口徑	器高								
1	杯(H)	16.5	5.2	—	G	石英、赤色粒	良好	外褐色、内暗褐色	壺土	4/5	内面漆付器
2	杯(S)	14.0	—	—	—	白色砂粒やや多	良好	灰色	壺土	1/6	—
3	甕(H)	20.0	—	—	E	小砂粒	良好	褐色	壺土	1/32	2次焼成
4	甕(H)	22.6	—	—	E	石英、小砂粒やや多	良好	好褐色	壺土	1/18	2次焼成
5	甕(S)	—	—	—	—	白色砂粒、小石	良好	黄灰色	壺土	1/16	—
6	甕(H)	—	—	—	a	石英、小砂粒やや多	良好	暗赤褐色	燻土	1/16	2次焼成

第56表 S1056土器観察表

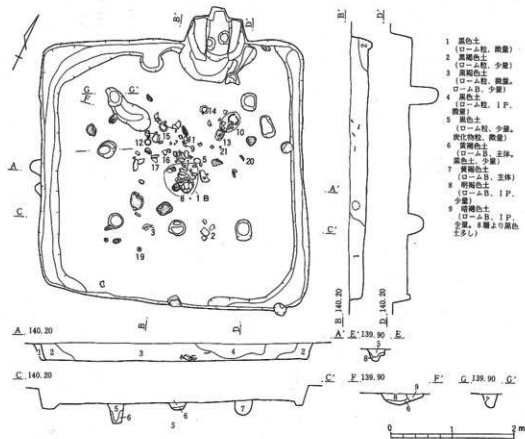
### S1057

位置 南地区D-13グリッド 平面形 東側4.3m 西側4.0m×4.3mの台形 方位 住居：N29°  
W カマド：N 規模 中 床面 ローム地山 壁 65~79° 深さ30cm 周溝 浅く不明瞭ながら認められる。柱穴 4本スクエアに配する。備考 床面に性格不明のビットが数本認められる。カマド 凸形の掘り方で床下に大きな掘り込みをもつ。全体が住居外へ突出するタイプ。

遺物 土師器杯5・甕9、須恵器高台付杯2・甕1・蓋3・砥石1

No.	器種	寸法 (cm)		形態 口徑 器高 底徑	成形 手形 分型	胎土	焼成	色調	出土 状態	残存 量	備考
		口徑	器高								
1	杯(H)	16.6	5.0	—	H	石英、長石、管母	不良	褐色	燻土	2/3	2次焼成
2	杯(H)	15.2	5.2	8.6	I	石英、管母	良好	外褐色 内黒色	壺土	1/3	内底
3	杯(H)	16.6	5.0	—	H	石英、長石、管母	不良	褐色	壺土	1/3	2次焼成
4	杯(H)	15.6	—	—	F(2)	小砂粒	良好	外褐色 内黒色	壺土	1/8	内底
5	杯(H)	13.6	5.0	—	H	石英、長石やや多	良好	褐色	壺土	1/2	—
6	甕(H)	21.0	—	—	E(2)	石英、砂粒	良好	灰白色	壺土	1/6	—
7	甕(H)	24.0	—	—	A(1)	石英、燐石、小砂粒	不良	淡褐色	壺土	1/12	—

第57表 S1057土器観察表(1)



第137図 S I 057

No.	層種	寸法 (m)	形質・ 断面	構成 土	焼成 色調	出土 状態	備考
8	Ⅷ(B)	23.8	— C	b 石灰、小砂粒	良好 黄褐色	覆土	1/16
9	Ⅷ(B)	17.0	— A(1)	a 石灰、赤色粒、砂粒	良好 赤褐色	覆土	1/4
10	Ⅷ(B)	21.2	— E(1)	a 石灰、少砂粒	良好 暗赤褐色	覆土	1/12 外壁付層
11	Ⅷ(B)	—	— 12.4	石灰、砂粒	良好 赤褐色	覆土	1/24
12	Ⅷ(B)	—	— 9.4	少砂粒	良好 黄褐色	覆土	1/24
13	Ⅷ(B)	—	— 5.6	a 石灰、少砂粒	良好 褐色	覆土	1/24 外壁粘土付層
14	Ⅷ(S)	14.6	5.6 A(1)	c 粘土	良好 灰白色	覆土	1/4
15	Ⅷ(S)	—	— 10.8	A(1) c 石灰、赤色粒、砂粒	良好 赤褐色	覆土	1/2 網紋粘土付層
16	Ⅷ(S)	18.6	—	— 石灰、白雲母	良好 灰白色	覆土	1/2
17	Ⅷ(S)	—	—	— e 石灰、白雲母	良好 乳白色	覆土	1/12
18	Ⅷ(B)	20.9	24.0 A(2)	b 石灰、砂粒多	良好 褐色	覆土	2/3 内面側壁
19	Ⅷ(S)	—	— A	— 粘土	良好 青灰色	覆土	1/12 自然釉、2本へ少漏
20	Ⅷ(S)	—	— (4)	a 粘土	良好 青灰色	覆土	1/8
21	Ⅷ(S)	—	— (1)	— 粘土	良好 青灰色	覆土	1/8

第58表 S I 057土器観察表 (2)

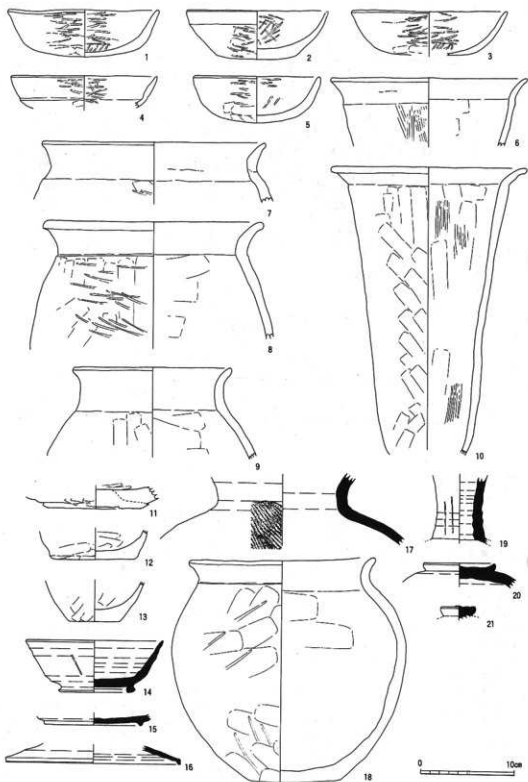


圖138 蘇1057出土土器